



Business Intelligence 起動パッドユーザガイド

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.0 Support Package 5

2012-12-05

著作権

© 2012 SAP AG. All rights reserved. SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP BusinessObjects Explorer、StreamWork、SAP HANA、および本文書に記載されたその他の SAP 製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々における SAP AG の商標または登録商標です。Business Objects および Business Objects ロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他の Business Objects 製品およびサービス、ならびにそれぞれのロゴも含めて、Business Objects Software Ltd. の商標または登録商標です。Business Objects は SAP の子会社です。Sybase および Adaptive Server、iAnywhere、Sybase 365、SQL Anywhere、および本書で引用されている Sybase 製品およびサービス、ならびにそれぞれのロゴも含めて、Sybase, Inc. の商標または登録商標です。Sybase は SAP の子会社です。Crossgate、m@gic EDDY、B2B 360°、B2B 360° Services は、ドイツおよびその他の国々における Crossgate AG の登録商標です。Crossgate は SAP の子会社です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2012-12-05

目次

第 1 章	ドキュメント履歴.....	9
第 2 章	はじめに.....	11
2.1	このドキュメントについて	11
2.2	このドキュメントの対象読者.....	11
2.3	BI 起動パッドとは.....	11
2.4	BI 起動パッドの新機能.....	12
2.5	ライセンス.....	13
2.6	開始前の準備.....	13
2.6.1	基本概念.....	13
2.6.2	主要タスク.....	14
第 3 章	BI 起動パッド基本.....	17
3.1	ユーザインタフェース.....	17
3.1.1	ヘッダー パネル.....	17
3.1.2	ホームタブ	17
3.1.3	ドキュメントタブ.....	18
3.1.4	タブ	21
3.2	BI 起動パッドにログオンする.....	21
第 4 章	基本設定の設定.....	23
4.1	基本設定の設定.....	23
4.1.1	全般基本設定を設定する.....	23
4.1.2	パスワードを変更する.....	24
4.1.3	優先表示ロケール.....	25
4.1.4	Crystal レポートの表示の基本設定を設定する.....	26
4.1.5	BI ワークスペースの基本設定を設定する.....	27
4.1.6	Analysis edition for OLAP の基本設定を設定する.....	27
4.1.7	Web Intelligence 基本設定.....	27
第 5 章	オブジェクトの表示.....	35
5.1	オブジェクトの表示.....	35

5.1.1	オブジェクトを表示する.....	35
5.1.2	将来表示するためにタブをピン留めする.....	36
5.2	Crystal レポートの表示.....	37
5.2.1	Crystal レポートビューア.....	37
5.2.2	Crystal レポートビューアのツールバー.....	41
5.2.3	SAP Crystal Reports ビューア 2011.....	42
5.2.4	Crystal レポートデータをドリルダウンする.....	43
5.2.5	Crystal レポートにアラートを表示する.....	43
5.2.6	Web ビューアで Crystal レポートのパラメータを表示および編集する.....	43
5.2.7	Crystal レポートを印刷する.....	44
5.2.8	Crystal レポートをエクスポートする.....	45
5.2.9	データをインタラクティブに並べ替える.....	46
5.3	Web Intelligence ドキュメントの表示.....	46
5.3.1	Web Intelligence ビューアツールバー.....	46
5.3.2	ナビゲーションマップを表示する.....	48
5.3.3	ユーザプロンプトを表示する.....	48
5.3.4	テキストを検索する.....	48
5.3.5	ドキュメントデータをドリルする.....	49
第 6 章	オブジェクトの使用.....	51
6.1	BI 起動パッドでのオブジェクトの管理.....	51
6.2	BI 起動パッドでの新規オブジェクトの作成と追加.....	51
6.3	BI 起動パッドへのオブジェクトの追加.....	52
6.3.1	マシンから BI 起動パッドにドキュメントを追加する.....	52
6.4	オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理.....	53
6.4.1	リポジトリのオブジェクトの並べ替えまたはフィルタ処理.....	53
6.5	オブジェクトのプロパティを設定する.....	54
6.6	オブジェクトをコピーする.....	54
6.7	オブジェクトを移動する.....	55
6.8	オブジェクトへのショートカットを作成する.....	55
6.9	オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する.....	55
6.10	オブジェクトの OpenDocument リンクを作成する.....	57
6.11	オブジェクトを削除する.....	57
6.12	ハイパーリンクを作成する.....	57
6.13	BI 起動パッドでの検索.....	58
6.13.1	プラットフォーム検索機能.....	58
6.13.2	検索対象.....	59
6.13.3	検索テクニック.....	61
6.13.4	BI 起動パッドで検索を実行する.....	63
6.14	フォルダとカテゴリ.....	64
6.14.1	フォルダまたはカテゴリを作成する.....	65

6.14.2	フォルダまたはカテゴリのプロパティを設定する.....	65
6.14.3	フォルダへのオブジェクトの追加.....	66
6.14.4	オブジェクトをカテゴリに割り当てる.....	66
第 7 章	オブジェクトのスケジュール.....	67
7.1	オブジェクトのスケジュール.....	67
7.2	オブジェクトをスケジュールする.....	67
7.2.1	スケジュール済みのインスタンスのタイトルを設定する.....	68
7.2.2	定期スケジュールパターンを選択する.....	69
7.2.3	データベースログオン情報を指定する.....	70
7.2.4	インスタンス形式を指定する.....	70
7.2.5	出力先を指定する.....	77
7.2.6	レコード選択式を適用する.....	82
7.2.7	Crystal レポートの印刷設定を設定する.....	83
7.2.8	パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする.....	83
7.2.9	イベントでオブジェクトをスケジュールする.....	84
7.2.10	スケジューリングサーバグループを設定する.....	84
7.2.11	Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する.....	85
7.2.12	レポートインスタンスの言語を選択する.....	86
7.3	インスタンスの一時停止および再開.....	86
7.3.1	インスタンスを一時停止する.....	86
7.3.2	一時停止したインスタンスを再開する.....	87
7.4	オブジェクトパッケージのスケジュール.....	87
7.4.1	オブジェクトパッケージをスケジュールする.....	87
7.5	インスタンスの使用.....	88
7.5.1	オブジェクトの最新のインスタンスを表示する.....	88
7.5.2	履歴インスタンスの表示.....	88
7.5.3	BI 受信トレイを空にする.....	89
第 8 章	StreamWork の使用.....	91
8.1	SAP StreamWork の使用.....	91
8.1.1	フィードの操作.....	91
8.1.2	ドキュメントのフィードの使用.....	92
第 9 章	ディスカッションの使用.....	95
9.1	ディスカッション.....	95
9.1.1	ディスカッションを開く.....	95
9.1.2	メモを追加する.....	96
9.1.3	メモを編集する.....	96
9.1.4	メモに返信する.....	96

9.1.5	メモを削除する.....	97
第 10 章	公開.....	99
10.1	公開について.....	99
10.2	パブリケーションとは.....	99
10.3	パブリケーションの概念.....	99
10.3.1	レポートバースト.....	100
10.3.2	配信ルール.....	101
10.3.3	動的受信者.....	103
10.3.4	出力先.....	104
10.3.5	パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ.....	107
10.3.6	電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ.....	109
10.3.7	形式.....	109
10.3.8	パーソナライゼーション.....	111
10.3.9	パブリケーション拡張.....	112
10.3.10	購読.....	113
10.3.11	Crystal レポート向け PFD のマージ.....	113
10.4	公開に必要な権限.....	114
10.4.1	公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権.....	116
第 11 章	パブリケーションの使用.....	117
11.1	パブリケーションのデザイン.....	117
11.1.1	SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションのデザイン.....	117
11.1.2	SAP 受信者用パブリケーションの設計.....	117
11.1.3	CMC で新しいパブリケーションを作成する.....	118
11.1.4	BI 起動パッドで新しいパブリケーションを作成する.....	118
11.1.5	既存のパブリケーションを開く.....	118
11.1.6	新規パブリケーションに一般プロパティを入力する.....	119
11.1.7	ソースドキュメントを選択する.....	119
11.1.8	Enterprise 受信者を選択する.....	120
11.1.9	動的受信者を指定する.....	121
11.1.10	パブリケーションの出力先を指定する.....	122
11.1.11	パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ.....	123
11.1.12	電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ.....	124
11.1.13	動的コンテンツソースドキュメントを電子メールに埋め込む.....	124
11.1.14	スケジュール情報を指定する.....	126
11.1.15	Crystal レポートパブリケーションの設計タスク.....	126
11.1.16	Web Intelligence ドキュメントパブリケーションの設計タスク.....	133
11.1.17	追加のパブリケーション機能の使用.....	134
11.2	パブリケーションのデザイン後のタスク.....	143
11.2.1	パブリケーションの最終処理.....	143

11.2.2	パブリケーションをテストする.....	143
11.2.3	パブリケーションを購読または購読解除する.....	144
11.2.4	パブリケーションの実行をスケジュールする.....	144
11.2.5	パブリケーション結果の表示.....	145
11.2.6	パブリケーションインスタンスを再配布する.....	148
11.2.7	失敗したパブリケーションを再試行する.....	149
11.3	パブリケーションパフォーマンスの向上.....	149
11.3.1	ソースドキュメントの追加に関する推奨事項.....	151
11.3.2	動的受信者ソースの使用に関する推奨事項.....	152
11.3.3	電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項.....	153
第 12 章	アラートの使用.....	155
12.1	アラート.....	155
12.1.1	アラートオブジェクトソース.....	155
12.1.2	アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点.....	156
12.1.3	アラートワークフロー.....	157
12.1.4	アラートに必要な権限.....	157
12.2	アラートタスク.....	160
12.2.1	BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索.....	160
12.2.2	アラートを購読する.....	160
12.2.3	アラートを購読解除する.....	161
12.2.4	ほかのユーザをアラートの購読者として指定する.....	161
12.2.5	ユーザをアラートから除外する.....	162
12.2.6	アラートソースのアラート設定を管理する.....	163
12.2.7	アラート通知の表示.....	163
第 13 章	アプリケーションの使用.....	165
13.1	BI 起動パッドでのアプリケーションの使用.....	165
13.2	BI 起動パッドでアプリケーションを起動する.....	165
13.3	BI 起動パッドでの BEx Web アプリケーション.....	165
13.3.1	BI 起動パッドで Business Explorer Web アプリケーションにアクセスする.....	166
13.3.2	Business Explorer Web アプリケーションをブックマークとして保存する.....	167
付録 A	より詳しい情報.....	169
	索引.....	171

ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0	2011 年 5 月	このドキュメントの初版です。
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 機能パック 3	2012 年 2 月	<p>SAP StreamWork により、ソーシャルメディア機能およびコラボレーション機能が BI 起動パッドに追加されました。</p> <p>パーソナライズプレースホルダがパブリケーション出力先に追加されました。</p> <p>出力先を指定する際にパブリケーションの各ソースドキュメントに一意の名前を割り当てることができるようになりました。</p> <p>電子メールが出力先の場合に BCC (非公開) 受信者を指定できるようになりました。</p>
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 サポートパッケージ 5	2012 年 11 月	SAP BusinessObjects Business Intelligence ソフトウェアへの Windows ショートカットメニューが変更されました。新しいショートカットメニューは、[スタート] > [すべてのプログラム] > [SAP Business Intelligence] にあります。

はじめに

2.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、BI プラットフォームと BI 起動パッドの使用に関する情報と手順を示します。

BI 起動パッドは Web ブラウザで実行され、BI プラットフォームでオブジェクトを使用する場合の主要なインタフェースです。管理者は、BI プラットフォームプラグインコンポーネントから作成された Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメントなど、さまざまな種類のオブジェクトをデプロイできます。BI 起動パッドを使用して、ユーザのニーズに合わせてこれらのオブジェクトを表示、整理、操作します。

注

BI 起動パッドの表示や機能はカスタマイズできるため、実際のユーザインタフェースは、このドキュメントと異なる場合があります。それでも、ほとんどの内容をユーザインタフェースに適用することができます。

2.2 このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、BI プラットフォームおよび BI 起動パッドを使用して Web を介したオブジェクト操作を行うユーザを対象としています。

BI プラットフォームの詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にある『Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』および『Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』の PDF バージョンを参照してください。

2.3 BI 起動パッドとは

BI プラットフォームには BI 起動パッドが付属しています。BI 起動パッドは、会社のビジネス情報への窓口として機能する Web アプリケーションです。BI 起動パッドでは、次のタスクを実行できます。

- ・ Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、およびその他のオブジェクトにアクセスし、それらを目的に合わせて構成する。
- ・ 情報を Web ブラウザで表示し、他のビジネスアプリケーション (Microsoft Excel や SAP StreamWork など) にエクスポートし、指定した場所に保存する。
- ・ アナリティクスツールを使用して、ビジネス情報を詳細に調査する。

BI 起動パッドの機能はコンテンツタイプによって異なります。BI 起動パッドでは、ライセンスに応じてさまざまなアプリケーションを利用できます。導入している BI プラットフォームデプロイメントの機能については、システム管理者に確認してください。

関連項目

- ・ 165 ページの[BI 起動パッドでのアプリケーションの使用](#)

2.4 BI 起動パッドの新機能

SAP StreamWork との統合

SAP StreamWork を BI 起動パッドに統合することで、BI 起動パッドにソーシャルメディア機能とアクティビティコラボレーション機能が追加され、ユーザおよびユーザのアクティビティをフォローする SAP StreamWork ユーザとの接続を維持できます。BI 起動パッドのホームタブに SAP StreamWork のフィードモジュールを表示するようにカスタマイズできます。

[ドキュメント] タブで、パブリックドキュメントについて投稿されたコメントをリアルタイムで追跡することができます。[詳細] をクリックして、ディスカッションの監視、投稿されたコメントへの返信、更新の提供、新しいディスカッションの開始に使用するフィードパネルを開きます。

SAP StreamWork に送信された Crystal レポートと Web Intelligence ドキュメントはアクティビティに埋め込まれるため、フィードバックの収集、賛成/反対テーブルでの結果追跡、および SWOT 分析または責任マトリックスの適用が可能になります。

SAP StreamWork は、スケジュールされているインスタンスや履歴のインスタンスの出力先として使用可能です。ドキュメントの送信時に、新しいアクティビティを作成して参加者を招待できます。

出力先のパーソナライズされたプレースホルダ

デフォルトの Enterprise の場所を除くすべての出力先に対して、パーソナライズしたプレースホルダをパブリケーションで使用できます。パーソナライズされたパラメータを設定している場合は、[選択した出力先のオプションを表示] の [出力先] ページで、名前、電子メール件名、および電子メールメッセージのパーソナライズされたパラメータが [プレースホルダの追加] リストに表示されます。

パーソナライズされた各パラメータには、特定の受信者に対してソースドキュメントをフィルタリングするために使用した値が表示されます。パブリケーションの名前にパーソナライズされたプレースホルダがある場合、パブリケーションデータはフィルタされていることを意味します。複数バージョンのレポートやドキュメントを受信する受信者は、ドキュメントを開くことなく各バージョンの一意のコンテンツを識別できます。

パブリケーションを個別ドキュメント名に送信する

出力先を指定する際、パブリケーションの各ソースドキュメントに一意の名前を割り当てることができます。ソースドキュメントに名前を付ける場合、1 つ以上のプレースホルダを選択してテキストを入力するか、テキストとプレースホルダの組み合わせを使用します。

BCC

オブジェクトまたはインスタンスの送信用、公開用、またはスケジュール用の出力先として電子メールを選択した場合に、[BCC] ボックスに非公開の受信者を指定できるようになりました。

関連項目

- ・ 78 ページの「[出力先オプション](#)」
- ・ 123 ページの「[パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ](#)」
- ・ 91 ページの「[SAP StreamWork の使用](#)」

2.5 ライセンス

BI プラットフォームでは、以下のタイプのユーザライセンスをサポートしています。

- ・ BI ビューア
- ・ BI アナリスト
- ・ 同時接続ユーザ
- ・ 指定ユーザ

ライセンスタイプによって、特定のタスクとアプリケーションに対するアクセスが許可または制限されます。お持ちのライセンスによって、特定のアプリケーションへのアクセス、新しいコンテンツの作成、リポジトリへのドキュメントの追加ができないことがあります。お持ちのライセンスについては、システム管理者に問い合わせてください。ライセンスの詳細については、SAP ヘルプポータルにある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』(<http://help.sap.com>) を参照してください。

2.6 開始前の準備

2.6.1 基本概念

始める前に、BI 起動パッドの基本概念を一読してください。実行するタスクによって、これらの概念が該当しないことがあります。

オブジェクト

オブジェクトは、BI プラットフォームまたはその他のソフトウェアで作成され、BI プラットフォームリポジトリに保存され管理されるドキュメントまたはファイルです。

カテゴリ

カテゴリは、フォルダの代替となる組織的な構成です。オブジェクトの分類に使用します。

スケジュール

スケジュールは、指定した時間に自動的にオブジェクトを実行するプロセスです。スケジュールによって、オブジェクト内の動的コンテンツまたはデータの最新表示、インスタンスの作成、インスタンスのユーザへの配布、ローカルへの保存が実行されます。

イベント

イベントは、BI プラットフォームシステム内のオカレンスを表すオブジェクトです。イベントは、次のようなさまざまな目的に使用できます。

- ・ スケジュールされたジョブの実行後にアクションをトリガする、スケジュール依存関係として動作する。
- ・ アラート通知をトリガする。
- ・ BI プラットフォームのパフォーマンスを監視する。

カレンダー

カレンダーは、スケジュールされたジョブの実行日をカスタマイズしたリストです。

インスタンス

インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのスナップショットです。

公開

公開は、パーソナライズした動的コンテンツを大量消費するために一般に公開するプロセスです。

プロフィール

プロフィールは、ユーザおよびグループをパーソナライズした値に関連付けるオブジェクトです。プロフィールは、パーソナライズしたコンテンツを作成し、受信者に配布するために、公開に使用します。

アラート

アラートは、BI プラットフォームでイベントが発生するとユーザおよび管理者に通知するプロセスです。

2.6.2 主要タスク

この節では、BI 起動パッドで実行できる主なタスクが示し、これらのタスクの情報を含むトピックを説明しています。

BI 起動パッドでオブジェクトを表示するには
「オブジェクトの表示」の章を参照してください。

BI 起動パッドでオブジェクトを追加するには
「BI 起動パッドへのオブジェクトの追加」の章を参照してください。

追加したオブジェクトを変更および管理するには
「BI 起動パッドでのオブジェクトの管理」の章を参照してください。

コンテンツをユーザに配布するには

コンテンツは、スケジュール、公開、およびアラートを使用してユーザに配信できます。

SAP StreamWork でコンテンツを使用するには

「SAP StreamWork の使用」の章を参照してください。

個人用の環境を設定するには

「基本設定の設定」の章を参照してください。

関連項目

- ・ 35 ページの[オブジェクトの表示](#)
- ・ 52 ページの[BI 起動パッドへのオブジェクトの追加](#)
- ・ 51 ページの[BI 起動パッドでのオブジェクトの管理](#)
- ・ 67 ページの[オブジェクトのスケジュール](#)
- ・ 91 ページの[SAP StreamWork の使用](#)
- ・ 23 ページの[基本設定の設定](#)

BI 起動パッド基本

3.1 ユーザインタフェース

3.1.1 ヘッダー パネル

ヘッダパネルでは、BI 起動パッドにログオンしているユーザアカウント名が表示され、次のメニューにアクセスできます。

- ・ [アプリケーション]: BI ワークスペースなど、BI 起動パッドにプラグインするアプリケーションにアクセスできます。使用できるアプリケーションは、アクセス権限とライセンスによって異なります。
- ・ [基本設定]: BI 起動パッドでの情報の表示方法を設定します。
- ・ [ヘルプ] メニュー: 『BI 起動パッドのヘルプ』、および製品情報を含む [バージョン情報] ページにアクセスできます。

BI 起動パッドからログオフするには、[ログオフ] をクリックします。

関連項目

- ・ 18 ページの [ドキュメントタブ](#)

3.1.2 ホームタブ

[ホーム] タブには、ドキュメントや BI 起動パッド機能の管理に使用する以下のデフォルトモジュールが含まれます。

- ・ 最近表示したドキュメント: 最近表示したドキュメント 10 件が、最も新しい表示日付のドキュメントが最上段に表示されるようにソートされて一覧にされます。
- ・ マイ受信ボックスの未読メッセージ数: BI 受信ボックスにおける最近の未読メッセージ 10 件が一覧にされます。

すべてのメッセージを表示するには、モジュールの右下隅にある [その他を表示] をクリックします。

- ・ 最近実行したドキュメント: スケジュールまたは実行したリポジトリの最近のドキュメント 10 件が、それぞれのドキュメントインスタンスのステータスとともに表示されます。

成功したインスタンス、または失敗したインスタンスの詳細を表示するには、インスタンスリンクをクリックします。

- ・ 未読アラート: 最近の未読アラート通知 10 件が表示されます。
すべてのアラート通知を表示するには、モジュールの右下隅にある [その他を表示] をクリックします。
- ・ マイアプリケーション: BI 起動パッドにおけるアプリケーションへの迅速なアクセスを提供します。

カスタムホームタブ

システム管理者は、ユーザやグループに対し、カスタマイズされたダッシュボード、よく使用する Crystal レポート、Web サイト、SAP StreamWork モジュールなどのオブジェクトを含むカスタムホームタブを作成できます。

適切なアクセス権がある場合、カスタムホームタブを BI 起動パッドの基本設定で上書きできます。

SAP StreamWork ホームタブ

BI 起動パッドが SAP StreamWork と統合されており、管理者がカスタムホームタブを作成していると、SAP StreamWork の [フィード] パネルが BI 起動パッドで使用できます。パネルを使用して、フィードを表示したり、フィードに参加したりすることができます。

関連項目

- ・ 23 ページの[全般基本設定を設定する](#)
- ・ 91 ページの[SAP StreamWork の使用](#)

3.1.3 ドキュメントタブ

[ドキュメント] タブを使用して、リポジトリのオブジェクトを表示および管理します。

3.1.3.1 ツールバー

ツールバーには、オブジェクトの表示および管理に使用する次のメニューが表示されます。

- ・ [表示]: オブジェクト、オブジェクトの最新インスタンス、およびオブジェクトプロパティの表示に使用します。
- ・ [新規]: ドキュメントのアップロード、および次のタイプの新規オブジェクトの作成に使用します。
 - ・ パブリケーション
 - ・ ハイパーリンク
 - ・ フォルダ
 - ・ カテゴリ

- ・ [整理]: オブジェクトのショートカットの管理、オブジェクトのカット、コピー、ペースト、および削除に使用します。
- ・ [送信]: オブジェクトを出力先に送信します。出力先は設定により異なります。
- ・ [その他のアクション]: 次のタスクの実行に使用します。
 - ・ オブジェクトをスケジュールする
 - ・ オブジェクトをカテゴリに追加する
 - ・ オブジェクトが属しているカテゴリを表示する
 - ・ オブジェクトに OpenDocument リンクを作成する
 - ・ オブジェクトの履歴を表示する

使用できるアクションは、オブジェクトタイプおよびアクセス権限により異なります。

- ・ [詳細]: クリックして [詳細] パネルの表示/非表示を切り替えます。

SAP StreamWork が BI 起動パッドに統合されている場合、クリックしてドキュメントの [フィード] パネルの表示/非表示を切り替えます。

関連項目

- ・ 20 ページの[詳細パネル](#)
- ・ 92 ページの[ドキュメントのフィードの使用](#)

3.1.3.2 ナビゲーション パネル

ナビゲーションパネルには、BI プラットフォームのフォルダおよびカテゴリの最上位のビューが表示されます。

関連項目

- ・ 19 ページの[ドロワ](#)

3.1.3.3 ドロワ

ドロワはナビゲーションパネル上で拡張できるペインです。次のドロワを使用できます。

- ・ [マイドキュメント]: ユーザのお気に入りフォルダ、BI 受信ボックス、警告通知、および個人用カテゴリが表示されます。
- ・ [フォルダ]: リポジトリのフォルダビューが表示されます。
- ・ [カテゴリ]: リポジトリのカテゴリビューが表示されます。
- ・ [検索]: 検索オプションと検索結果が表示されます。

ユーザのアクセス権限によっては、ドロワでオブジェクトが表示されない場合があります。

関連項目

- ・ 19 ページの[ナビゲーション パネル](#)

3.1.3.4 一覧パネル

一覧パネルには、フォルダまたはカテゴリにあるオブジェクトの一覧ビューが表示されます。

3.1.3.5 詳細パネル

[詳細] パネルには、オブジェクトに関する概要情報が表示されます。

SAP StreamWork が BI 起動パッドに統合されている場合、このパネルは [フィード] と呼ばれ、投稿されたコメントが表示されます。

詳細パネルを開く

[詳細] パネルを表示するには、ドキュメントを選択し、ツールバーの [詳細] をクリックします。[詳細] ウィンドウの右側に開きます。

ドキュメントのフィードパネルを開く

[StreamWork] タブをクリックして [フィード] パネルを開きます。[フィード] パネルを初めて開く場合、コメントは表示されません。

[フォロー] をクリックして、ドキュメントの [フィード] パネルで公開された更新を受信します。[発言してください] ボックスにコメントまたは質問を入力してディスカッションを開始することができます。

概要詳細

概要詳細には、オブジェクトに関する次の情報が含まれています。

- ・ 所有者
- ・ 説明
- ・ オブジェクトタイプ
- ・ インスタンスの数
- ・ 前回実行した日付 (スケジュール可能なオブジェクト)

ディスカッションが有効な場合、[詳細] パネルに投稿されたコメントが表示されます。デフォルトでは、ディスカッションは無効です。詳細については、システム管理者に問い合わせてください。

関連項目

- ・ 92 ページの[ドキュメントのフィードの使用](#)

3.1.4 タブ

タブには、1 つの Web ブラウザウィンドウに複数のページおよびドキュメントが表示されます。BI 起動パッドには、[ホーム] タブと [ドキュメント] タブの 2 つのデフォルトタブがあります。オブジェクトおよびアプリケーションは個別のタブで開かれます。

注

ドキュメント表示の基本設定でオブジェクトをウィンドウで開くように設定すると、オブジェクトはタブではなくウィンドウで開かれます。

ヒント

より大きな表示エリアにドキュメントを表示するには、ウィンドウの右上隅にある [最大化] ボタンをクリックします。

3.2 BI 起動パッドにログオンする

BI 起動パッドを使用するには、以下のいずれかの Web ブラウザをコンピュータにインストールする必要があります。

- ・ Microsoft Internet Explorer
- ・ Firefox
- ・ Safari (Macintosh)

- 1 Web ブラウザで、BI 起動パッドの URL「`http://webserver:portnumber/BOE/BI/`」を入力します。

webserver を Web サーバの名称に、portnumber を BI プラットフォームのポート番号に置き換えます。

システム管理者が BI 起動パッドのカスタム URL を設定している場合、管理者に Web サーバの名称、ポート番号、または URL を問い合わせる必要がある場合があります。

ヒント

BI プラットフォームクライアントツールが Windows にインストールされている場合、BI 起動パッドにより素早くログオンするには、[スタート] > [プログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI 起動パッド] の順にクリックします。

デフォルトでは、システム名を入力する必要はありません。ただし、一部のエンタープライズシステムではシステム名の入力が必要される場合があります。

- 2 入力を要求されたら、[システム] ボックスに Central Management Server (CMS) の名前を入力します。
- 3 [ユーザ名] ボックスと [パスワード] ボックスに、ログオン認証情報を入力します。

デフォルトでは、認証の種類の選択は要求されません。ただし、一部のエンタープライズシステムではシステム名の入力が必要される場合があります。

- 4 選択を要求されたら、[認証] リストで認証の種類を選択します。

Enterprise 認証は、デフォルトの認証方法です。LDAP、Windows AD、Windows NT、およびその他のサードパーティの認証の種類には、特別な設定が必要です。使用する認証の種類が不明な場合は、システム管理者にお問い合わせください。認証の種類に関する詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

- 5 [ログオン] をクリックします。

BI 起動パッドの起動時にログオンすると、デフォルトの [ホーム] タブが表示されます。

注

デフォルトビューとして、任意の [ホーム] タブを選択できます。管理者が BI 起動パッドを設定して SAP StreamWork と統合している場合、デフォルトビューに SAP StreamWork タブが含まれる場合があります。

関連項目

- ・ 23 ページの [全般基本設定を設定する](#)

基本設定の設定

4.1 基本設定の設定

基本設定により、BI 起動パッドへのログオン方法、表示されるビュー、および表示されるオブジェクトに適用される設定が決定されます。

システム管理者が割り当てるアクセス権限によって、独自の基本設定を設定できるかどうかが決まります。管理者が自分に対して基本設定を設定している場合、基本設定は変更できません。BI 起動パッドを使用し始める前に、基本設定が設定されているかどうかをチェックし、未設定の場合は設定します。

4.1.1 全般基本設定を設定する

BI 起動パッドのデフォルトビューに表示される情報を決定するため、基本設定を設定できます。システム管理者が定義した基本設定を使用するか、またはカスタム基本設定を入力するかを選択できます。[基本設定] ダイアログボックスの初期設定は、システム管理者が設定します。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [全般] をクリックします。
- 4 [デフォルト設定の使用 (Administrator 定義済み)] チェックボックスをオフにします。
ダイアログボックスのオプションが編集可能になりますが、変更するまではデフォルト値が入力されています。管理者がユーザグループを更新した場合、変更が BI 起動パッドのカスタマイズ済みビューに反映されなくなります。

ヒント

BI 起動パッドビューを管理者が設定したデフォルト基本設定 (ビューのカスタマイズ後に実装されたすべての更新を含む) に戻すには、[デフォルト設定を使用 (Administrator 定義済み)] チェックボックスを選択します。[基本設定] ダイアログボックスのオプションが更新され、継承された値が表示されて、値が読み取り専用になります。

- 5 BI 起動パッドのデフォルトビューを選択します。
 - a 最初にログオンしたときに [ホーム] タブを表示する場合は、[[ホーム] タブ] をクリックし、以下のいずれかのオプションを選択します。

- ・ 管理者が設定したデフォルトビューを選択し、[デフォルトの [ホーム] タブ] をクリックします。管理者がデフォルトの BI 起動パッドビューを設定していない場合は、BI プラットフォームの [ホーム] タブが使用されます。
 - ・ カスタムビューを選択するには、[[ホーム] タブの選択] をクリックし、[[ホーム] タブを参照] をクリックし、[[カスタムホーム] タブの選択] ウィンドウでタブを選択して、[開く] をクリックします。
- BI 管理者が SAP StreamWork 用のワークスペースを作成した場合、それは [[カスタムホーム] タブの選択] ウィンドウの一覧に表示されます。
- b 最初にログオンしたときに [ドキュメント] タブを表示する場合は、[ドキュメント] をクリックし、デフォルトで開かれるドロワおよびノードを選択します。
- たとえば、最初にログオンしたときに BI 受信ボックスに [マイドキュメント] ドロワを開く場合は、[マイドキュメント] をクリックしてから、[マイ受信ボックス] をクリックします。
- 6 [[ドキュメント] タブに表示される列を選択します] で、リストパネルで各オブジェクトについて概要情報に表示される列見出しを選択します。
- ・ 型
 - ・ 最終実行日時
 - ・ インスタンス
 - ・ 説明
 - ・ 作成者
 - ・ 作成日
 - ・ 場所 (カテゴリ)
 - ・ 受信日 (受信ボックス)
 - ・ 差出人 (受信ボックス)
 - ・ SAP StreamWork/ディスカッションステータス (使用可能な場合)
- 7 [ドキュメントの表示場所の設定] で、ドキュメントを新しいタブで開くのか、または新しいブラウザウィンドウで開くのかを選択します。
- 8 [ページあたりの最大アイテム数の設定] ボックスに、オブジェクトの一覧を表示するときに 1 ページに表示するオブジェクトの最大数を入力します。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの [BI 起動パッドにログオンする](#)

4.1.2 パスワードを変更する

ユーザのアクセス権限によっては、このタスクを実行できない場合があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
- 3 [パスワードの変更] をクリックします。

- 4 [古いパスワード] ボックスに、古いパスワードを入力します。
- 5 [新しいパスワード] ボックスに、新しいパスワードを入力します。
- 6 [新しいパスワードの確認] ボックスに、新しいパスワードを再度入力します。
- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの[BI 起動パッドにログオンする](#)

4.1.3 優先表示ロケール

優先表示ロケール (PVL) では、日付、時間、および数値の書式を設定します。また、多言語オブジェクトの場合は PVL でオブジェクトの名前および説明を表示する言語も指定します。オブジェクトに翻訳された名前および説明が複数ある場合、表示言語は以下のようにして決定されます。

- 1 ユーザの PVL に対応する名前および説明が表示されます。

BI プラットフォームではデフォルトのフォールバックロケールが使用されることもありますが、これは通常、ユーザの PVL のバリエーションとなります。たとえば、PVL がフランス語 (カナダ) である場合に、オブジェクトにフランス語 (カナダ) に翻訳された名前および説明がないと、フランス語 (フランス) が使用されます。

- 2 PVL が設定されていない場合、製品のロケールと同じ言語で名前および説明が表示されます。
- 3 上記のいずれにも該当しない場合は、オブジェクトのソース言語で名前および説明が表示されます。

4.1.3.1 ロケールとタイムゾーンの基本設定を設定する

オブジェクトの実行をスケジュールする前に、[基本設定] ダイアログボックスで選択されたタイムゾーンをチェックします。デフォルトのタイムゾーンは、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンであり、ユーザが接続する Central Management Server (CMS) コンピュータのローカルタイムゾーンではありません。タイムゾーンを自分の地域に合わせて正しく設定し、スケジュールしたオブジェクトがその地域のタイムゾーンで処理されるようにします。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ロケールおよびタイムゾーン] をクリックします。
- 4 [製品ロケール] リストで、BI 起動パッドで使用する言語を選択します。
- 5 [優先表示ロケール] リストで、オブジェクトの表示中に使用する日付、数字、時刻の書式設定規則を使用するロケールを選択します。

このオプションでは、表示される多言語オブジェクトの言語名および説明も決定されます。

- 6 [現在のタイムゾーン] リストで、自分の地域のタイムゾーンを選択します。

- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの [BI 起動パッドにログオンする](#)

4.1.4 Crystal レポートの表示の基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Crystal Reports] をクリックします。
- 4 [デフォルトの表示形式を選択] で、Crystal レポートの表示に使用するビューアを選択します。
 - ・ Web (ダウンロードは不要)
ビューアはファイルをダウンロードせず、Java または ActiveX がなくても機能します。
 - ・ Web ActiveX (ActiveX が必要)
このビューアは、ActiveX コントロールをサポートする Microsoft Internet Explorer バージョンを使用している場合に使用できます。
 - ・ Web Java (Java が必要)
このビューアは、Java 仮想マシンをサポートする Web ブラウザ用に設計されています。

注

Web ActiveX ビューアおよび Web Java ビューアは、SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートの表示には使用できません。[Web (ダウンロードは不要)] ビューアを使用する必要があります。

- 5 [Web (ダウンロードは不要)] ビューアを選択した場合、[プリントコントロールを選択 (Web)] から、以下のアクションのいずれかを実行します。
 - ・ ビューアでレポートを PDF にエクスポートし、PDF ファイルを印刷できるようにするには、[PDF 1 クリック印刷 (Adobe Acrobat が必要)] をクリックします。印刷する Flash オブジェクトがレポートに含まれている場合は、PDF ファイルに印刷する必要があります。
 - ・ Crystal レポートビューアからレポートを印刷する場合は、[ActiveX 1 クリック印刷 (ActiveX が必要)] をクリックします。このオプションを使用するには、小さい ActiveX コンポーネントのインストールが必要です。
- 6 [Web (ダウンロードは不要)] ビューアを選択した場合、[描画の解像度を選択 (Web)] から、表示の解像度を選択します。
- 7 [デフォルトの単位を選択] で、[インチ] または [ミリメートル] を選択します。
- 8 SAP Crystal Reports 2011 形式のレポートの使用時に、SAP 変数の技術名を表示するには、[SAP 変数の技術名の表示 (SAP Crystal Reports 2011 のみ)] チェックボックスを選択します。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

4.1.5 BI ワークスペースの基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 メインメニューで [基本設定] をクリックします。
[基本設定: 管理者] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [基本設定] で、[BI ワークスペース] をクリックします。
- 4 [新しいページの作成時に使用するデフォルトのスタイルの選択] リストで、新しい BI ワークスペースに適用するページ形式を選択します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

4.1.6 Analysis edition for OLAP の基本設定を設定する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
 - 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
 - 3 [基本設定] ダイアログボックスのナビゲーションリストで、[Analysis edition for OLAP] をクリックします。
 - 4 [アクセシビリティモード] チェックボックスをオンにして、Analysis edition for OLAP のスクリーンリーダーを使用します。
 - 5 [保存して閉じる] をクリックします。
[基本設定変更] ダイアログボックスが表示され、いくつかの変更はページの再ロード後に行われることが表示されます。
 - 6 [OK] をクリックします。
- 次回、Analysis edition for OLAP を使用するとき、スクリーンリーダーが使用されます。

4.1.7 Web Intelligence 基本設定

4.1.7.1 Web Intelligence ドキュメントの読み取りインターフェースを選択する

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。

[設定]ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [Web Intelligence]をクリックします。
- 4 [表示] で、Web Intelligence ドキュメントを表示するための読み取りインタフェースを選択します。

オプション	説明
Web (ダウンロードは必要ありません)	コンポーネントをダウンロードせず、ドキュメントをオンラインで表示できます。
リッチインターネットアプリケーション (ダウンロードが必要です)	ドキュメントを表示できるようにする Java アプレットをインストールして実行します。
デスクトップ (Windows のみ) (インストールが必要です)	ドキュメントを表示できるようにするデスクトップアプリケーションをインストールして実行します。
PDF	ドキュメントを PDF ファイルとして表示できます。

[PDF] オプション以外のすべての読み取りインタフェースに、表示モードとデザインモードがあります。表示モードでは基本的な表示タスクを実行し、デザインモードでは表示しているドキュメントを変更します。読み取りインタフェースの中での唯一の相違点は、これらのうち2つでコンポーネントのダウンロードが必要になるという点です。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの[BI 起動パッドにログインする](#)

4.1.7.2 Web Intelligence ドキュメントの変更インタフェースを選択する

変更インタフェースを使用して、Web Intelligence ドキュメントを作成/編集します。

- 1 BI 起動パッドにログインします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence]をクリックします。
- 4 変更から、Web Intelligence ドキュメントの作成および編集に使用する変更インタフェースを選択します。

オプション	説明
Web (ダウンロードは必要ありません)	コンポーネントをダウンロードせず、ドキュメントをオンラインで作成および変更できます。
リッチインターネットアプリケーション (ダウンロードが必要です)	ドキュメントを表示できるようにする Java アプレットをインストールして実行します。
デスクトップ (インストールが必要です)	ドキュメントを表示できるようにする完全なデスクトップアプリケーションをインストールして実行します。 ヒント オフラインで作業することもある場合は、このオプションを選択します。

変更インタフェースには、どれも同じような機能があります。変更インタフェースの中での唯一の相違点は、これらのうち 2 つでコンポーネントのダウンロードが必要になるという点です。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの [BI 起動パッドにログオンする](#)

4.1.7.3 デフォルトユニバースを選択する

Web Intelligence ドキュメントのデフォルトのデータソースとして使用するユニバースを指定できます。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [デフォルトのユニバースを選択] で、[参照] をクリックし、オプションを選択します。
 - ・ ドキュメント作成時のデフォルトユニバースを選択するには、一覧からユニバースを選択します。
 - ・ デフォルトのユニバースを設定しない場合は、[デフォルトのユニバースなし] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックして [基本設定] ダイアログボックスに戻ります。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

4.1.7.4 Web Intelligence ドキュメントの書式設定ロケールを選択する

優先表示ロケール (PVL) では、Web Intelligence ドキュメントにおける日付、時間、および数値の書式を設定します。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence]をクリックします。
- 4 [ドキュメントの表示] で、ロケールを選択します。
 - ・ ドキュメント作成時に使用したロケールを維持する場合は、[データの書式設定にドキュメントのロケールを使用] をクリックします。
 - ・ BI 起動パッドの優先表示ロケールを使用する場合は、[データの書式設定に現在の優先表示ロケールを使用] をクリックします。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

4.1.7.5 ドリルオプションを設定する

データのドリルアップおよびドリルダウン時における Web Intelligence ドキュメントの動作を指定する必要があります。データをドリルして、表示されるデータの内容を調整できます。たとえば、国別にグループ化されたデータをドリルダウンして地域別にグループ化されたデータを表示したり、都市別にグループ化されたデータをドリルアップして国別にグループ化されたデータを表示したりできます。

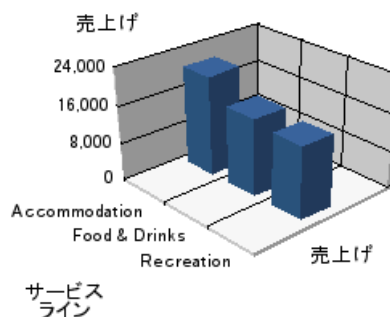
ドリルモードを開始すると、レポートの上部に [ドリル] ツールバーが自動的に表示され、ドリルした値が表示されます。この値は、ドリルしたレポートに表示されている結果に適用されているフィルタです。

レポートの各テーブル、チャート、または独立セルは、特定のデータのブロックを表します。複数のレポートブロックが含まれるレポートは、次の方法でドリルできます。

- ・ レポートのブロックのドリルを同期化
- ・ 選択したブロックのみをドリル

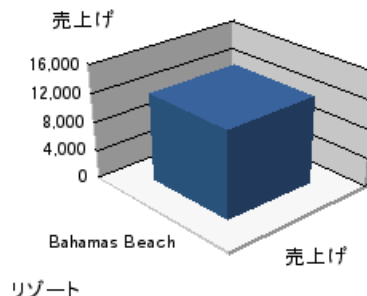
次の例は、テーブルをドリルダウンしてサービス行ごとの詳細な結果を分析した場合の、各オプションによるレポートへの影響を示しています。最初の例では、[レポートのブロックのドリルを同期化] が選択されているため、テーブルとチャートの両方にドリルされた値が表示されます。

サービス ライン↑	売上げ
Accommodation	21,180
Food & Drinks	16,565
Recreation	15,520



次の例では、[レポートのブロックのドリルを同期化] が選択されていません。そのため、ドリルは選択されたブロックでのみ実行され、テーブルのみにドリルされた値が表示されます。

サービス ライン↑	売上げ
Accommodation	21,180
Food & Drinks	16,565
Recreation	15,520



ドリルセッションで分析範囲外にドリルを実行するには、必要なアクセス権限を持っている必要があります。たとえば、ドキュメントの結果をドリルする場合、そのドキュメントの範囲に含まれる、上位レベルまたは下位レベルの情報をドリルすることがあります。そのためには、データソースから追加データを取得するための新規クエリが必要であり、追加クエリを実行するかどうかを決定するよう指示されます。たとえば、2001 年をドリルすると、ドリルしたテーブルの結果は、2001 年の第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期になります。これは、ドリルする四半期ごとの値が 2001 でフィルタされることを意味します。[ドリル] ツールバーには、ドリルした結果をフィルタする値 2001 が表示されます。

[ドリル] ツールバーを使用して他の値を選択し、結果をさまざまな方法でフィルタできます。たとえば、[ドリル] ツールバーを使用して 2002 年を選択すると、ドリルを実行したテーブルの結果は、2002 年の第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、および第 4 四半期になります。

ドリルしたレポートに複数のクエリのディメンションが含まれている場合、フィルタの値にカーソルを合わせると、ツールヒントでクエリ名と値のディメンションが表示されます。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [表示] で、[Web (ダウンロードは必要ありません)] または [リッチインターネットアプリケーション (ダウンロードが必要です)] 読み取りインタフェースを選択します。
- 5 [ドリルオプション] で、ドリルセッションに適用する一般的なオプションを選択します。

- a ドリル操作において、ドキュメントにデータを追加するために新しいクエリが必要な場合にプロンプトが表示されるようにする場合は、[ドリルでさらにデータが必要な場合はプロンプトを表示] をクリックします。
このプロンプトでは、新規クエリの追加ディメンションにフィルタを適用できます。これによりクエリのサイズを制限し、分析に必要なデータだけを取得できます。
 - b すべてのレポートブロックのドリルを同期するには、[レポートのブロックのドリルを同期化] をクリックします。
 - c ドリルモードに切り替えたときに、[ドリル] ツールバーを非表示にするには、[スタートアップ時にドリルツールバーを非表示] をクリックします。
[ドリル] ツールバーが非表示になります (ドリルセッション中にフィルタを選択しない場合など)。
- 6 [ドリルセッションの開始] で、ドリルセッションに適用するオプションを選択します。
- a 元のドキュメントのコピーを保持して、ドリルした結果を元のデータと比較できるようにするには、[レポートのコピーで] をクリックします。
元のレポートの複製が作成されます。ドリルモードを終了すると、元のレポートとドリルされたレポートの両方が表示用にドキュメントに維持されます。
 - b 現在のレポートをドリルしてレポートをドリル操作で変更する場合は、[既存のレポートで] をクリックします。
ドリルモードを終了すると、レポートにはドリルした値が表示されます。

- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの [BI 起動パッドにログオンする](#)

4.1.7.6 Excel 形式を選択する

選択した Microsoft Excel 形式によって、ドキュメントをスケジュールまたは Excel にエクスポートする場合の Web Intelligence ドキュメントのインスタンスのデータ表示が決定されます。

- 1 BI 起動パッドにログオンします。
- 2 ヘッダパネルで、[基本設定] をクリックします。
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [Web Intelligence] をクリックします。
- 4 [MS Excel へ保存する優先順位の選択] で、ニーズに最も適合するオプションを選択します。
 - ・ SAP BusinessObjects Web Intelligence と同じような形式でデータを表示する場合は、[ドキュメントの書式設定の優先順位をつける] をクリックします。
 - ・ テキスト形式でデータを表示するには、[Excel 内で容易なデータ処理の優先順位をつける] をクリックします。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 21 ページの[BI 起動パッドにログオンする](#)

オブジェクトの表示

5.1 オブジェクトの表示

BI 起動パッドでは、[ホーム] タブと [ドキュメント] タブを使用し、メインナビゲーションインタフェースを表示し、表示または編集のためにオブジェクトを開きます。[ドキュメント] タブで表示または編集のためにドキュメントを選択すると、ドキュメントが専用のタブで開きます。このタブから、必要に応じて専用のウィンドウでそのドキュメントを開くことができます。

オブジェクトの表示方法は、表示される情報に影響します。次はその例です。

- ・ リストパネルでオブジェクトをダブルクリックして動的コンテンツドキュメント（たとえば、Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント）を表示する場合は、ドキュメントの最新のインスタンスが開きます。最新のインスタンスがない場合は、オブジェクト自体が開きます。
- ・ [ビュー] > [ビュー] をクリックして、オブジェクトを表示すると、オブジェクトが開きます。
- ・ [ビュー] > [最新のインスタンスを表示] をクリックすると、最新のオブジェクトインスタンスが開きます。
- ・ パブリケーションまたはプログラムオブジェクトを表示し、最新のインスタンスがない場合は、BI 起動パッドにオブジェクトプロパティが表示されます。

関連項目

- ・ 21 ページの [「タブ」](#)
- ・ 35 ページの [「オブジェクトを表示する」](#)

5.1.1 オブジェクトを表示する

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントを BI 起動パッドで表示する場合、管理者が設定したアクセス権限とデフォルト設定によって表示されるデータが決まります。データソースから直接取得されたデータ、オブジェクトの最新インスタンスからのデータ、または保存データからのデータを含むレポートを表示できます。必要なアクセス権がある場合は、レポートまたはドキュメントをそのデータソースからの新しいデータで最新表示できます。

オブジェクトをオンデマンドで表示するには、オブジェクトビューアで [最新表示] をクリックします。古いインスタンスを表示するには、リストパネルでオブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [履歴] をクリックし、表示するインスタンスをダブルクリックします。

注

オブジェクトを最新表示すると、非常に大量のシステムリソースが使用される場合があります。オブジェクトは、データが変更された可能性があるとして判断できる場合にのみ最新表示してください。

注

オプションが提供されていない場合、そのオブジェクトに対するアクセス権限がありません。

- ・ [ドキュメント] タブで、オブジェクトを検索してダブルクリックします。
オブジェクトが動的コンテンツドキュメントの場合（たとえば、Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメント）は、ドキュメントの最新のインスタンスが開きます。最新のインスタンスがない場合は、オブジェクト自体が開きます。パブリケーションおよびプログラムオブジェクトでは、最新インスタンスが使用できない場合はオブジェクトのプロパティが表示されます。

関連項目


- ・ 67 ページの [オブジェクトをスケジュールする](#)
- ・ 89 ページの [オブジェクトの履歴を表示する](#)

5.1.2 将来表示するためにタブをピン留めする

BI 起動パッド基本設定が、タブ付きのドキュメントの表示を有効化するように設定されている必要があります。

頻繁に表示するドキュメントおよびインスタンスを BI 起動パッドユーザインタフェースにピン留めし、BI 起動パッドに次回ログオンしたときにそれらがタブとして開かれるようにできます。


注

タブのピン留めを外すには、ピンが横向きになるよう  (ピン) をクリックします。

- 1 [ドキュメント] タブのリストパネルで、表示するオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 オブジェクトまたはオブジェクトインスタンスを開きます。
 - ・ オブジェクトを開くには、[ビュー] > [ビュー] をクリックします。
 - ・ オブジェクトの最新のインスタンスを開くには、[ビュー] > [最新のインスタンスを表示] をクリックします。
 - ・ オブジェクトの古いインスタンスを開くには、[その他のアクション] > [履歴] をクリックし、[履歴] ダイアログボックスでインスタンスを選択します。

オブジェクトまたはインスタンスが独自のタブで開きます。

- 3 BI 起動パッドのメインウィンドウの右上隅にあるピンアイコンをクリックします。

 (ピン) が下向きになり、タブがピン留めされたことを示します。

関連項目

- ・ 23 ページの [全般基本設定を設定する](#)

5.2 Crystal レポートの表示

Crystal レポートをクリックすると、そのレポートがビューアに表示されます。所持しているビューアの種類に応じて、異なるタスクを実行できます。次の節には、Crystal レポートビューアのツールバーに関する情報とレポートの使用方法に関する指示が含まれています。

5.2.1 Crystal レポートビューア

Crystal レポートビューアを使用すると、レポートの表示、ページ間の移動、データの最新表示、またドリルダウンによるチャートおよび集計データから得られる詳細情報の確認、パラメータの選択、印刷、およびデータのエクスポートが可能です。また、Crystal レポートビューアでは、BI プラットフォームに接続していない場合でもレポートを表示することができます。

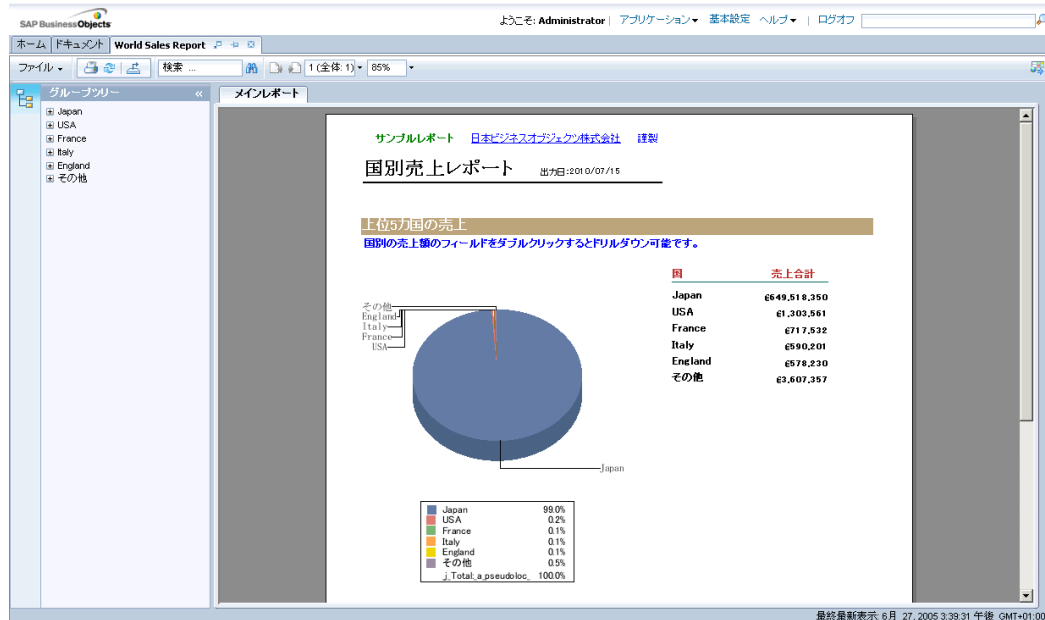
オンライン Crystal レポートビューアは ActiveX、Java および Web 限定の表示形式をサポートしています。通常は、システム管理者が企業のニーズに合わせて、最も適切なタイプのビューアを選択します。ただし、BI 起動パッドの基本設定で、手動でビューアのタイプを選択することもできます。

注

Crystal レポートビューアの一部の機能は、管理者によって無効にされている場合があります。詳細については、管理者に問い合わせてください。

5.2.1.1 Web ビューア

Web ビューアには、プラグインをダウンロードせずにブラウザでアクセスできます。このビューアを選択すると、レポートの表示、最新表示、印刷、パラメータの編集、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。



Web ビューアのツールバーには、次の機能が含まれます。

- ・ [ファイル] メニュー
 - ・ 開く
 - ・ 送信
 - ・ お気に入りにショートカットを作成
 - ・ 明細表
 - ・ 履歴
- ・ このレポートの印刷
- ・ レポートを最新表示
- ・ このレポートのエクスポート
- ・ テキストの検索
- ・ 前ページに移動
- ・ 次のページに進む
- ・ ページフィールド
- ・ 先頭ページに移動
- ・ 最終ページに移動
- ・ ズーム

[ファイル] > [開く] オプションを選択すると、リポジトリに保存された Crystal レポートを開くことができます。その他の [ファイル] メニューオプションはすべて、BI 起動パッドの [ファイル] メニューのオプションと同様に機能します。[グループツリー] または [パラメータ] パネルにアクセスするには、Web ビューアの左側にあるアイコンをクリックします。

注

Web ビューアは、[パラメータパネル] にアクセスでき、SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートをユーザが表示できる唯一の Crystal レポートビューアです。

関連項目

- ・ 42 ページの「[SAP Crystal Reports ビューア 2011](#)」

5.2.1.2 Web ActiveX ビューア

Web ActiveX ビューアは、ActiveX コントロールをサポートする Microsoft Internet Explorer バージョンと共に使用できます。ActiveX コンポーネントをダウンロードし、インストールする必要があります。このビューアを選択すると、レポートの表示、最新表示、印刷、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。



Web ActiveX ビューアのツールバーには、次の機能が含まれます。

- ・ レポートのエクスポート
- ・ レポートの印刷
- ・ グループツリーの表示切り替え
- ・ 最初のページへ
- ・ 前のページへ
- ・ 次のページへ
- ・ 最後のページへ
- ・ 指定のページへジャンプ
- ・ ロードの中止
- ・ 最新表示

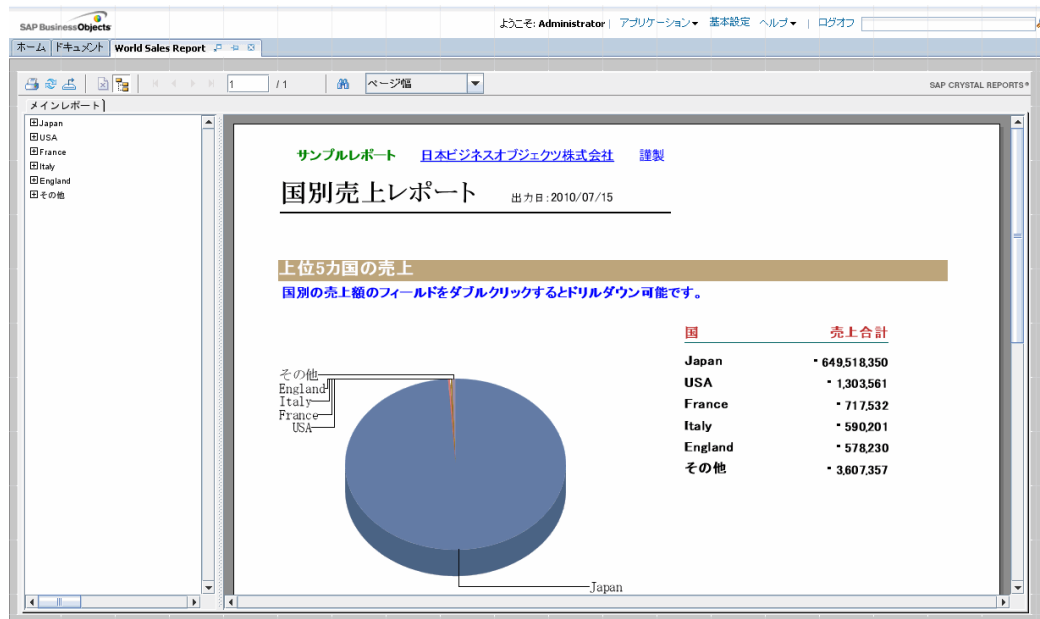
- ・ テキストの検索
- ・ ズーム
- ・ 現在のビューを閉じる

関連項目

- ・ 37 ページの[Crystal レポートの表示](#)

5.2.1.3 Web Java ビューア

Web Java ビューアには、Java 仮想マシンをサポートする Web ブラウザでアクセスできます。このビューアを選択すると、レポートの表示、最新表示、印刷、およびさまざまな形式へのエクスポートを実行できます。



Web Java ビューアのツールバーには、次の機能が含まれます。

- ・ レポートのエクスポート
- ・ レポートの印刷
- ・ グループツリーの表示/非表示
- ・ 停止
- ・ データの最新表示
- ・ 最初のページへ
- ・ 前のページへ
- ・ 次のページへ
- ・ 最後のページへ

- ・ 現在と最後のページ
- ・ テキストの検索
- ・ 拡大率

マウスポインタをツールバーのボタンの上に置くと、そのボタンの説明がブラウザのステータスバーの左側に表示されます。









注

Web Javaビューアでレポート内をスクロールするときに、不具合が発生する場合があります。この問題は、一部の Web ブラウザでの Java 仮想マシン実装が原因で発生します。問題が発生した場合は、スクロールボタンを繰り返しクリックしてスクロールしてください。スクロールボタンを押したままにはしないでください。

関連項目

- ・ 37 ページの[Crystal レポートの表示](#)

5.2.2 Crystal レポートビューアのツールバー

オプション	説明
 このレポートをエクスポートする	Crystal レポートを、ローカルコンピュータまたはネットワーク上の場所にエクスポートします
 このレポートを出力する	レポートを出力します
 グループツリー	グループ ツリーを表示/非表示します。[グループ ツリー] が表示されているときには、グループ ツリーを使用してレポート内のデータ間を移動します。
 [パラメータパネル]	[パラメータパネル] の表示/非表示を切り替えます。[パラメータパネル] が表示されているときには、パラメータパネルを使用してレポート内のデータやデータの表示方法を変更します。[パラメータパネル] には、Web ビューアからのみアクセスできます。
 ナビゲーション	レポートのページ間を移動できます。リストで、[最初のページ]、[前のページへ]、[指定のページへジャンプ]、[次のページへ]、または [最後のページへ] を選択できます。
 レポートを最新表示	レポートのデータソースから最新のデータを取得します。レポートを最新表示するには、必要なアクセス権を持ち、必要なデータソース情報がサーバに含まれている必要があります。
 テキストの検索	テキストの検索に使用します
 ズーム	レポートの拡大または縮小に使用します。

ヒント

レポートをドリルダウンした後は、レポートタブを使用してレポート内を移動できます。

関連項目

- ・ 37 ページの「[Web ビューア](#)」

5.2.3 SAP Crystal Reports ビューア 2011

SAP Crystal Reports Viewer 2011 はローカルコンピュータにインストールされます。このため、BI プラットフォームに接続しなくても、ダウンロードした Crystal レポートを表示することができます。

SAP Crystal Reports Viewer 2011 を使用して、次のタスクを実行できます。

- ・ レポートの印刷またはエクスポート
- ・ レポートの保存
- ・ 表示するデータの選択
- ・ レポート内の詳細なドリルダウン
- ・ 複数のレポートの表示

SAP Crystal Reports Viewer 2011 は、BI 起動パッドの Crystal レポートビューアと同様に機能します。

SAP Crystal Reports Viewer 2011 で実行できるタスクの詳細については、『SAP Crystal Reports Viewer 2011 ヘルプ』を参照してください。

5.2.3.1 SAP Crystal Reports Viewer 2011 をインストールする

Crystal Reports Viewer をインストールすると、クライアント側のビューアとしてローカルコンピュータに常駐します。

注

この手順は、英語版の Web サイトにだけ適用されます。

- 1 <http://www.sap.com/solutions> にログオンします。
- 2 [SAP BusinessObjects Portfolio] をポイントし、[SAP Crystal Solutions] をクリックします。
- 3 [Query, Reporting & Analysis] をポイントし、[SAP Crystal Reports Viewer] をクリックします。
BI 起動パッドウィンドウの右側に、[Download Now] リンクが表示されます。
- 4 SAP Crystal Reports 2011 ビューアインストールプログラムをダウンロードして実行します。
- 5 画面の指示に従い、可能な限りデフォルト値を使用します。
- 6 [完了] をクリックします。

5.2.3.2 SAP Crystal Reports Viewer 2011 を開く

SAP Crystal Reports Viewer 2011 は、コンピュータで Crystal レポート (.rpt) ファイルをダブルクリックすると開きます。

注

SAP Crystal Reports がコンピュータにインストールされている場合、SAP Crystal Reports Viewer 2011 よりも優先され、デフォルトで SAP Crystal Reports にレポートが表示されます。

5.2.4 Crystal レポートデータをドリルダウンする

レポートをドリルダウンして、チャートと集計したグループの下位にあるデータを表示できます。チャートまたは集計をクリックし、詳細データを表示します。

- Crystal レポートビューアで、レポートのリンクをダブルクリックし、そのリンクに関する詳細情報を表示します。

5.2.5 Crystal レポートにアラートを表示する

BI プラットフォームでは、アラートのトリガとなるレポートインスタンスに関する情報を記録します。


このタスクは、SAP Crystal Reports で作成されたレポートのみに適用されます。

- 1 表示する Crystal レポートが含まれるフォルダまたはカテゴリを検索します。
- 2 オブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [アラート] をクリックします。
[アラート] ダイアログボックスには、アラートを生成したインスタンスが表示されます。
- 3 タイトルをダブルクリックしてレポートインスタンスを開きます。

5.2.6 Web ビューアで Crystal レポートのパラメータを表示および編集する

- 1 表示する Crystal レポートを見つけて選択します。
- 2 [ビュー] > [ビュー] をクリックします。
- 3 レポート値を入力するよう指示された場合は、値を入力します。

レポートを表示する前に、レポート値を入力する必要があります。


- 4 表示するデータを選択し、[OK]をクリックします。
- 5 レポート内でアクセスできるパラメータを表示するには  (パラメータ) アイコンをクリックします。パラメータパネルには、レポートパラメータが表示されます。
- 6 パラメータを選択します。
- 7 パラメータ値を編集するには、次のいずれかの手順に従います。
 - ・ [パラメータ] パネルに、新しい値を入力します。
 - ・ [>] をクリックして編集ダイアログボックスを開き、新しい値を入力して、[OK] をクリックします。
- 8 必要に応じて追加パラメータを編集します。
- 9 新規のパラメータ値が適用されたレポートを表示するには、[適用] をクリックします。

5.2.7 Crystal レポートを印刷する

必要に応じて、成功したレポートのインスタンスや表示したレポートを印刷できます。

注

- ・ 使用している Crystal レポートビューアに応じて、このタスクの手順が異なる可能性があります。ただし、レポートの印刷の一般的な原則は同じです。画面に手順が表示される場合は、このタスクの手順ではなく、画面の手順に従ってください。
- ・ ページの方向は、レポートの設計者が選択します。[印刷] ダイアログボックスでは変更できません。

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [ビューア] ツールバーで  をクリックします
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [印刷範囲] 領域で、[すべてのページ] を選択するか、ページの範囲を指定します。
- 4 [部数] 領域で、レポートの印刷部数を入力します。

ヒント

[部単位で印刷] オプションを選択すると、ページが順番に印刷されます。たとえば、4 ページのレポートを 2 部印刷する場合、まず 1 部目の 1、2、3、4 ページを印刷してから、2 部目の 1、2、3、4 ページを印刷します。


- 5 (Web ビューアと Web ActiveX ビューア) [用紙] 領域で、用紙サイズと用紙ソースオプションを選択します。
- 6 (Web ビューアと Web ActiveX ビューア) Crystal レポートの幅が広く、印刷時にレポートをページの大きさに合わせるには、[オプション] 領域で [横方向のページを 1 ページに合わせる] をクリックします。
- 7 Crystal レポートに埋め込まれた Flash オブジェクトを印刷するには、[現在のページの Flash オブジェクトを印刷する] を選択します。
- 8 [OK] をクリックします。

5.2.8 Crystal レポートをエクスポートする

必要に応じて、成功した Crystal レポートのインスタンスおよび表示したレポートを複数の形式にエクスポートできます。たとえば、売上動向の予測データを Excel スプレッドシートにエクスポートしてから、営業チームに電子メールで送信することができます。

ヒント

ドリルダウンできるレポートでは、ドリルダウンしたビューをエクスポートします。

- 1 表示する Crystal レポートを開きます。
- 2 [ビューア] ツールバーで  (エクスポート) をクリックします。
[エクスポート] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [ファイル形式] リストで、Crystal レポートをエクスポートするファイル形式を選択します。
- 4 [印刷範囲] 領域で、[すべてのページ] を選択するか、ページの範囲を指定します。
- 5 [エクスポート] をクリックします。

5.2.8.1 エクスポート形式のオプション

SAP Crystal Reports (.rpt) 以外のファイル形式にレポートをエクスポートすると、レポートの書式設定の一部またはすべてが失われる場合があります。ただし、BI 起動パッドでは、そのエクスポート形式で再現できるだけだけの書式設定が維持されます。レポートは以下のファイル形式にエクスポートできます。

- ・ SAP Crystal Reports (.rpt)
ドリルダウンビューからこの形式にエクスポートすることはできません。

- ・ SAP Crystal Reports 読み取り専用形式 (.rptr)
- ・ Adobe Portable Document 形式 (.pdf)
- ・ Microsoft Excel 1997 ~ 2003 (.xls)

この形式では、元のレポートの外観を維持しようとします。

- ・ Microsoft Excel 1997 ~ 2003 (.xls) – データのみ
- ・ Microsoft Word 1997 ~ 2003 (.doc)

この形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が維持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。

- ・ Microsoft Word 1997 ~ 2003 (.doc) – 編集可能

この形式で維持される書式設定は、Microsoft Word 1997 ~ 2003 (.doc) 形式よりも少なくなります。テキストは行内に表示され、イメージはテキストと共に行内に配置されます。

- ・ リッチテキスト形式 (.rtf)

この形式は、Microsoft Word 1997 ～ 2003 に類似した形式です。

- ・ 区切り値 (CSV)

この形式は、Web ビューアでのみ使用できます。

- ・ 拡張マークアップ言語 (.xml)

注



Flash オブジェクトは、Crystal レポート形式または Adobe PDF 形式 (.pdf) にエクスポートした場合にのみ表示されます。それ以外のすべての形式にエクスポートした場合は、代替イメージが表示されます。

Crystal レポートを特定の形式にスケジュールするためのオプションの詳細については、『SAP Crystal Reports 2011 ユーザガイド』のエクスポートに関する情報を参照してください。

関連項目

- ・ 72 ページの[Crystal レポートの追加の書式設定オプション](#)

5.2.9 データをインタラクティブに並べ替える

- 1 インタラクティブソートを使用する Crystal レポートを開きます。
- 2 並べ替えの基準とする値を選択します。
- 3 該当する矢印をクリックして、レポート内のデータを並べ替えます。
 - ・ データを昇順で並べ替えるには、 をクリックします。
 - ・ データを降順で並べ替えるには、 をクリックします。










5.3 Web Intelligence ドキュメントの表示

Web Intelligence ドキュメントを開くと、ドキュメントがビューアに表示されます。ビューアの種類、およびシステム管理者が有効にする機能に応じて、さまざまな操作を実行できます。

次の節では、Web Intelligence ツールバーの詳細、およびナビゲーションマップの使用、ユーザプロンプトの表示、テキストの検索、ドキュメントでのデータのドリルダウンの方法を説明します。

Web Intelligence ドキュメントで分析を実行する手順については、SAP BusinessObjects Web Intelligence のドキュメントを参照してください。


5.3.1 Web Intelligence ビューアツールバー

オプション	説明
Web Intelligence	このメニューでは、BI 起動パッドユーザインタフェースの以下の部分の表示/非表示を切り替えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ フィルタバー ・ アウトライン ・ 左ペイン ・ レポート タブ ・ ステータスバー
 開く	Web Intelligence ドキュメントをもう 1 つ開きます
 ▾ 保存	変更内容をさまざまなファイル形式のドキュメントとして、ローカルコンピュータに新しい名前で保存します。
 印刷	印刷用に PDF バージョンのドキュメントを作成します
 検索	ドキュメント内のテキストを検索します
 履歴	ドキュメントインスタンスの日付を表示します
 ▾ 送信	ドキュメントを目的の場所に送信します。利用できる送信先は、BI 起動パッドの設定によって異なります。
 元に戻す	前の操作に戻ります
 やり直し	前の操作を再度実行します
 ▾ 最新表示	現在のタブまたはドキュメント全体を最新表示します
トラック	変更の追跡オプションを設定できます
ドリル	ドキュメントデータをドリルアップまたはドリルダウンします
フィルタバー	フィルタバーの表示/非表示を切り替えます

オプション	説明
アウトライン	ドキュメントのアウトラインの表示/非表示を切り替えます
読み取り	ドキュメントを HTML または PDF モードで表示できます
デザイン	表示しているドキュメントを修正できます

5.3.2 ナビゲーションマップを表示する


ナビゲーションマップを使用して、Web Intelligence ドキュメント内のレポートを検索します。

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [Web Intelligence] > [左のペイン] > [標準] をクリックします。
左のペインが開きます。
- 3  (ナビゲーションマップ) アイコンをクリックします。

5.3.3 ユーザプロンプトを表示する



プロンプトはユーザから情報を収集します。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ここで指定した情報によって、ドキュメントに表示されるデータが決まります。

たとえば、営業で使用するドキュメントでは、ユーザに地域の選択を求めるプロンプトが示されます。ユーザが地域を選択すると、ドキュメントには、ドキュメント内のすべての地域の結果が表示されるのではなく、選択された地域の結果が含まれます。

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [Web Intelligence] > [左のペイン] > [標準] をクリックします。
- 3  左のペインで、[ユーザプロンプト入力] アイコンをクリックします。

5.3.4 テキストを検索する

- 1 表示するドキュメントを開きます。

- 2  ビューアのツールバーにある[検索]をクリックします。
検索パネルが、ドキュメントの下部に表示されます。
- 3 [検索] ボックスに、検索するテキストを入力します。
- 4  [検索を実行] ボタンの横にある矢印をクリックし、[大文字と小文字を区別しない] または [大文字と小文字を区別する] を選択します。
- 5 [検索を実行] をクリックします。
- 6 (オプション) 前の項目を検索するか、次の項目を検索するかを選択します。

5.3.5 ドキュメントデータをドリルする

ドキュメントデータをドリルダウンして、チャートと集計したグループの下位にある情報を表示できます。

- 1 表示するドキュメントを開きます。
- 2 [ドリル] > [ドリルモードの開始] をクリックし、ドリルダウンするドキュメント内のリンクをクリックします。
- 3 ビューアがドリルモードになったら、[ドリル] > [スナップショット] をクリックし、ドリルされたビューのスナップショットを撮って、それを新規タブで開きます。
- 4 ドキュメントのビューにフィルタを適用するには、Web Intelligence ビューアツールバーで [フィルタバー] をクリックし、フィルタを設定します。
- 5 [ドリル] > [ドリルモードの終了] をクリックします。

オブジェクトの使用

6.1 BI 起動パッドでのオブジェクトの管理

BI プラットフォーム内のすべてのドキュメントとファイル（ハイパーリンク、ショートカット、Crystal レポート、および Web Intelligence ドキュメント）は、オブジェクトと呼ばれます。BI プラットフォームではフォルダとカテゴリを使用してオブジェクトを整理します。オブジェクトは 1 つのフォルダに属する必要がありますが、複数のカテゴリに割り当てることができ、またカテゴリに割り当てなくてもかまいません。

フォルダとカテゴリは、パブリック（会社用）と個人用のどちらでもかまいません。必要な権限を持つ BI 起動パッドユーザは誰でもパブリックフォルダおよびカテゴリを参照できます。ただし、必要な権限を持つユーザだけが、パブリックフォルダおよびカテゴリへのオブジェクトの追加と編集を実行できます。個人用カテゴリとお気に入りフォルダは、ユーザ個人が使用します。フォルダとカテゴリを新規に作成し、必要に応じてその中にオブジェクトを含めることができます。個人用カテゴリとお気に入りフォルダは個人専用で、他の BI 起動パッドユーザはそれらを表示または変更できませんが、管理者はそれらを編集できます。

BI プラットフォームでは、オブジェクトおよびインスタンス（またはオブジェクトおよびインスタンスへのショートカット）を、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、SAP StreamWork でのアクティビティ、またはファイルのデフォルトの場所を使用して他のユーザに送信できます。送信可能な場所は、システム管理者が行う設定内容により異なる場合があります。[ドキュメント] タブでドキュメントを閲覧または参照してオブジェクトを送信し、また、オブジェクトの履歴でインスタンスを送信します。受信したオブジェクトを表示するには、[ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロウを展開して、[マイ受信ボックス] をクリックします。

ヒント

オブジェクトのタイトルを右クリックすると、そのオブジェクトで実行可能なすべてのアクションにアクセスできます。たとえば、オブジェクトの履歴を表示するには、オブジェクトを右クリックし、[履歴] を選択します。

システム管理者によって割り当てられたアクセス権によっては、一部のフォルダやカテゴリにアクセスできない場合があります。たとえば、システム管理者が会社内で使われていないカテゴリを無効にする場合があります。

6.2 BI 起動パッドでの新規オブジェクトの作成と追加

ユーザが必要な権限を持っている場合は、BI 起動パッドでオブジェクトを作成し、また既存のオブジェクトを BI 起動パッドに追加できます。

関連項目

- ・ [52 ページの「BI 起動パッドへのオブジェクトの追加」](#)

- ・ 57 ページの[ハイパーリンクを作成する](#)」
- ・ 52 ページの[BI 起動パッドへのオブジェクトの追加](#)」
- ・ 65 ページの[フォルダまたはカテゴリを作成する](#)」
- ・ 165 ページの[BI 起動パッドでのアプリケーションの使用](#)」

6.3 BI 起動パッドへのオブジェクトの追加

ユーザが必要な権限を持っている場合は、BI 起動パッドにオブジェクトを追加できます。

たとえば、最近の合併が販売に与えた影響についてのレポートをビジネスアナリストが作成し、社内でそのレポートを共有する必要があるとします。ビジネスアナリストが BI プラットフォームにレポートを追加すると、必要な権限を持つ社内のすべてのユーザがそのレポートを参照できます。

関連項目


- ・ 165 ページの[BI 起動パッドでのアプリケーションの使用](#)」

6.3.1 マシンから BI 起動パッドにドキュメントを追加する

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、ドキュメントを追加するフォルダを見つけて選択します。フォルダのコンテンツがリストパネルに表示されます。
- 2 [新規] > [ローカルドキュメント] をクリックします。
[新しいローカルドキュメント] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [参照] をクリックして、追加するドキュメントを検索します。
- 4 ドキュメントのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 5 ドキュメントが Crystal レポートの場合:
 - a レポート概要情報を保持するには、[レポートからの説明を使用する] をクリックします。
 - b レポートの保存済みデータを保持するには、必要に応じて [保存済みデータを保持] をクリックします。
- 6 (オプション) [MIME] ボックスに、ファイルの MIME タイプを入力します。
- 7 (オプション) [カテゴリ] エリアで、ドキュメントを割り当てるカテゴリを 1 つまたは複数選択します。
ユーザのアクセス権限によっては、ドキュメントを特定のカテゴリに追加できない場合があります。
- 8 [追加] をクリックします。

6.4 オブジェクトの並べ替えとフィルタ処理

デフォルトでは、オブジェクトはタイトルのアルファベット順に並べ替えられますが、その他の基準でオブジェクトの並べ替えやフィルタを実行できます。列見出しをクリックすると、オブジェクトが昇順で並べ替えられます。その列見出しを再度クリックすると、オブジェクトが降順で並べ替えられます。

より複雑な並べ替えを適用するには、並べ替えるまたはフィルタ処理をする列の見出しにマウスを置きます。じょうごアイコン () が列見出し名の隣に表示されます。そのアイコンをクリックし、並べ替えおよびフィルタオプションを設定します。


注


列によって、使用できるオプションが異なります。

6.4.1 リポジトリのオブジェクトの並べ替えまたはフィルタ処理

デフォルトでは、フォルダまたはカテゴリのコンテンツを表示するときに、BI 起動パッドにはユーザが表示権限を持っているすべてのオブジェクトが表示されます。

ヒント

フィルタを削除するには、列のタイトルバーの  をクリックし、[フィルタのクリア] チェックボックスを選択します。オブジェクトの種類を条件にフィルタ処理した場合は、じょうごアイコンをクリックし、[すべての種類] をクリックし、[OK] をクリックするとフィルタが削除されます。

- 1 [ドキュメント] タブのリストパネルで列見出しをポイントし、列見出しの隣にある  をクリックします。
その列のフィルタオプションが表示されます。
- 2 必要に応じて次のようにフィルタオプションを設定します。
 - ・ タイトルでフィルタするには、[タイトル] 列で、テキストボックスにオブジェクトのタイトルを入力し、[OK] をクリックします。
 - ・ オブジェクトタイプでフィルタするには、[タイプ] 列で、参照するオブジェクトタイプのチェックボックスを選択し、[OK] をクリックします。
 - ・ オブジェクトの最終実行時間でフィルタするには、[最終実行日時] 列で、開始時刻と終了時刻を選択し、[OK] をクリックします。
 - ・ オブジェクト作成者でフィルタするには、[作成者] 列で、[Everyone] または [自分] を選択し、[OK] をクリックします。
 - ・ オブジェクトの作成時間でフィルタするには、[作成日] 列で、開始時刻と終了時刻を選択し、[OK] をクリックします。

選択したオブジェクトのみが、リストパネルに表示されます。

6.5 オブジェクトのプロパティを設定する

必要なアクセス権がある場合は、オブジェクトのタイトル、説明、キーワード、およびカテゴリプロパティを変更できます。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、リストパネルでオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [ビュー] > [プロパティ] をクリックします。
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 (オプション) オブジェクトのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。
- 5 (オプション) オブジェクトを再度選択し、[その他のアクション] > [カテゴリ] をクリックします。
- 6 オブジェクトを割り当てるカテゴリを選択します。
- 7 [OK] をクリックします。

6.6 オブジェクトをコピーする

オブジェクトをコピーし、コピーをアクセス権のあるフォルダに保存できます。これにより、元のオブジェクトを保持したまま新しいオブジェクトを編集できます。

[コピー] コマンドではオブジェクトがクリップボードにコピーされます。同じフォルダにオブジェクトのコピーが作成されるわけではありません。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、コピーするオブジェクトを見つけて選択します。

ヒント

同時に複数のオブジェクトをコピーできます。そのためには、Ctrl または Shift キーを押したままオブジェクトをクリックして選択します。

- 2 [整理] > [コピー] をクリックします。
オブジェクトがクリップボードにコピーされます。
- 3 コピーを保存するフォルダを見つけて選択します。
- 4 [整理] > [貼り付け] をクリックします。

関連項目

- ・ 55 ページの [オブジェクトへのショートカットを作成する](#)

6.7 オブジェクトを移動する

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、移動するオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [整理] > [切り取り] をクリックします。
オブジェクトがクリップボードにコピーされます。切り取ったオブジェクトは新しい場所に貼り付けるまで削除されません。
- 3 オブジェクトを保存するフォルダを見つけて選択します。
- 4 [整理] > [貼り付け] をクリックします。

オブジェクトは、貼り付け先のフォルダにのみ存在します。オブジェクトへのショートカットは、これまでどおり正しく機能します。

6.8 オブジェクトへのショートカットを作成する

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、ショートカットを作成するオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [整理] > [ショートカットのコピー] をクリックします。
- 3 ショートカットを作成するフォルダを見つけて選択します。
- 4 [整理] > [ショートカットの貼り付け] をクリックします。

ヒント

[お気に入り] フォルダで表示する頻度が高いオブジェクトのショートカットを作成できます。リストパネルでオブジェクトを選択し、[整理] > [お気に入りにショートカットを作成] をクリックします。

6.9 オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する

オブジェクトを実行せず、新規インスタンスの作成またはレポートインスタンスのデータの最新表示を行わずに、既存のオブジェクトまたはオブジェクトのインスタンスを出力先に送信できます。オブジェクトまたはインスタンスのコピーまたはショートカットを送信し、FTP サーバや BI 受信ボックスなどの出力先を選択します。すべてのタイプのオブジェクトがすべての出力先に送信できるわけではありません。

ヒント

タブにオブジェクトやインスタンスが表示されている場合、そのタブからオブジェクトやインスタンスを送信できます。

- 1 [ドキュメント] タブで、送信するオブジェクトまたはインスタンスを検索します。
- 2 オブジェクトまたはインスタンスを選択します。

- ・ オブジェクトを送信するには、オブジェクトを選択し、[送信] をクリックします。
- ・ インスタンスを送信するには、インスタンスを含むオブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [履歴] をクリックし、[履歴] ウィンドウでステータスが [成功] または [失敗] のインスタンスを 1 つまたは複数選択して [送信] をクリックします。

ステータスが [定期] または [待機] のインスタンスはスケジュールされており、まだデータが格納されていません。

ヒント

複数のオブジェクトを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを押します。

- 3 次のいずれかのオプションをクリックして、出力先を選択します。

オプション	説明
BI 受信ボックス	オブジェクトをユーザの BI 受信ボックスに送信します。
Email	オブジェクトをユーザの電子メールアドレスに送信します。
FTP の場所へ	オブジェクトを FTP サーバの場所に送信します。
ファイルの場所	オブジェクトをローカルディスクの場所 (ユーザのコンピュータ) に送信します。
SAP StreamWork	オブジェクトを SAP StreamWork アクティビティに送信します。 注 管理者が SAP StreamWork と統合するように BI 起動パッドを設定している場合、BI 起動パッドで SAP StreamWork の機能を使用できます。

使用できる出力先は、システム管理者が BI プラットフォームをどのように設定したのかによって異なります。

注

Web Intelligence ドキュメントは、BI 受信ボックス、または BI プラットフォームで設定された電子メールの出力先に送信されます。

- 4 Adaptive Job Server のデフォルト出力先オプションを受け入れるか、または出力先オプションを設定します。
- 5 出力先オプションの設定を選択した場合、以下のオプションを設定します。
 - ・ 出力先として [BI 受信ボックス] または [電子メール] を選択した場合、オブジェクトを受信するユーザおよびグループ
 - ・ オブジェクトのコピーまたはそのオブジェクトにリンクするショートカットを送信するかどうか
 - ・ 送信されるオブジェクトの名前
 - ・ オブジェクトを送信した後にインスタンスをクリーンアップするかどうか
 - ・ 出力先の種類に関する設定 (ファイルの場所の場合はディレクトリ、FTP サーバの場合はホスト名と接続ポートなど)
- 6 [送信] をクリックします。

6.10 オブジェクトの OpenDocument リンクを作成する

OpenDocument リンクは、受信者に直接リンクを送信するため、受信者がフォルダおよびカテゴリ間の移動で不便を感じないようにするために使用できます。受信者がリンクをクリックすると、BI 起動パッドログオンページが Web ブラウザに表示されます。受信者が有効なログオン認証情報を入力すると、ドキュメントが開きます。

- 1 [ドキュメント] タブのリストパネルで、受信者に送信するドキュメントを見つけて選択します。
- 2 [その他のアクション] > [ドキュメントのリンク] をクリックします。
[ドキュメントリンク] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [リンク] ボックスで OpenDocument リンク全体を選択し、Ctrl + C を押します。
- 4 リンクを貼り付ける場所（電子メールの本文など）にカーソルを置き、Ctrl + V を押します。
リンクがドキュメントに貼り付けられます。
- 5 [OK] をクリックします。

6.11 オブジェクトを削除する

オブジェクトを削除するには、必要なアクセス権限を持っている必要があります。

- 1 [ドキュメント] タブで、削除するオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [整理] > [削除] をクリックします。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。

6.12 ハイパーリンクを作成する

ヒント

[マイドキュメント] ドロワの [お気に入り] フォルダではハイパーリンクを作成できます。

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開します。
- 2 ハイパーリンクを作成するフォルダを右クリックして、[新規作成] > [ハイパーリンク] をクリックします。
[ハイパーリンク] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [一般プロパティ] をクリックします。
- 4 ハイパーリンクのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 5 [URL] をクリックして、ハイパーリンクを作成する Web ページの URL を入力します。
たとえば、「http://www.sap.com」と入力します。

- 6 (オプション) [カテゴリ] をクリックし、ハイパーリンクを割り当てるカテゴリを 1 つまたは複数選択して、[OK] をクリックします。

6.13 BI 起動パッドでの検索

検索テキストへの一致は、オブジェクトのキーワード、タイトル、説明、所有者情報、およびコンテンツに基づいて実行されます。検索結果は、[検索] ドロワに表示されます。BI 起動パッドのセッション実行中はいつでも [検索] ドロワで結果を参照できます。

6.13.1 プラットフォーム検索機能

別のスペリング (綴り) の提案

BI プラットフォームでは、検索テキストにスペルミスがある場合や生成される結果が 0 件の場合に、検索テキストの別のスペルが提案されます。その提案された検索語では、一致する項目が存在します。別のスペルは、検索語から、BI プラットフォーム内のスペルが類似した語を取り出すことで作成されます。たとえば、Euroe sales trent を検索しようとする、BI プラットフォームはスペルミスを認識し、Europe sales trend を提案します。

注

この機能は、中国語、日本語、または韓国語のテキストでは使用できません。

一致した語の強調表示

検索テキストがオブジェクトのタイトルや説明に含まれる語と一致すると、一致した語は太字で表示されます。

ファセットおよび検索結果のグループ化

注

レポートフィールドによるファセットのグループ分けは Crystal レポートと Web Intelligence ドキュメントでのみ使用可能です。

検索から多くの結果が生成される場合、BI プラットフォームではその結果情報をファセット (つまりグループ) に分類します。ファセットを選択して、そのファセットの検索結果を表示することができます。検索結果は次のファセットに分類されます。

- ・ ドキュメントの種類
- ・ パブリックカテゴリ
- ・ レポート内のデータ
- ・ レポートコンテンツの側面

たとえば、2006 sales by employee と検索すると、パブリックカテゴリのファセットには、人事レポート、法的ドキュメント、売上げレポートが含まれます。各カテゴリには、検索結果に表示されるオブジェクトが割り当てられているからです。[売上げレポート] をクリックすると、そのファセットに割り当てられた結果のみが表示されます。

ファセットは、メタデータおよびドキュメントコンテンツに基づいて生成されます。コンテンツベースのファセットは、ドキュメント内のフィールドまたは変数に基づいて生成されます。

たとえば、変数 Product を多くの売上げレポートで使用している場合、検索ではそれに対応するファセットが生成されます。製品名で検索を絞り込み、その製品に関連する結果のみを表示することができます。

検索を絞り込んだ後は、その結果を参照するか、他のファセットのオプションを選択してその結果をさらに絞り込むことができます。現在の絞り込み結果が、検索条件の絞り込みパネルの上部に表示されます。

注

オブジェクトタイプによるファセットのグループ化では、インスタンスなどの他のタイプのオブジェクトを含めることができます。たとえば、Crystal レポートファセットの検索結果を表示すると、結果に同じ名前の Crystal レポート、PDF ドキュメント、および Word ドキュメントが表示される場合があります。この動作は、他のオブジェクトが Crystal レポートのインスタンスであるために発生します。

検索結果のランク

検索結果ページのすべてのオブジェクトに、検索テキストとの関連度に応じて 1 から 5 までのランクを示すスコアが付けられます。スコア 5 は、オブジェクトの一致率が非常に高いことを示し、スコア 1 は、一致率が低いことを示します。

関連項目

- ・ 59 ページの[検索対象](#)」
- ・ 61 ページの[検索テクニック](#)」

6.13.2 検索対象

次の表は、各オブジェクトタイプの検索可能コンテンツを示したものです。

オブジェクトタイプ	検索可能コンテンツ
Crystal レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイトル ・ 説明 ・ 選択式 ・ 保存データ ・ テキストフィールド ・ パラメータ値 ・ サブレポート
Web Intelligence ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイトル ・ 説明 ・ ユニバースフィルタ名 ・ 保存データ ・ ドキュメントで定義されているフィルタ条件内の定数 ・ ユニバースメジャー名 ・ ユニバースオブジェクト名 ・ レコードセット内のデータ ・ セル内の静的テキスト
Microsoft Excel ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ ・ ドキュメントプロパティ(タイトル、件名、作成者、会社、カテゴリ、キーワード、およびコメント) ・ ヘッダおよびフッタテキスト ・ 計算値または式値 ・ 番号および日付/時間値
Word ドキュメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト ・ ドキュメントプロパティ(タイトル、件名、作成者、会社、カテゴリ、キーワード、およびコメント) ・ ヘッダおよびフッタテキスト ・ 数値
RTF、PDF、PowerPoint、および TXT ファイル	テキスト
	メタデータ

オブジェクトタイプ	検索可能コンテンツ
<ul style="list-style-type: none"> ・ その他のオブジェクト ・ 分析ビュー ・ BI ワークスペース ・ Dashboards と Xcelsius オブジェクト ・ ディスカッション ・ イベント ・ Flash オブジェクト ・ ハイパーリンク ・ ライフサイクルマネジメントコンソールのジョブ ・ メタデータ (インフォメーションデザイナー) ・ モジュール ・ オブジェクトパッケージ ・ プロファイル ・ プログラムオブジェクト ・ パブリケーション ・ クエリ (Web サービスとしてのクエリ) ・ ユニバース ・ ウィジェット ・ ワークスペース (SAP BusinessObjects Analysis edition for OLAP で作成) 	

6.13.3 検索テクニック

テクニック	例	説明
検索語をスペースで区切る	finance report	<p>検索語をスペースで区切ることは、AND 区切りと同等です。</p> <p>このテクニックでは、検索テキスト内のすべての語がドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。</p>

テクニック	例	説明
ワイルドカード文字としてアスタリスクまたは疑問符を使用する	売上げ 199* l?st	<p>検索テキストに、小文字と大文字を混ぜ合わせて使用しないでください。</p> <p>最初の例では、“売上げ”という語と1990 から 1999 年のいずれかの年度を含む検索結果が生成されます。</p> <p>2 番目の例では、“last” または “lost” という語を含む検索結果が生成されます。</p>
検索テキストを引用符で囲む	“total sales growth”	このテクニックでは、ドキュメント内で完全に同じフレーズが見つかった場合のみ、検索結果が生成されます。
検索語の前にプラス記号 (+) を付ける	episode +I	<p>このテクニックでは、検索テキスト内のすべての語がドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。</p> <p>検索語の前にプラス記号 (+) を付けて、検索時に通常はフィルタによって除外される語 (a, for, by, is, the など) を検索します。</p>
検索語の前にマイナス記号 (-) を付ける	Europe sales -revenue	このテクニックでは、マイナス記号の後ろの語がドキュメントに含まれておらず、かつ、その他の検索語がドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。
検索語を大文字の OR で区切る	bug OR defect count report	このテクニックでは、OR の前または後ろの語がドキュメントに含まれおり、かつ、その他の検索語がドキュメントに含まれている場合に結果が生成されます。


テクニック	例	説明
属性検索	タイプ: "Crystal Reports" 国: 米国	<p>このテクニックでは、メタデータまたはコンテンツ内の属性値が検索されます。</p> <p>属性検索を実行するには、属性、コロン、検索する値を入力します。複数の語で構成される属性値は引用符で囲みます。</p> <p>最初の例では、オブジェクトタイプ値が "Crystal Reports" の結果が生成されます。</p> <p>2 番目の例では、国の値が "米国" の結果が生成されます。</p>
検索テクニックを組み合わせる	marketing OR sales -finance "increase OR decrease trend"	<p>この例では、ドキュメントに "marketing" または "sales" という単語が含まれ、かつ、フレーズ "increase or decrease trend" が含まれ、"finance" という単語は含まれない場合に結果が生成されます。</p>

6.13.4 BI 起動パッドで検索を実行する

検索は、必要なアクセス権限を持つユーザによって検索から除外されない限り、BI 起動パッドのほとんどのオブジェクトに対して実行されます。

- 1 [ドキュメント] タブで、[検索] ボックスに検索する単語を入力します。

入力時に一時停止すると、BI 起動パッドのクイック検索機能により、入力したテキストに基づいて上位 6 つの一致が表示されます。一致するものがすぐに表示されない場合は、検索文字列の入力を続行します。

- 2  [検索] をクリックします。

検索結果がリストパネルに表示されます。次のファセットは、[検索] ドロワにも表示される場合があります、フィルタ処理した結果を見ることができます。

- ・ 場所
- ・ 型
- ・ 最新表示時刻
- ・ 作成者
- ・ データソース

[データソース] は表示されることも表示されないこともあります。他のファセットは、結果の内容に基づいて表示されることがあります。検索によって 5 つを超えるファセットが生成される場合、[その他] をクリックすると、他のファセットが表示されます。

3 以下のアクションのいずれかを実行し、検索結果を表示します。

- ・ リストパネルで、オブジェクトリンクをダブルクリックします。
- ・ [検索] ドロワで、ファセットをクリックして結果を絞り込み、リストパネルでオブジェクトリンクをダブルクリックします。

Web Intelligence ドキュメントまたは Crystal レポートをダブルクリックすると、レポート内で検索語が最初に一致した場所がビューアに表示されます。

注

- ・ この機能は、HTML ビューアのみで機能します。
- ・ オブジェクトタイプによるファセットのグループ化では、他のタイプのオブジェクトを含めることができます。たとえば、Crystal レポートファセットの検索結果を表示すると、結果に同じ名前の Crystal レポート、PDF ドキュメント、および Word ドキュメントが表示される場合があります。この動作は、他のオブジェクトが Crystal レポートのインスタンスであるために発生します。

6.14 フォルダとカテゴリ

すべてのユーザがアクセスできるフォルダやカテゴリは、通常システム管理者が作成します。ただし、必要なアクセス権がある場合は、他のユーザが BI 起動パッドでフォルダやカテゴリを作成することもできます。

BI プラットフォームでは次の 2 つのタイプのフォルダをサポートしています。

- ・ お気に入り

お気に入りには、任意の数のフォルダを作成し、オブジェクトを整理することができます。[マイドキュメント] ドロワを展開し、[お気に入り] をクリックすると、作成したフォルダを利用できます。作成したお気に入りフォルダにオブジェクトを追加したり、パブリックフォルダ内のオブジェクトへのショートカットやオブジェクトのコピーを作成したり、オブジェクトを作成したりすることができます。

BI 起動パッド内のお気に入りフォルダへのアクセス権があるのはそのフォルダを作成したユーザのみですが、管理者はそのフォルダを管理できます。

- ・ パブリックフォルダ

パブリックフォルダは、管理者または必要なアクセス権が付与されているユーザによって作成されます。必要な権限がある場合は、パブリックフォルダを作成し、必要な権限を持つ他のユーザが表示できるオブジェクトを含めることができます。パブリックフォルダを表示するには、[フォルダ] ドロワを展開します。

BI プラットフォームでは次の 2 つのタイプのカテゴリをサポートしています。

- ・ 個人用カテゴリ

任意の数の個人用カテゴリを作成し、オブジェクトを整理することができます。[マイドキュメント] ドロワを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックすると、作成したカテゴリを利用できます。

- ・ 会社用カテゴリ

会社用カテゴリは、通常管理者または必要な権限が付与されているユーザによって作成されます。必要な権限がある場合、会社用カテゴリを作成できます。会社用カテゴリを表示するには、[カテゴリ]ドロワを展開します。

6.14.1 フォルダまたはカテゴリを作成する

- 1 [ドキュメント] タブで、フォルダまたはカテゴリを作成する場所に移動します。
 - ・ 個人用フォルダを作成するには、[マイドキュメント] ドロワを展開し、[お気に入り] をクリックします。
 - ・ パブリックフォルダを作成するには、[フォルダ] ドロワを展開します。
 - ・ 個人用カテゴリを作成するには、[マイドキュメント] ドロワを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックします。
 - ・ 会社用カテゴリを作成するには、[カテゴリ] ドロワを展開します。
- 2 [新規] > [フォルダ]、または [新規] > [カテゴリ] をクリックします。
- 3 新しいフォルダまたはカテゴリの名前の入力が必要されたら、名前を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

6.14.2 フォルダまたはカテゴリのプロパティを設定する

ユーザ自身が作成したか、またはアクセス権限を持っているフォルダやカテゴリのプロパティを編集できます。フォルダまたはカテゴリの名前、説明、およびキーワードプロパティを変更できます。(キーワードを使用してフォルダおよびカテゴリを検索します)

- 1 [ドキュメント] タブで、プロパティを設定するフォルダまたはカテゴリを検索します。
 - ・ 個人用フォルダのプロパティを編集するには、[マイドキュメント] ドロワを展開し、[お気に入り] をクリックします。
 - ・ パブリックフォルダのプロパティを編集するには、[フォルダ] ドロワを展開します。
 - ・ 個人用カテゴリのプロパティを編集するには、[マイドキュメント] ドロワを展開し、[個人用カテゴリ] をクリックします。
 - ・ 会社用カテゴリのプロパティを編集するには、[カテゴリ] ドロワを展開します。
- 2 フォルダまたはカテゴリを選択し、[ビュー] > [プロパティ] をクリックします。
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 (オプション) フォルダ名、説明、およびキーワードを編集します。
- 4 [OK] をクリックします。

6.14.3 フォルダへのオブジェクトの追加

ユーザが必要なアクセス権を持っている場合は、フォルダに個別にオブジェクトを追加し、新規オブジェクトを作成できます。

関連項目

- ・ 51 ページの[BI 起動パッドでの新規オブジェクトの作成と追加](#)

6.14.4 オブジェクトをカテゴリに割り当てる

- 1 カテゴリに割り当てるオブジェクトを含むフォルダに移動します。
- 2 オブジェクトを選択し、[その他のアクション] > [カテゴリ] をクリックします。
[カテゴリ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 オブジェクトの割り当て先とするカテゴリを選択します。

ヒント

カテゴリを展開するには、カテゴリ名の横にあるプラス記号 (+) をクリックします。

- 4 [OK] をクリックします。

オブジェクトのスケジュール

7.1 オブジェクトのスケジュール

指定された時刻に自動的に実行されるよう、オブジェクトをスケジュールできます。スケジュールしたオブジェクトが正しく実行されると、インスタンスが作成されます。

インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのバージョンです。インスタンスのリストは、オブジェクトの履歴で表示できます。オンデマンドでオブジェクトを表示するアクセス権を持っていれば、任意のインスタンスを最新表示して、データソースから最新のデータが取得できます。インスタンスをスケジュールおよび表示することにより、常にオブジェクトの最新情報を表示、印刷および配布することができます。

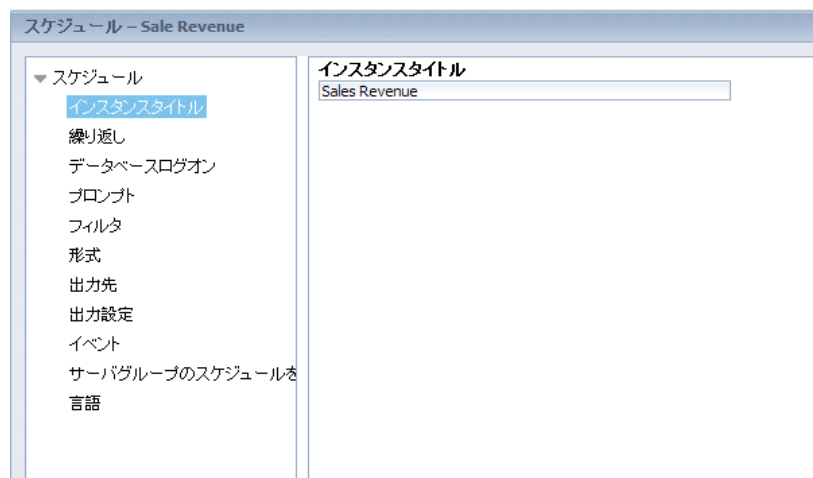
デフォルトのタイムゾーンは、接続している CMS のローカルタイムゾーンではなく、BI プラットフォームを実行している Web サーバのローカルタイムゾーンです。オブジェクトをスケジュールする前に、BI 起動パッドの基本設定 ([ヘッダ] パネル > [基本設定]) でローカルタイムゾーンを選択していることを確認します。基本設定を表示または設定するアクセス権がない場合は、システム管理者に問い合わせてください。

関連項目

- ・ 23 ページの [基本設定の設定](#)

7.2 オブジェクトをスケジュールする

- 1 [ドキュメント] タブで、スケジュールするオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [その他のアクション] > [スケジュール] をクリックします。
[スケジュール]ダイアログボックスが表示されます。



- 3 使用するスケジュールオプションを指定します。
一部のスケジュールオプションでは、管理者が設定したオブジェクト設定が [スケジュール] ウィンドウで選択されます。事前設定済みの設定を使用するか、または設定を変更することができます。
- 4 [スケジュール] をクリックします。
[履歴] ウィンドウが表示され、スケジュールされたジョブが [実行中] ステータスのインスタンスとして表示されます。ステータスは 10 秒ごとに最新表示されます。

関連項目

- ・ 68 ページの [スケジュール済みのインスタンスのタイトルを設定する](#)
- ・ 69 ページの [定期スケジュールパターンを選択する](#)
- ・ 70 ページの [データベースログオン情報を指定する](#)
- ・ 83 ページの [パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする](#)
- ・ 82 ページの [レコード選択式を適用する](#)
- ・ 70 ページの [インスタンス形式を指定する](#)
- ・ 77 ページの [出力先を指定する](#)
- ・ 83 ページの [Crystal レポートの印刷設定を設定する](#)
- ・ 84 ページの [イベントでオブジェクトをスケジュールする](#)
- ・ 84 ページの [スケジューリングサーバグループを設定する](#)
- ・ 86 ページの [レポートインスタンスの言語を選択する](#)
- ・ 85 ページの [Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する](#)

7.2.1 スケジュール済みのインスタンスのタイトルを設定する

- 1 [ドキュメント] タブで、スケジュール済みのインスタンスに名前をつけるオブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [その他のアクション] > [スケジュール] をクリックします。
[スケジュール] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 ナビゲーションパネルで [インスタンスタイトル] をクリックします。
- 4 [インスタンスタイトル] ボックスにインスタンスの名前を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

7.2.2 定期スケジュールパターンを選択する

定期スケジュール設定では、オブジェクトを実行するためのスケジュールを指定します。[オブジェクトの実行]リストの各パラメータには、それぞれ固有のデータの入力が必要です。

[可能な再試行回数]フィールドでは、サーバがジョブの実行に失敗した場合の再試行の回数を設定できます。
[再試行間隔 (秒単位)]フィールドでは、サーバが再試行を開始するまでの待機時間も設定できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで[定期] をクリックします。
- 2 [オブジェクトの実行] リストから繰り返しオプションのいずれかを選択して必要なオプションを設定します。

次のオプションがあります。

- ・ 0

[スケジュール]をクリックすると、オブジェクトがすぐに 1 回実行されます。

- ・ 1 回

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。オブジェクトは指定した時刻に 1 度だけ実行されます。イベントを使用してオブジェクトをスケジュールする場合、開始時刻と終了時刻の間にイベントが発生すると、オブジェクトは 1 度だけ実行されます。

- ・ 時間単位

このオプションには、オブジェクトを実行する頻度を時間と分で指定します。インスタンスは、入力したパラメータに合わせて定期的に作成されます。最初のインスタンスは指定した開始時刻に作成され、オブジェクトは、指定した終了時刻に時間単位のスケジュールでの実行を停止します。

- ・ 日単位

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。オブジェクトは N 日に 1 回指定した時刻に実行されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 週単位

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。オブジェクトは、毎週指定した日数だけ、指定した時刻に実行されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 月単位

このオプションには、開始日時と、月単位で指定する定期的なスケジュールが必要です。オブジェクトは N カ月ごとに指定した日時に実行されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ N 日

このオプションでは、毎月オブジェクトが実行される日付を指定する必要があります。インスタンスは、毎月選択した日の指定開始時刻に定期的に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 第 1 月曜日

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。インスタンスは、毎月第 1 月曜の指定した時刻に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 月末日

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。インスタンスは、毎月末日の指定した時刻に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ 第 N 週の X 日

このオプションには開始時刻および終了時刻パラメータを指定します。インスタンスは毎月指定した曜日に作成されます。オブジェクトは、指定した終了時刻後は実行されません。

- ・ カレンダー

このオプションには、カレンダー日を指定します。カレンダーは、BI プラットフォーム管理者が作成する、カスタマイズされたスケジュール日付のリストです。カレンダーで指定された各日に 1 つのインスタンスが作成され、指定した開始時刻から開始され、指定した終了時刻まで継続されます。

- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.3 データベースログオン情報を指定する

オブジェクトの中には、正しくスケジュールするために、事前にデータベースへのログオンを必要とするものもあります。オブジェクトのデータソースに対する認証情報を持っていれば、[スケジュール] ダイアログボックスで指定できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [データベースログオン] をクリックします。
- 2 必要に応じて、オブジェクトのデータソースのログオン情報を変更します。
- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.4 インスタンス形式を指定する

スケジュールするオブジェクトの種類に応じて、BI プラットフォームで生成されるときオブジェクトのインスタンスの保存形式を選択できます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[形式] または [形式および出力先] をクリックします。
- 2 スケジュール先の形式を選択します。

たとえば、Crystal レポートの [選択したドキュメントの形式オプション] リストの形式、または、Web Intelligence ドキュメントの [出力形式] を選択します。

- 3 必要に応じて他の書式設定オプションを選択します。

一部の Crystal レポート形式オプションでは、追加の書式設定オプションを指定する必要があります。これらのオプションは、選択した形式に応じて異なります。

- 4 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.4.1 使用可能な形式

特定のオブジェクトの種類を送信またはスケジュールできる形式を次に示します。

Crystal レポート形式

Crystal レポートの場合は、次の形式の中からいずれかを選択できます。

- ・ SAP Crystal Reports
- ・ SAP Crystal Reports 読み取り専用 (RPTR)
- ・ Microsoft Excel(97-2003)
- ・ Microsoft Excel(97-2003)(データのみ)
- ・ Microsoft Excel (2007) (データのみ)
- ・ Microsoft Word(97-2003)
- ・ PDF
- ・ リッチテキスト形式(RTF)
- ・ Microsoft Word – 編集可能 (RTF)
- ・ テキスト
- ・ ページ区切り付きテキスト
- ・ タブ区切りテキスト(TTX)
- ・ カンマ区切り値(CSV)
- ・ XML

注

- ・ SAP Crystal Reports 以外のファイル形式を選択すると、エクスポート形式で許可されている書式設定のほとんどがそのまま維持されます。ただし、レポートに表示されている一部またはすべての書式設定を失う場合もあります。
- ・ Excel と Excel(データのみ)の違いは、Excel はレポートのオリジナルの外観を保持し、Excel(データのみ)はデータの保持に重点を置き、セルをマージしないという点です。
- ・ タブ区切りテキスト形式では、値の間にタブ文字が配置され、レポートの書式設定が保持されます。カンマ区切り値形式では、値の間に指定された文字が配置され、書式設定は保持されません。
- ・ Microsoft Word(97-2003)形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が維持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。Microsoft Word: 編集可能形式では、ほとんどの書式設定が維持されません。テキストは行内に表示され、イメージはテキストとともに行内に配置されます。リッチテキスト形式は、Microsoft Word(97-2003)形式に類似した形式です。

Crystal レポートを特定の形式にスケジュールするために必要なオプションの詳細については、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』のエクスポートに関する情報を参照してください。

Web Intelligence ドキュメント形式

Web Intelligence ドキュメントの場合は、次の形式の中からいずれかを選択できます。

- ・ Web Intelligence
- ・ Microsoft Excel
- ・ PDF

関連項目

- ・ 72 ページの[Crystal レポートの追加の書式設定オプション](#)」
- ・ 71 ページの[使用可能な形式](#)」

7.2.4.2 Crystal レポートの追加の書式設定オプション

Crystal レポートをいくつかの形式にスケジュールする場合、追加のオプションの設定が必要になる場合があります。次の表に、各形式の追加オプションについて説明します。

表 7-1: Microsoft Excel(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。 ・ ページ範囲を含めるには、[ページ] の [開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後に含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] をクリックし、列幅を取得するレポート領域を選択します。 ・ 一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする (ポイント単位)] をクリックし、幅を入力します。

オプション	説明
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	<ul style="list-style-type: none"> ・ インスタンスにページヘッダとページフッタを印刷する方法を指定するには、[レポートごとに 1 回] または [各ページ] をクリックします。 ・ インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし] をクリックします。
ページごとにページ区切りを作成	レポート内の各ページの後にページ区切りを作成する場合にクリックします
日付の値を文字列に変換する	レポート内の日付値をテキスト文字列としてエクスポートする場合にクリックします
グリッドラインの表示	エクスポートしたドキュメントにグリッドラインを表示する場合にクリックします

表 7-2: Microsoft Excel (97-2003, 2007) (データのみ) および Microsoft Excel ブック (データのみ)

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] をクリックし、列幅を取得するレポート領域を選択します。 ・ 一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする (ポイント単位)] をクリックし、幅を入力します。
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持する場合にクリックします
画像をエクスポートする	レポート内の画像をエクスポートする場合にクリックします
集計にワークシートの関数を使用する	レポートで集計を使用して Excel でワークシート関数を作成する場合にクリックします
オブジェクトの相対位置を維持する	別のオブジェクトとの相対的なオブジェクトの位置を維持する場合にクリックします

オプション	説明
列の配置を維持する	レポートの列内のテキスト配置を維持する場合にクリックします
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	インスタンスにヘッダおよびフッタを含める場合にクリックします
ページヘッダを簡略化する	ページヘッダを簡略化する場合にクリックします
グループのアウトラインを表示する	グループのアウトラインを表示する場合にクリックします

表 7-3: Microsoft Word(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。 ページ範囲を含めるには、[ページ] の [開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後を含めるページを入力します。

表 7-4: PDF

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。 ページ範囲を含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後を含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
グループツリーからブックマークを作成	レポートのツリー構造に基づいて PDF ファイルにブックマークを作成する場合にクリックします。これにより、レポート内での移動が簡単になります。

表 7-5: リッチテキスト形式(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。 ページ範囲を含めるには、[ページ] の [開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後に含めるページを入力します。

表 7-6: Microsoft Word – 編集可能(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。 ページ範囲を含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後に含めるページを入力します。
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
レポートのページごとに改ページする	レポートの各ページの後にページ区切りを挿入する場合にクリックします。

表 7-7: テキスト

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

表 7-8: ページ区切り付きテキスト

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
1 ページあたりの行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ~ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

表 7-9: カンマ区切り値(CSV)

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り文字	値を区切るために使用する文字を入力するか、[タブ] をクリックします。
モード	[標準] モードか [レガシー] モードをクリックします。[標準] モードでは、インスタンスに含めるレポートセクション、ページセクション、およびグループセクションを選択できます。[レガシー] モードでは、レポートセクション、ページセクション、およびグループセクションのオプションを設定できません。
レポートセクションとページセクション	[標準] モードを選択した場合、レポートセクションとページセクションをエクスポートするかどうかを指定します。エクスポートする場合は、セクションを切り離すかどうかを指定します。
グループセクション	[標準] モードを選択した場合、グループセクションをエクスポートするかどうかを指定します。エクスポートする場合は、セクションを切り離すかどうかを指定します。

表 7-10: XML

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合にクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
XML エクスポート形式	XML エクスポート形式を選択します。

7.2.5 出力先を指定する

オブジェクトのインスタンスは、コンピュータまたはネットワークの特定の出力先、ファイルのデフォルトの保存場所、電子メール、FTP、または SAP StreamWork (BI 起動パッドとの統合が設定されている場合) に送信するようにスケジュールできます。選択可能な出力先は、システム管理者が有効化した出力先、および付与されているユーザ権限によって異なります。

管理者がオブジェクトに特定の出力先を指定している場合は、この出力先オプションが表示されます。この出力先のフィールドを更新するか、別の出力先が選択できます。このような出力先では、追加情報の入力が必要になる場合があります。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力先] をクリックして出力先オプションを表示します。
- 2 出力先を選択します。
- 3 インスタンスのコピーを保存する場合は、[履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスを選択します。
- 4 出力先にデフォルトの設定を使用する場合は、[デフォルト設定を使用] を選択します。
- 5 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.5.1 出力先の場所

BI プラットフォームのオブジェクトとパブリケーションは、次の出力先の場所にスケジュール、送信、または公開できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所

このオプションを選択すると、インスタンスがデフォルトの保存場所 (Output File Repository Server) に保存されます。

- ・ BI 受信ボックス

このオプションでは、指定に従って Output File Repository Server および BI 受信ボックスにインスタンスが保存されます。

- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定された BI 受信ボックスに保存されます。
- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合は、インスタンスを保存する BI 受信ボックスを指定できます。

- ・ Email

このオプションでは、Output File Repository Server および指定された電子メール受信者にインスタンスが保存されます。

- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定された電子メール受信者に電子メールで送信されます。
- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合は、インスタンスのコピーを電子メールで送信する受信者を指定できます。

- ・ FTP サーバ

このオプションでは、Output File Repository Server および指定された FTP サーバにインスタンスが保存されます。

- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定された FTP サーバに保存されます。
- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合は、インスタンスを保存する FTP サーバを指定できます。

- ・ ファイルシステム

このオプションでは、Output File Repository Server および指定されたファイルの保存場所にインスタンスが保存されます。

- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択した場合、インスタンスのコピーは Job Server に設定されたアンマネージドディスクの場所に保存されます。
- ・ [Job Server のデフォルト値を使用する] オプションを選択しない場合、インスタンスのコピーは指定したファイルの場所に保存されます。

注

[デフォルトの Enterprise の場所]以外のオプションを選択し、Job Server のデフォルト値オプションを使用する場合は、保存場所が管理者によって適切な Job Server にすでに設定されている必要があります。詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

7.2.5.2 出力先オプション

出力先にオブジェクトをスケジュールするために選択可能なオプション (BI 受信ボックスでインスタンスを受信するユーザの名前、電子メール受信者のアドレス、インスタンスをアップロードする FTP サーバなど) が多数あります。出力先オプションは、選択した出力先 (BI 受信ボックス、ファイルシステム、FTP サーバ、または電子メール) によって異なります。

注

これらの出力先を使用するには、スケジューリングジョブを実行するサーバで設定する必要があります。導入している環境でこれらの出力先が設定されているかどうかについては、BI プラットフォーム管理者に確認してください。

表 7-11: BI 受信ボックス

オプション	説明
選択した受信者	[利用可能な受信者] 一覧からユーザまたはグループを選択し、[>] をクリックしてユーザまたはグループを [選択した受信者] 一覧に追加します。
ターゲット名	<ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する] を選択して、ボックスに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、ボックスの横にある一覧から、名前用の変数を選択します。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
送信者の名前	<ul style="list-style-type: none"> インスタンスへのショートカットを受信者に送信するには、[ショートカット] を選択します。 受信者にインスタンスのコピーを送信するには、[コピー] を選択します。

表 7-12: ファイルシステム

オプション	説明
ディレクトリ	インスタンスを送信するディレクトリへのパスを入力します。

オプション	説明
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する] を選択して、ボックスに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、ボックスの横にある一覧から、名前用の変数を選択します。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
ユーザ名	ファイルの場所へのアクセスに必要なユーザ名を入力します。
パスワード	ファイルの場所へのアクセスに必要なパスワードを入力します。

表 7-13: FTP サーバ

オプション	説明
ホスト	FTP サーバを入力します。
ポート	FTP へのアクセスに使用するポートを入力します。デフォルトのポート番号は 21 です。
ユーザ名	FTP サーバへのアクセスに必要なユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。
Account	必要に応じて、FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。
ディレクトリ	インスタンスを送信するディレクトリへのパスを入力します。

オプション	説明
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> BI プラットフォームでインスタンスの名前が自動的に生成されるようにするには、[自動で生成された名前を使用する]を選択します。 特定のファイル名を使用するには、[指定の名前を使用する]を選択して、ボックスに名前を入力します。 <p>ヒント 特定のファイル名を使用する場合、ボックスの横にある一覧から、名前用の変数を選択します。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>

表 7-14: 電子メール受信者

オプション	説明
差出人	<p>返信電子メールアドレスを入力します。</p> <p>注 システム設定によっては、このボックスを使用できない場合があります。</p> <p>ヒント [プレースホルダの追加] 一覧から [差出人] ボックス用の変数を選択します。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
宛先	<p>インスタンスを送信する各電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスはセミコロンで区切ります。</p> <p>ヒント [プレースホルダの追加] 一覧から [宛先] ボックス用の変数を選択します。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
CC	<p>インスタンスのコピーを送信する電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスはセミコロンで区切ります。</p> <p>ヒント [プレースホルダの追加] 一覧から [CC] ボックス用の変数を選択します。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>

オプション	説明
BCC	<p>非公開の受信者の電子メールアドレスを入力します。複数の電子メールアドレスはセミコロンで区切ります。</p> <p>ヒント [プレースホルダの追加] 一覧から [BCC] ボックス用の変数を選択します。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
件名	<p>件名を入力します。</p> <p>ヒント [プレースホルダの追加] 一覧から [件名] ボックス用の変数を選択します。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
メッセージ	<p>電子メールの本文に表示されるメッセージを入力します。</p> <p>ヒント [プレースホルダの追加] 一覧から [メッセージ] ボックス用の変数を選択します。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>
ドキュメントを添付ファイルとして配信	<p>インスタンスを添付ファイルとして電子メールに追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。さらに、添付ファイル名を指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動的に生成される名前を使用するには、[自動で生成された名前を使用する]を選択します。 カスタム名を入力または選択するには、[指定の名前を使用する]を選択して、ボックスに名前を入力します。 <p>注 特定のファイル名を使用する場合、ボックスの横にある一覧から、名前に含める変数を選択します。変数はボックスのテキストに追加されます。使用可能な変数は、オブジェクトのタイトル、ID、所有者、日時、電子メールアドレス、および名前です。</p>

7.2.6 レコード選択式を適用する

オブジェクトにレコードまたはグループの選択式が含まれている場合、レポートをスケジュールする前に選択式を変更できます。選択式を使用すれば、どのデータをレポートに表示するかを決定できます。また、不要なレ

コードを取り除いて、パフォーマンスを向上させることができます。レコード選択式の詳細については、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [フィルタ] をクリックします。
- 2 必要に応じてレコードまたはグループの選択式を変更します。
- 3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.7 Crystal レポートの印刷設定を設定する

Crystal レポートをスケジュールする際、生成されたオブジェクトインスタンスを印刷させるように選択することができます。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力設定] をクリックします。
- 2 Web ビューアの印刷モードを選択します。
 - ・ レポートを PDF 形式で印刷する場合は、[常に PDF に印刷する (プレビュー)] をクリックします。
 - ・ レポートの印刷設定を使用する場合は、[Crystal Reports の基本設定に従う] をクリックします。
- 3 レポートを実行時に印刷する場合は、[スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスをオンにして、以下を実行します。
 - a [通常使用するプリンタ] を選択してデフォルトのプリンタを使用するか、[プリンタの指定] を選択して適切なプリンタ情報を指定します。
 - b [部数] フィールドに印刷する部数を入力します。
 - c [ページ範囲] で、[すべて] (レポートのすべてのページを印刷する場合) を選択するか、[ページ] を選択して印刷する最初のページと最後のページを入力します。
 - d [部単位で印刷するオプションを設定] 一覧でインスタンスを部単位で印刷するかどうかを選択します。
 - e [ページの拡大縮小] 一覧で拡大縮小設定を指定します。
 - f 各ページを中央揃えにする場合は、[ページの中央揃え] を選択します。
 - g 横方向のページを用紙に合わせる場合は、[横方向のページを 1 ページに合わせる] を選択します。
- 4 [レポートのページレイアウトを設定] で、使用するレイアウトを選択します。
 - ・ [指定のプリンタ設定] を選択した場合は、使用するプリンタ設定を指定します。
 - ・ [カスタム設定] を選択した場合は、標準のレイアウト設定とカスタムレイアウト設定のどちらを使用するか指定します。カスタムレイアウト設定の場合は、使用する用紙の向きとサイズを選択します。
- 5 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.8 パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする

パラメータによって、ユーザは情報の入力を要求されます。レポートオブジェクトの場合、この入力情報によってレポートに表示されるデータが異なります。たとえば、営業で使用するレポートには、ユーザに地域の選択を求めるパラメータを設定します。ユーザが地域を選択すると、レポートには、指定した地域の結果のみが表示されます。

注

Web Intelligence ドキュメントでは、パラメータはプロンプトと呼ばれます。

パラメータは、[スケジュール] ダイアログボックスで設定することができます。スケジュールしたオブジェクトにパラメータが含まれない場合、[プロンプト] オプションは表示されません。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[プロンプト] をクリックします。

注

[スケジュール] ダイアログボックスでのパラメータオプションの表示は、どのようにパラメータフィールドが作成されたかによって、オブジェクトごとに異なります。プログラムオブジェクトでは、代わりに[引数]フィールドが表示されることがあります。

- 2 必要に応じてパラメータ値を変更します。

Crystal レポートの場合は、変更するパラメータの値をクリックします。Web Intelligence ドキュメントの場合は、[変更] をクリックしてプロンプト値を編集します。

- 3 必要に応じてスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.9 イベントでオブジェクトをスケジュールする

イベントベースのスケジュールを使用すると、オブジェクトをスケジュールするときにより詳細に制御できます。たとえば、指定したイベントが発生した後にのみオブジェクトが実行されるように、システムを設定できます。イベントに関する作業は、イベントの作成と、オブジェクトのスケジュールという2つの手順によって成り立ちます。一度イベントを作成すれば、オブジェクトをスケジュールする際にそれを依存関係として選択できます。これにより、スケジュールされたジョブは、イベントの発生時にのみ処理されます。

オブジェクトをスケジュールするときに、セントラル管理コンソール (CMC) でイベントを作成してから、BI 起動パッドでイベントを選択します。イベントの作成や CMC の詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

- 1 [スケジュール] ダイアログボックスで [イベント] をクリックします。
- 2 スケジュールされたオブジェクトを発生させるイベントを指定するには、[利用可能なイベント] リストでイベントを選択してから、[>] をクリックして [待機するイベント] リストに移動します。
- 3 スケジュールされたジョブの終了時に発生させるイベントを指定するには、スケジュールされたイベントを [利用可能なイベント] リストで選択してから、[>] をクリックして [完了時に発生させるイベント] リストに移動します。
- 4 必要に応じてその他のスケジュールオプションを設定し、[スケジュール] をクリックします。

イベントのスケジュールの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム ユーザガイド』の「オブジェクトのスケジュール」の章を参照してください。

7.2.10 スケジューリングサーバグループを設定する

オブジェクトをスケジュールする場合は、システムがオブジェクトを実行するために使用するサーバグループを選択できます。

1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[スケジューリングサーバグループ] をクリックします。

2 必要なスケジューリングサーバグループオプションを選択します。

- ・ 最初に見つかった利用可能なサーバを使用する

これはデフォルトオプションです。BI プラットフォームは、スケジュール時に空きリソースが最も多いサーバを使用します。

- ・ 選択したグループに所属するサーバを優先して使用する

リストからサーバグループを選択します。このオプションでは、サーバグループ内にあるサーバでオブジェクトを処理するよう試みます。指定したサーバが使用できない場合、オブジェクトは次の利用可能なサーバで処理されます。

- ・ 選択したグループに所属するサーバだけを使用する

このオプションを使用すると、BI プラットフォームは選択したサーバグループ内の指定したサーバのみを使用します。サーバグループのすべてのサーバが使用できない場合、オブジェクトは処理されません。

3 BI プラットフォームのデプロイメント環境でフェデレーションを使用し、オブジェクトが配置されているサイトでオブジェクトを実行する場合は、[元のサイトで実行] を選択します。

4 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.11 Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する

注

キャッシュオプションを選択するには、そのオブジェクトの出力形式として Web Intelligence を指定する必要があります。これ以外の形式を選択した場合には、指定したキャッシュオプションが無効になります。

スケジュールされた Web Intelligence ドキュメントをシステムが実行する際には、インスタンスが生成され、Output File Repository Server に保存されます。また、ドキュメントのキャッシュ形式を選択することにより、適切な Report Server にレポートをキャッシュすることもできます。キャッシュ形式を選択しない場合、ドキュメントはキャッシュされません。

1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[キャッシュ] をクリックします。

2 キャッシュを事前ロードする際に使用する形式を選択します。

3 キャッシュを事前ロードする際に使用するロケールを選択します。

ドキュメントをスケジュールする場合、BI プラットフォームは指定したロケールにキャッシュされたドキュメントを生成します。

4 その他のスケジュールオプションを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.2.12 レポートインスタンスの言語を選択する

注

このタスクは、Crystal レポートのみに適用されます。

このタスクは、レポートインスタンスを異なる言語で生成する場合に実行します。

1 [スケジュール] ダイアログボックスで、[言語] をクリックします。

2 言語オプションを選択します。

- ・ 優先表示ロケールでレポートをスケジュール

このオプションを選択すると、基本設定で設定した優先表示ロケールに従ってレポートがスケジュールされ、そのロケールだけを使用してインスタンスが生成されます。

- ・ 複数のロケールでレポートをスケジュール

このオプションを選択すると、レポートが複数の言語でスケジュールされます。このオプションを選択した場合は、ロケールの選択も必要になります。このためには、[すべてのロケール] 一覧から [選択インスタンスロケール] 一覧にロケールを移動します。

3 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

7.3 インスタンスの一時停止および再開

必要に応じて、オブジェクトのインスタンスを一時停止して再開できます。たとえば、Job Server をメンテナンスのためにダウンさせる場合は、Job Server が実行されていないときにスケジューリングジョブが失敗しないように、スケジュールしたインスタンスを一時停止してオブジェクトを実行しないようにします。Job Server が再始動したら、このスケジュールされたオブジェクトを再開することができます。

注

一時停止と再開はスケジュールされたインスタンスにのみ適用できます。つまり、[待機]または[定期]のステータスを持つオブジェクトにのみ適用されます。

7.3.1 インスタンスを一時停止する

1 オブジェクトを見つけて選択します。

2 [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。

[履歴] ウィンドウが表示されます。

3 一時停止するスケジュール済みインスタンスを選択します。

- 4 [一時停止]をクリックします。

7.3.2 一時停止したインスタンスを再開する

- 1 オブジェクトを見つけて選択します。
- 2 [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。
[履歴] ウィンドウが表示されます。
- 3 再開する一時停止されているインスタンスを選択します。
- 4 [再開] をクリックします。

7.4 オブジェクトパッケージのスケジュール

オブジェクトパッケージは、他のオブジェクトまたはコンポーネントのコンテナとして機能するオブジェクトの一種です。オブジェクトパッケージは CMC でのみ作成または編集することができ、スケジュール可能なオブジェクトタイプを含むことができます。オブジェクトをオブジェクトパッケージに追加するには、必要なアクセス権を持っているユーザが、CMC でオブジェクトをコピーして、オブジェクトパッケージに貼り付ける必要があります。オブジェクトパッケージ内のオブジェクトは、コピー元のオブジェクトとは区別され、オブジェクトパッケージのコンポーネントになります。オブジェクトパッケージをスケジュールすると、コンポーネントごとにインスタンスが作成されて、複数のオブジェクトを同時にスケジュールできます。1 つのオブジェクトパッケージの 1 つのコンポーネントを独自にスケジュールすることはできません。

オブジェクトパッケージのスケジュールは、個々のオブジェクトのスケジュールとは若干異なります。いくつかのスケジューリングオプションをオブジェクトパッケージレベルで設定する必要があります。これらのスケジューリングオプションは、繰り返し、出力先、イベント、およびサーバグループ設定です。その他のスケジュールオプションは、オブジェクトパッケージのコンポーネントごとに設定されます。これらのスケジューリングオプションは、通知、データベースログオン設定、フィルタ(適用可能な場合)、形式、出力設定、パラメータ、プロンプト、または引数(適用可能な場合)です。

7.4.1 オブジェクトパッケージをスケジュールする

- 1 オブジェクトパッケージを選択し、[アクション]をクリックして、[スケジュール]を選択します。
- 2 オブジェクトに設定する場合と同様に、インスタンスのタイトル、繰り返し、出力、イベント、およびサーバグループ設定を設定します。
- 3 [コンポーネント]をクリックします。
- 4 各コンポーネントの名前をクリックし、コンポーネントごとに必要に応じて通知、データベースログオン、フィルタ、形式、印刷、キャッシュ、パラメータ/プロンプト設定を設定します。

これらの設定の詳細については、以下のトピックを参照してください。

コンポーネントへのスケジュールリングパラメータの設定が完了したら [保存して閉じる] をクリックし、オブジェクトパッケージのスケジュールリングページに戻って、その他のスケジュールリングパラメータを設定します。

関連項目

- ・ 68 ページの [スケジュール済みのインスタンスのタイトルを設定する](#)」
- ・ 69 ページの [定期スケジュールパターンを選択する](#)」
- ・ 77 ページの [出力先を指定する](#)」
- ・ 84 ページの [イベントでオブジェクトをスケジュールする](#)」
- ・ 84 ページの [スケジュールリングサーバグループを設定する](#)」
- ・ 70 ページの [データベースログオン情報を指定する](#)」
- ・ 82 ページの [レコード選択式を適用する](#)」
- ・ 70 ページの [インスタンス形式を指定する](#)」
- ・ 83 ページの [Crystal レポートの印刷設定を設定する](#)」
- ・ 85 ページの [Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する](#)」
- ・ 83 ページの [パラメータまたはプロンプトでオブジェクトをスケジュールする](#)」


7.5 インスタンスの使用

7.5.1 オブジェクトの最新のインスタンスを表示する

Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、パブリケーション、およびオブジェクトパッケージなどのオブジェクトのインスタンスを表示できます。

- 1 オブジェクトに移動し、選択します。
- 2 [表示] > [最新のインスタンスを表示] をクリックします。

関連するビューアにオブジェクトの最新インスタンスが表示されます。

必要な権限が与えられている場合は、ビューアツールバーの  をクリックして、レポートまたはドキュメントをデータソースの最新データで最新表示できます。

7.5.2 履歴インスタンスの表示

BI プラットフォームは、スケジュール済みのオブジェクトの実行後、オブジェクトインスタンスの履歴を保存します。履歴情報は日付順（最新のインスタンスが最初）に並べられ、次のような情報が含まれます。

- ・ インスタンスの日時
- ・ タイトル
- ・ ステータス
- ・ 作成者
- ・ タイプ
- ・ ロケール
- ・ パラメータ


注

使用可能な情報は、表示しているオブジェクトのタイプに応じて変わります。

7.5.2.1 オブジェクトの履歴を表示する

- 1 オブジェクトに移動し、選択します。
- 2 [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。
[履歴] ウィンドウが表示されます。
- 3 [インスタンスの日時] 列にあるリンクをダブルクリックして、オブジェクトインスタンスを表示します。

ヒント

[インスタンスの日時]、[タイトル]、[ステータス] または [作成者] の隣にある [ファンネル] アイコン () をクリックすると、さまざまな基準に従ってインスタンスを並べ替え、表示できます。このアイコンは、列の見出しにマウスを置くと表示されます。

7.5.3 BI 受信トレイを空にする

BI 受信トレイからすべてのインスタンスを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 ドキュメントタブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[受信トレイ] ノードをクリックします。
BI 受信トレイのコンテンツがリストパネルに表示されます。
- 2 [整理] > [すべてのメッセージを削除] をクリックします。
- 3 確認を求めるメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

StreamWork の使用

8.1 SAP StreamWork の使用

SAP StreamWork から共同の意思決定とソーシャルメディアの機能が BI 起動パッドに提供されます。[ホーム] タブから直接 SAP StreamWork のフィードを監視できます。Crystal Reports および Web Intelligence のドキュメントを SAP StreamWork アクティビティに送信できます。パブリックドキュメントの投稿されたコメントのフィードを表示したり、オンラインディスカッションに参加したりできます。

注

管理者が SAP StreamWork と統合するように BI 起動パッドを設定している場合、BI 起動パッドで SAP StreamWork の機能を使用できます。[ホーム] タブに SAP StreamWork のフィードを表示するには、追加の設定が必要です。詳細については、BI 管理者に問い合わせてください。

ドキュメントのフィード

ドキュメントの表示権限があれば、オンラインディスカッションに参加したり、SAP StreamWork ユーザが投稿したコメントを表示したりできます。

SAP StreamWork への BI コンテンツの送信およびスケジュール

[送信] および [スケジュール] コマンドを使用する場合、出力先として SAP StreamWork を選択できます。

SAP StreamWork のフィードの監視

BI 管理者が、SAP StreamWork 向けに [カスタムホーム] タブを設定している場合、BI 起動パッドの [ホーム] タブから SAP StreamWork フィードを監視できます。カスタマイズする [ホーム] タブは、BI ワークスペースで設定します。BI 起動パッドの [基本設定] メニューを使用して、デフォルトの [ホーム] タブを置き換えることができます。

SAP StreamWork の詳細については、[ヘルプ] ページ (<http://www.sap.com/solutions/technology/cloud/streamwork/delivery/help.epx>) に移動して、マニュアル、チュートリアル、およびユーザフォーラムを参照してください。

8.1.1 フィードの操作

フィードの監視

BI 管理者が SAP StreamWork を [カスタムホーム] タブに追加している場合、BI 起動パッドの [ホーム] タブから直接 SAP StreamWork のフィードを監視できます。

注

カスタマイズする [ホーム] タブは、BI ワークスペースを使用して設定します。BI 起動パッドの [基本設定] メニューを使用して、デフォルトの [ホーム] タブを置き換えることができます。詳細については、管理者にお問い合わせください。

このモジュールの使用方法

フォローしているドキュメントのフィードに関する新しいコメントを確認します。自分の SAP StreamWork アクティビティとフォローしているユーザの更新を監視します。[コメント] を選択して返答を入力し、投稿に返信します。[発言してください] にテキストを入力して、自分のニュースを投稿したり、ディスカッションスレッドを開始したりします。

SAP StreamWork のフィードの詳細については、<http://www.sap.com/solutions/technology/cloud/streamwork/delivery/help.epx> にあるチュートリアルおよびヘルプを参照してください。

8.1.2 ドキュメントのフィードの使用

ドキュメントのフィードを使用して、アクセス権を持つパブリックドキュメントに関して、他の BI 起動パッドユーザが投稿したコメントを監視したり、コメントに返信したりできます。自分が関心のあるレポートやドキュメントに関するディスカッションに参加し、ニュースとアップデートについて読んだり、BI 起動パッドユーザのコミュニティとつながりを持つことができます。

ユーザは [SAP StreamWork] 列のアイコンを見ることで、[ドキュメント] タブのパブリックドキュメントのフィードパネルにコメントが投稿されているかどうかを確認できます。それぞれのアイコンは次のことを表しています。

- ・ ドキュメントのフィードをフォローしている
- ・ コメントが投稿されていない
- ・ 1 つ以上のコメントが投稿されている

注

全般基本設定では、[SAP StreamWork] 列を表示するために、[[ドキュメント] タブに表示される列を選択します] の下で [SAP StreamWork/ディスカッションステータス] が選択されている必要があります。

前提条件

ドキュメントフィードにアクセスするには、以下が必要になります。

- ・ ドキュメントのアクセス権限
- ・ SAP StreamWork ライセンス
- ・ SAP StreamWork と統合するように設定された BI 起動パッド

詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

ドキュメントのフィードにアクセスする

ドキュメントをクリックし、ツールバーの [詳細] を選択します。[詳細] パネルで、[SAP StreamWork] タブをクリックします。

注

フィードに初めてアクセスする場合は、SAP StreamWork ログオン認証情報を入力するよう求められます。特定のドキュメントのフィードを初めて表示する場合、コメントは表示されません。コメントを表示するには、フィードをフォローする必要があります。

ドキュメントのフィードをフォローする

- ・ ドキュメントを選択し、[その他のアクション] > [フォロー] をクリックします。

メッセージを投稿する

- ・ [発言してください] ボックスにメッセージを入力し、[投稿] をクリックします。

投稿と返信は個人専用ではありません。ドキュメントの表示権限があり、SAP StreamWork ライセンスを持ち、SAP StreamWork と統合するように BI 起動パッドが設定されている BI 起動パッドユーザが投稿を見ることができます。

8.1.2.1 SAP StreamWork にドキュメントを送信またはスケジュールする

管理者が SAP StreamWork と統合するように BI 起動パッドを設定していて、SAP StreamWork ライセンスを所有している場合、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、または PDF ファイルなどのコンテンツを SAP StreamWork に送信およびスケジュールできます。

ドキュメントを SAP StreamWork に送信するには、次の手順に従います。

- 1 送信するドキュメントまたはインスタンスを選択します。
- 2 [送信] > [SAP StreamWork] をクリックします。
このオプションを初めて選択する場合は、SAP StreamWork のログインページが表示されます。次にこのコマンドを選択するときには、[SAP StreamWork に送信] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 SAP StreamWork にログオンします。
アカウントが認証されます。
- 4 ワークリストを選択するか、[すべてのアクティビティ] を選択します。
デフォルトでは、すべてのアクティビティが表示されます。
- 5 既存のアクティビティを選択するか、デフォルト設定の [新しいアクティビティ] を選択します。
アクティビティによりドキュメントが表示される SAP StreamWork の出力先が決定されます。[新しいアクティビティ] を選択する場合、次の手順に従います。
 - a アクティビティ名を入力します。
 - b 任意でアクティビティの目的を入力します。この目的は、SAP StreamWork の [バージョン情報] フィールドに表示されます。
 - c 項目説明を入力します。これは、送信するドキュメントに関するコメントです。
 - d アクティビティタイプを選択します。
- 6 アクティビティに招待するユーザの電子メールアドレスを入力します (オプション)。[参加者の追加] ボックスで、1 つ以上の電子メールアドレスをカンマで区切って入力します。
SAP StreamWork によって、入力した電子メールアドレスのすべてのユーザに招待状が電子メールで送信されます。

7 [送信] をクリックします。

[概要] ダイアログボックスが表示されます。

8 [概要] ダイアログボックスに表示されたリンクをクリックして、SAP StreamWork に移動します。

注

このリンクから SAP StreamWork のホームページに移動し、ここから新しく作成されたアクティビティに移動できます。サーバの負荷により、新しいアクティビティの表示に時間がかかる場合があります。

SAP StreamWork には、ドキュメントアイコン付きの [アクティビティ] ページが表示されます。ドキュメントを起動するためにはビューアが必要な場合があります。BI 起動パッドに戻るには、OpenDocument リンクを使用します。

注

ドキュメントのスケジュール時、SAP StreamWork の出力先の設定と同じオプションを [送信] コマンドを使用時に使用できます。また、[履歴にインスタンスを保持する] を選択して、スケジュールされたインスタンスを保存できます。

ディスカッションの使用

9.1 ディスカッション

ディスカッションでは、他の BI プラットフォームユーザがレポート、ハイパーリンク、プログラム、および BI プラットフォームオブジェクトに関するメモを投稿できます。アクセスできるオブジェクトでは、メモを追加したり、ディスカッションスレッド(階層で整理された関連するメモ)を作成したりできます。権限のあるユーザは、メモを表示したり、ディスカッションスレッドにコメントを追加したりできます。

注

ディスカッションを使用するには、システム管理者が BI 起動パッドのディスカッションを有効化し、オブジェクトと関連するメモに表示権限を割り当てる必要があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

SAP StreamWork のソーシャルメディア

管理者が SAP StreamWork と統合するように BI プラットフォームを設定している場合、BI 起動パッド内でコメントを投稿したり、SAP StreamWork ユーザとのオンラインディスカッションに参加したりできます。

関連項目

- 91 ページの [フィードの操作](#)




9.1.1 ディスカッションを開く

各オブジェクトのディスカッション(メモとスレッド)は、オブジェクトの [詳細] パネルにあります。

- 1 [ドキュメント] タブからオブジェクトを選択します。
- 2 [詳細] をクリックします。
詳細パネルがドキュメントタブの右側に開きます。
- 3 [ディスカッション] ドロワを展開します。
選択したオブジェクトに関連するすべてのメモとスレッドが表示されます。

9.1.2 メモを追加する

表示権限のあるオブジェクトにメモを追加できます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2  [新規メッセージ] をクリックします。
- 3 [件名] フィールドに、メモの見出しを入力します。
このフィールドに入力できる文字の最大数は 255 文字です。
- 4 [メッセージ] フィールドに、メモのメッセージを入力します。
このフィールドに入力できる文字の最大数は 1,000 文字です。
- 5 必要に応じて、 (重要度 - 高) または  (重要度 - 低) をクリックして、メモの重要性を設定します。
- 6 [投稿] をクリックします。

関連項目

- ・ 95 ページの [ディスカッションを開く](#)

9.1.3 メモを編集する

作成したメモはいつでも編集できます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 編集するメモを選択します。
- 3 [件名] のテキストを編集し、[メッセージ] フィールドを編集します。
- 4 [投稿] をクリックします。



注

他のユーザが作成したメモや、管理権限のないディスカッションスレッド内で返信したメモは編集できません。

関連項目

- ・ 95 ページの [ディスカッションを開く](#)

9.1.4 メモに返信する


- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 返信するメモを選択します。
+ 記号をクリックして、そのオブジェクトに関連したメモのレベルを展開します。返信の投稿は、グループ全体に行うことも、メモを投稿したユーザにのみ行うこともできます。未読のメモは太字で表示されます。
- 3  [グループに返信] または  [送信者に返信] をクリックします。
[グループに返信] を選択すると、オブジェクトに関連付けられたメモを表示する権限のあるすべてのユーザが返信を表示することができます。
- 4 [件名] の内容と [メッセージ] フィールドを編集します。
- 5 [投稿] をクリックします。

関連項目

- ・ 95 ページの [ディスカッションを開く](#)

9.1.5 メモを削除する

作成したメモはいつでも削除できます。

- 1 ディスカッションを開きます。
- 2 削除するメモを選択します。
- 3  をクリックします。

注

他のユーザが作成したメモや、ディスカッションスレッドへの返信が含まれているメモは管理権限がなければ削除できません。

関連項目

- ・ 95 ページの [ディスカッションを開く](#)

公開

10.1 公開について

公開により、Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントなどのドキュメントはディスクに保存され、BI プラットフォームで Web の表示、アーカイブ、取得、スケジュール用に管理されて、電子メールまたは FTP サーバ経由で自動的に使用可能になります。BI 起動パッドまたは CMC を使用して、ドキュメントを異なるそれぞれのユーザ (受信者) 用にカスタマイズしたり、スケジュールして一定の間隔で実行したり、また、BI 受信ボックスや電子メールアドレスなどの複数の出力先に送信したりすることができます。

10.2 パブリケーションとは

パブリケーションは、不特定多数の受信者に配信するドキュメントのコレクションです。ドキュメントを配信する前に、公開者はメタデータのコレクションを使用してパブリケーションを定義します。このメタデータには、パブリケーションのソース、受信者、および適用されるパーソナライゼーションが含まれます。

パブリケーションを使用すると、組織内への情報提供をより効果的に行うことができます。

- ・ 個人またはユーザグループに個人用またはグループ用にカスタマイズしたフィルタを適用して、情報を簡単に配信できます。
- ・ イン트라ネット、エクストラネット、またはインターネット経由でパスワード保護されたポータルを使って個人またはグループに必要なビジネス情報を提供することができます。
- ・ ユーザが自分でドキュメント処理要求を送信する手間が省かれるので、データベースへのアクセスを最小限に抑えることができます。

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントに基づいて、さまざまな種類のパブリケーションを作成できます。

10.3 パブリケーションの概念

10.3.1 レポートバースト

公開中、ドキュメント内のデータがデータソースに対して最新表示され、パーソナライズされてから、パブリケーションが受信者に配信されます。この結合されたプロセスをレポートバーストと呼びます。パブリケーションのサイズや、対象受信者の数に応じて、いくつかのレポートバースト方法の中から選択できます。

- すべての受信者のデータベースフェッチ

このレポートバースト方法を使用すると、パブリケーションのすべてのドキュメントが一度だけ最新表示され、ドキュメントは受信者ごとにパーソナライズされて配信されます。このレポートバーストの方法では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用して、データを最新表示します。

これは、Web Intelligence ドキュメントパブリケーションのデフォルトオプションです。このオプションは、データベースにおける公開の影響をできる限り抑える場合にも推奨されます。このオプションは、ソースドキュメントが静的ドキュメントとして配信される場合にも安全です。たとえば、Web Intelligence ドキュメントをその元の形式で受信した受信者は、ドキュメントを変更したり、他の受信者に関連するデータを表示できます。ただし、ドキュメントが PDF として配信された場合は、そのデータは安全です。

注

- このオプションは、Crystal レポートが元の形式で配信されたかどうかに関係なく、ほとんどの Crystal レポートに対して安全です。
- このオプションのパフォーマンスは、受信者数によって異なります。
- 受信者のバッチごとのデータベースフェッチ

このレポートバースト方式を使用すると、パブリケーションは最新表示され、パーソナライズされてから、受信者にバッチで配信されます。このレポートバースト方式では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。バッチは受信者に対して指定したパーソナライゼーション値に基づきます。バッチサイズは、指定したパーソナライゼーション値に応じて異なり、設定できません。

これは、Crystal レポートパブリケーションのデフォルトオプションです。大容量のシナリオでも、このオプションが推奨されます。このオプションを使用すると、さまざまなサーバでバッチを同時に処理できるので、大量のパブリケーションに必要な処理負荷や時間を大幅に削減できます。

注

このオプションは、Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

- 受信者ごとのデータベースフェッチ

ドキュメント内のデータは受信者ごとに最新表示されます。たとえば、1 つのパブリケーションに受信者が 5 人いる場合、パブリケーションは 5 回最新表示されます。このレポートバースト方式では、受信者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。

このオプションは、パブリケーションをできる限り安全に配信する必要がある場合に推奨されます。

注

ユニバースまたはビジネスビューに基づく Crystal レポートは、セキュリティを最大化するために[受信者ごとのデータベースフェッチ]をサポートします。

関連項目

- ・ 142 ページの[レポートバースト方式を指定する](#)

10.3.2 配信ルール

注

この機能は、Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントの処理および配布方法に影響します。ドキュメントに配信ルールを設定する場合は、ドキュメント内の内容が特定の条件と一致する場合にのみパブリケーションが配信されることを指定します。配信ルールには次の 2 種類があります。

- ・ 受信者配信ルール

受信者のインスタンス内のデータが配信ルールに一致すると、そのインスタンスは受信者に配信されます。

- ・ グローバル配信ルール

指定されたドキュメント内のデータが配信ルールに一致すると、パブリケーションはすべての受信者に配信されます。

注

グローバル配信ルールに対して指定されるドキュメントは、パブリケーションで使用されている 1 つまたは複数のドキュメントと異なる場合があります。たとえば、パブリケーション内のドキュメントではなく、動的受信者ソースとして使用されるドキュメントにグローバル配信ルールを設定できます。

パブリケーションに受信者配信ルールとグローバル配信ルールが設定されている場合、グローバル配信ルールが最初に評価され、パブリケーションが処理されるかどうか決まります。パブリケーションがグローバル配信ルールに一致すると、システムによって受信者配信ルールが評価され、受信者ごとにどのインスタンスを処理および配布するかが決定されます。

配信ルールの設定方法は、公開するドキュメントの種類に応じて異なります。Crystal レポートの場合は、レポートデザイナーが Crystal レポートで作成した名前の付いたアラートに基づいて配信ルールを指定します。配信ルールは、パーソナライズされたパブリケーションにデータが含まれているかどうかに基づいて設定することもできます。

「グローバル配信ルールに一致している場合」の図は、アラートに基づくグローバル配信ルールの動作を示しています。この図の例では、グローバル配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントに設定されています。Crystal レポートには、100,000 を超える金額に対する“売上げ”アラートが含まれています。公開者は“売上げ”アラートに基づいてグローバル配信ルールを作成し、売上げが 100,000 を超えた場合にだけ Crystal レポートがすべての受信者に配信されるようにします。この場合、配信ルールに一致すると、Crystal レポートが配信されます。

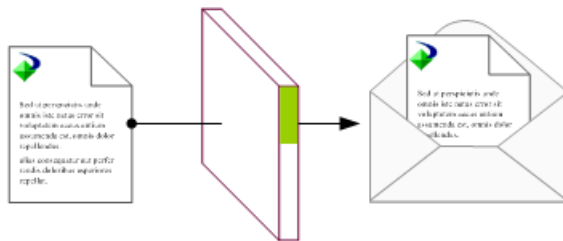


図 10-1: グローバル配信ルールに一致している場合

「受信者配信ルールに一致しない場合」の図は、受信者配信ルールの動作を示しています。公開者は、レポートに特定の受信者のデータが含まれている場合にのみレポートがその受信者に配信されるよう、Crystalレポートに受信者配信ルールを設定します。レポートが受信者ごとにパーソナライズされている場合、緑の受信者はCrystalレポートにデータを持っていません。つまり、青の受信者とオレンジの受信者だけがパブリケーションを受信します。

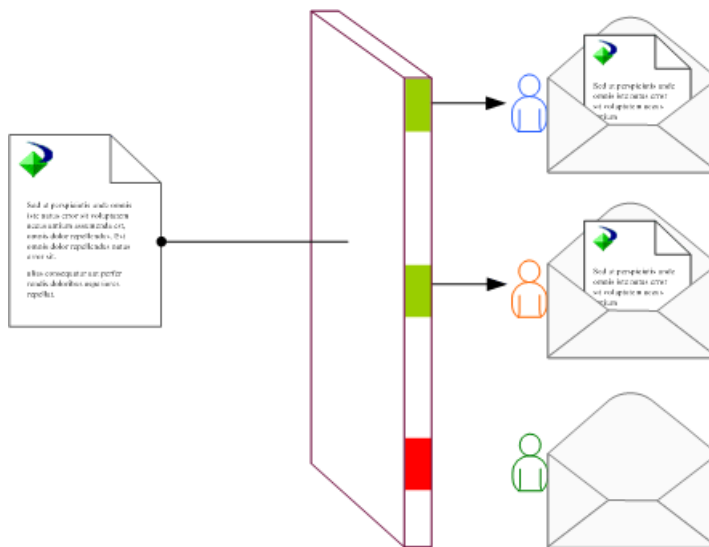


図 10-2: 受信者配信ルールに一致しない場合

複数のドキュメントおよびオブジェクトを含むパブリケーションの場合、ドキュメントごとに独自の受信者配信ルールを設定できます。これを行う場合、次の処理および配信オプションを使用できます。

- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、ある受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体がその受信者に対して配信されません。
- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、その受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、そのドキュメントは配信されませんが、パブリケーション内の他のドキュメントはすべてその受信者に配信されます。

配信ルールは、多くの受信者を対象とするパブリケーションを効率的に処理および配布できるので有用です。保険会社の公開者が、次のオブジェクトを含む顧客向けのパブリケーションを作成する例を考えてみます。

- ・ 保険請求書(パーソナライズされた Crystal レポート)
- ・ 月間ステートメント(パーソナライズされた Crystal レポート)
- ・ 支払方法に関するパンフレット(PDF)

保険請求書には、0 を超える金額に対して「支払額」アラートが存在します。公開者は、保険請求書に対して「支払額」受信者配信ルールを作成して、顧客が支払を行う必要がある場合にのみ保険請求書が発行および

配布されるようにします。また、公開者は、顧客が保険料を支払わない場合に月間ステートメントやパンフレットを顧客が受信しないようにする必要があるため、保険請求書が配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体が公開されないように指定します。パブリケーションを実行すると、パブリケーションが処理されて、支払義務のある顧客にのみ配信されます。

注

パブリケーションの実行時に Crystal レポートパブリケーションの印刷がスケジュールされている場合、パブリケーション内のドキュメントが配信ルールに一致せず、受信者に配信されない場合でも、印刷ジョブは実行されます。これは、印刷ジョブがパーソナライゼーションのときに処理され、配信ルールはパーソナライズ後のパブリケーションに適用されるからです。

関連項目

- ・ 136 ページの[Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する](#)」
- ・ 135 ページの[Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する](#)」

10.3.3 動的受信者

動的受信者は、BI プラットフォーム外に存在するパブリケーション受信者です。動的受信者は、データベースや LDAP または AD ディレクトリなどの外部データソースのユーザ情報をすでに持っていますが、BI プラットフォームのユーザアカウントは持っていません。

パブリケーションを動的受信者に配布するには、動的受信者ソースを使用します。これは、BI プラットフォーム外のパブリケーション受信者に関する情報を提供するドキュメントまたはカスタムデータプロバイダです。動的受信者ソースでは、外部のデータソースに直接リンクして最新データを取得することで、動的受信者の情報を簡単に維持できます。また、動的受信者ソースを使用すると、パブリケーションを動的受信者に配布する前に動的受信者の BI プラットフォームユーザアカウントを作成する必要がないため、管理コストが削減されます。

請求元の会社が、BI プラットフォームユーザではない顧客に請求書を配布する状況を考えてみます。顧客情報はすでに外部データベースに存在します。公開者は、外部データベースに基づいてドキュメントを作成し、パブリケーションの動的受信者ソースとしてドキュメントを使用します。顧客は請求パブリケーションを受信し、公開者とシステム管理者は動的受信者ソースを使用して最新の連絡先情報を管理できます。

動的受信者ソースを使用して、次のことを実行できます。

- ・ 1 つのパブリケーションを、動的受信者と BI プラットフォームユーザに同時に配布できます。

注

- ・ パブリケーションごとに 1 つの動的受信者ソースのみ使用できます。
- ・ 動的受信者はパブリケーションから自身を自動的に購読解除できません。
- ・ パブリケーションを作成するときに動的受信者の一覧をプレビューできます。
- ・ パブリケーションをすべての動的受信者に配布するか、特定の動的受信者を含めたり除外したりするように指定できます。
- ・ パブリケーションを電子メールや FTP サーバなどの外部の宛先に配布できます。

注

動的受信者は BI プラットフォームのユーザアカウントを持たないため、BI 受信ボックスは動的受信者には無効な宛先です。

動的受信者ソースを使用するには、次の値ごとに 1 つの列を指定します。

- ・ 受信者 ID(必須)
- ・ 受信者のフルネーム
- ・ 電子メールアドレス

受信者 ID 列によって、パブリケーションを受信する動的受信者の数が決まります。動的受信者ソースは受信者 ID に従って並べ替えることをお勧めします。

レポートの作成についての概要は、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

関連項目

- ・ 121 ページの[動的受信者を指定する](#)

10.3.4 出力先

出力先はパブリケーションの配信先です。出力先には、パブリケーションが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、およびファイルシステム上のディレクトリを指定できます。1 つのパブリケーションに複数の出力先を指定できます。

複数の Crystal レポートを公開する場合は、それらを出力先ごとに 1 つの PDF にマージすることができます。

パブリケーションを 1 つの ZIP ファイルとして公開する場合は、出力先ごとにインスタンスを ZIP ファイルに圧縮または解凍することができます (たとえば、電子メール受信者用のインスタンスは ZIP に圧縮し、BI 受信ボックスではそれらのインスタンスを解凍した状態にしておくことができます)。

10.3.4.1 指定可能な出力先

出力先	説明
デフォルトの Enterprise の場所	<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。デフォルトの出力先について、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。・ パブリケーションを Zip ファイルとしてパッケージ化する。 <p>注 デフォルトの場所に配布するか、またはショートカットを受信者の BI 受信ボックスに配布する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。</p>
BI 受信ボックス	<p>受信者の BI 受信ボックスに送信するには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 各ユーザにオブジェクトを配信する。・ 名前を入力する、プレースホルダを使用する、またはデフォルトの名前を使用する。・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) としてパッケージ化する。
電子メール	

出力先	説明
	<p>パブリケーションは、メッセージとともに電子メールで受信者に送信されます。Adaptive Job Server で電子メールが正しく設定されていることを確認します。パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。電子メール受信者の場合は、[差出人] フィールドに必要な情報を入力することをお勧めします。[差出人] フィールドに入力しない場合、BI プラットフォームでは、パブリッシャのアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。パブリッシャのアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の設定が使用されます。</p> <p>注</p> <p>[差出人] フィールド、パブリッシャのアカウント、または Adaptive Job Server で [差出人] が指定されていない場合は、パブリケーションは失敗します。</p> <p>次のような選択肢もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ユーザにオブジェクトを配信する。 ・ [宛先] フィールドに入力する、または電子メールアドレスのプレースホルダを入力する。 ・ [Cc] フィールドに入力する。 ・ [Bcc] フィールドに入力する。 ・ 件名を入力するか、または [件名] フィールドに使用するプレースホルダを選択する。 ・ パブリケーションと一緒に配信される [メッセージ] フィールドにテキストを入力する。[メッセージ] フィールドに使用するプレースホルダを一覧から選択し、電子メールの本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込むこともできます。 ・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する。 ・ 添付ファイル名が自動生成されるようにする、名前を指定する、またはプレースホルダの一覧から適切な名前を選択する。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) としてパッケージ化する。 <p>注</p> <p>この出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。パブリケーションを電子メールで送信している場合は、[宛先] フィールドにプレースホルダ %\$EMAIL_ADDRESS% があり、[各ユーザにオブジェクトを配信] が選択されていることを確認してください。</p>
FTP サーバ	

出力先	説明
	<p>FTP サーバの場合は、[ホスト]フィールドに入力します。[ホスト]フィールドに入力しない場合、Adaptive Job Server に設定されているオプションが使用されます。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを指定する。 ・ ディレクトリ名を入力する。 ・ ファイル名が自動生成されるようにする、カスタム名を入力する、またはプレースホルダの一覧から名前を選択する。[指定の名前]を選択した場合、ファイルの拡張子も追加することができます。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) としてパッケージ化する。
ローカルディスク	<p>出力先としてローカルディスクを選択した場合、パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次のような選択肢もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各ユーザにオブジェクトを配信する。 ・ ファイル名が自動生成されるようにする。または、適切なファイル名を入力するか、プレースホルダの一覧から選択する。名前を指定する場合は、ファイルの拡張子を選択して追加することもできます。 ・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する。 ・ すべての PDF ドキュメントをマージする(Crystal レポートのみ)。 ・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) としてパッケージ化する。

注

- ・ デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] がオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライズ値を持っていると、各パブリケーションインスタンスの同じデータが受信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回(受信者ごとに 1 回ずつ)配信されます。また、パブリケーションを FTP サーバまたはローカルディスクの出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信]を無効にすると、処理時間全体を短縮できます。
- ・ [各ユーザにオブジェクトを配信]をオフにした場合は、出力先を設定するときに使用するすべてのプレースホルダに、受信者ではなく公開者の情報が含まれます。

10.3.5 パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ

[パーソナライゼーション] を使用してソースドキュメントのデータをフィルタした場合、パーソナライズされたプレースホルダを使用してパブリケーションインスタンスに名前を付けることができます。

パーソナライズされたプレースホルダをファイル名に組み込むと、受信者はフィルタされたデータを簡単に識別できます。パーソナライゼーション値が異なる複数のユーザグループに属している受信者は、同じソースドキュメントの複数のバージョンの違いをそのコンテンツを表示することなく区別できます。

パーソナライゼーションがパブリケーションに設定されると、パーソナライズされたプレースホルダが [出力先] ページの [プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

注

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタされていなければ [指定の名前を使用する] の [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライズされたプレースホルダが表示されません。

レポートのすべてのフィルタで、次のパーソナライズされたプレースホルダが表示されます。

- ・ フィールド名に対応するプレースホルダ。%<field name>-NAME%として表されるプレースホルダは、実行時にフィールド名に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者に表示されます。
- ・ フィールドのパーソナライズ値に対応するプレースホルダ。%<field name>-VALUE%として表されるプレースホルダは、レポートをフィルタするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

パーソナライズされたプレースホルダを使用するには、[選択した出力先のオプションを表示] エリアで以下の選択を行います。

- 1 該当するパブリケーション名の [指定の名前を使用する] オプションを選択し、[プレースホルダの追加] 一覧から必要なプレースホルダを選択します。複数のプレースホルダを追加するには、この手順を繰り返します。テキストとプレースホルダを結びつけるには、まずテキストを入力してからプレースホルダを選択します。
- 2 個々のドキュメントの [ドキュメントごとの指定の名前] オプションを選択します。各ドキュメントのタイトルのそばにある [プレースホルダの追加] 一覧から必要なプレースホルダを選択します。複数のプレースホルダを追加するには、この手順を繰り返します。テキストとプレースホルダを結びつけるには、まずテキストを入力してからプレースホルダを追加します。
- 3 保存して終了するには、[保存して閉じる] を選択します。選択内容は保存するが、別の出力先またはオプションを選択する場合は、[保存] を選択します。

例

カナダの営業マネージャとアメリカの営業マネージャという 2 つのユーザグループに四半期売上レポートを公開するとします。Crystal レポートの名前は国別四半期売上です。パーソナライゼーションが国フィールドに適用されていて、各グループでそれぞれの国のデータを受信します。アメリカの営業マネージャでは国フィールドのプロファイル値が "米国" で、カナダの営業マネージャでは国フィールドのプロファイル値が "カナダ" です。

次の 3 つのパーソナライズされたプレースホルダが [プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- ・ %Document Name%. %SI_DOCUMENT_NAME% コードがフィールドに挿入されます。
- ・ %Country - Query 1-NAME%. %SI_field name-NAME% コードがフィールドに挿入されます。
- ・ %Country - Query 1-VALUE%. %SI_field name-VALUE% コードがフィールドに挿入されます。

アメリカの営業マネージャに送信されるレポート (米国のデータのみが表示されるようにフィルタされている) には、国別四半期売上_米国.pdf という名前が付きます。カナダの営業マネージャに送信されるレポート (カナダのデータのみが表示されるようにフィルタされている) には、国別四半期売上_カナダ.pdf という名前が付きます。

10.3.6 電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ

パブリケーションのすべてのソースドキュメントが同じフィールドを使用してパーソナライズされている場合、パブリケーションを電子メールで送信するときに [件名] および [メッセージ] フィールドにパーソナライズされたプレースホルダを使用できます。

パーソナライゼーション時にレポートで使用されたフィルタごとに、以下の 2 つのプレースホルダが [プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- ・ %Field - Query 1-VALUE%。これはフィールドのパーソナライズ値です。実行時に、レポートをフィルタするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。
- ・ %Field - Query 1-NAME%。これはフィールドの名前です。実行時に、フィールドの実際の名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

注

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタされていなければ [件名] および [メッセージ] フィールドの [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライゼーションパラメータが表示されません。

10.3.7 形式

形式は、パブリケーションのドキュメントを公開する際のファイルの種類を定義します。1 つのドキュメントを複数の形式で公開したり、これらのインスタンスを複数の出力先に配信することができます。複数のドキュメントを含むパブリケーションの場合、それぞれのドキュメントに異なる形式を指定できます。Web Intelligence ドキュメントを含むパブリケーションの場合は、ドキュメント全体またはドキュメント内の 1 つのレポートタブをさまざまな形式に公開できます。

ドキュメントに対して選択したすべての形式は、パブリケーションのすべての受信者に適用されます。たとえば、1 つのドキュメントを、ある受信者には Microsoft Excel ファイル形式で公開し、別の受信者には PDF 形式で公開することはできません。受信者がそれらの形式でインスタンスを受信する必要がある場合、受信者は、Microsoft Excel ファイルと PDF を 1 つずつ受信します。

10.3.7.1 指定可能な形式

ドキュメントの種類	形式	説明
すべての種類	mHTML	<p>ドキュメントは mHTML 形式で公開されます。ドキュメントの内容を電子メールに mHTML として埋め込むこともできます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ Crystal レポートの場合は、1 つのレポートの内容を電子メールに埋め込むことができます。・ Web Intelligence ドキュメントの場合は、1 つのレポートタブの内容を電子メールに埋め込むことができます。 <p>MHTML を選択すると、出力にはドキュメント選択画面にソースドキュメントを配置した順序が反映されます。たとえば、画面上部に表示されていたドキュメントは電子メールの上部に表示されます。</p>
	PDF形式 (.pdf)	<p>ドキュメントは静的な PDF として出力されます。</p> <p>注</p> <p>これを PDF のマージオプションとともに使用すると、出力にはドキュメント選択画面にソースドキュメントを配置した順序が反映されます。たとえば、画面上部に表示されていたドキュメントはマージされた PDF の上部に表示されます。</p>
	Microsoft Excel ファイル (.xls)	<p>ドキュメントは Microsoft Excel ファイルとして公開されて、ドキュメントの元の形式ができる限り保持されます。</p>

ドキュメントの種類	形式	説明
Crystal レポート	データのための Microsoft Excel ファイル(.xls)	Crystal レポートは、データのみを含む Microsoft Excel ファイルとして公開されます。
	XML	Crystal レポートは XML 形式で公開されます。
	Crystal レポート(.rpt)	Crystal レポートは元の形式で公開されます。
	Crystal レポート読み取り専用 (.rpitr)	Crystal レポートは読み取り専用形式で公開されます。
	Microsoft Word ファイル (.doc)	Crystal レポートは Microsoft Word ファイルとして公開され、Crystal レポートの元の形式が保持されます。このオプションは、受信者がパブリケーションに多くの変更を加えずに表示する場合に推奨されます。
	編集可能 Microsoft Word ファイル(.rtf)	Crystal レポートは簡単に編集できる Microsoft Word ファイルとして公開されます。このオプションは、受信者がパブリケーションを表示し、その内容を編集する場合に推奨されます。
	リッチテキスト(.rtf)	Crystal レポートはリッチテキスト形式で公開されます。
	テキスト(.txt)	Crystal レポートはテキスト形式で公開されます。
	ページ区切り付きテキスト (.txt)	Crystal レポートはテキスト形式で公開され、パブリケーションの内容がページで区切られます。
	タブ区切りテキスト(.txt)	Crystal レポートはテキスト形式で公開され、タブを使用して各列の内容が区切られます。
	文字区切り値(.csv)	Crystal レポートは文字区切り値ファイルとして公開されます。
Web Intelligence ドキュメント	Web Intelligence ドキュメント (.wid)	Web Intelligence ドキュメントは元の形式で公開されます。

10.3.8 パーソナライゼーション

パーソナライゼーションとは、パブリケーションの受信者に対して関連するデータのみが表示されるように、ソースドキュメントのデータをフィルタする処理です。パーソナライゼーションはデータのビューを変更しますが、必ずしもデータソースからクエリされたデータが変更されたり保護されるわけではありません。

以下の図では、パーソナライゼーションの動作方法を示します。パーソナライゼーションされないレポートには、データの種類 1、2、および 3 が含まれます。そのレポートにパーソナライゼーションが適用されると、ユーザは自分に関連するデータのみを受け取ります。つまり、ユーザ 2 は種類 2 のデータ、ユーザ 1 は種類 1 のデータ、ユーザ 3 は種類 3 のデータのみを受け取ります。

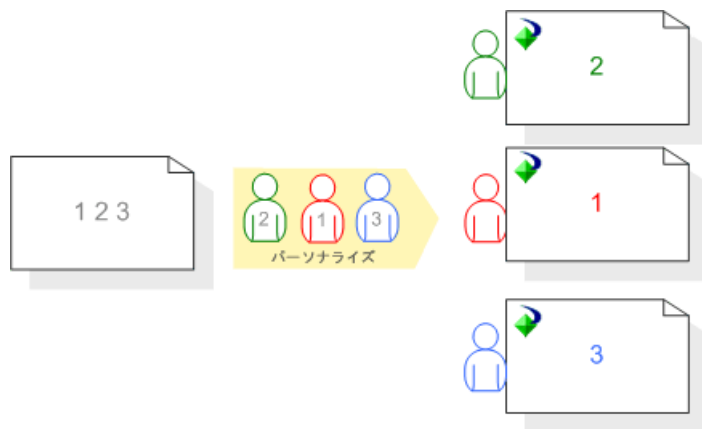


図 10-3: パーソナライゼーション

受信者に対してソースドキュメントをパーソナライゼーションすると、次のようなことができます。

- ・ 受信者が Enterprise 受信者の場合、パブリケーションを設計するときにプロファイルを適用できます。パブリケーションをパーソナライズする前に、Enterprise 受信者のプロファイルを BI プラットフォームで設定する必要があります。
- ・ 受信者が動的受信者の場合、ソースドキュメントのデータフィールドまたは列を動的受信者ソースのデータにマップできます。たとえば、ソースドキュメントの“顧客 ID”フィールドを動的受信者ソースの“受信者 ID”フィールドにマップできます。

注

パーソナライゼーションの完了後、パーソナライズされていないパブリケーションインスタンスを受信する受信者の一覧を表示するには、ナビゲーション一覧で[詳細]をクリックし、[パーソナライゼーションが適用されない完全なパブリケーションを受信するユーザを表示します。]を選択します。

10.3.9 パブリケーション拡張

パブリケーション拡張とは、ビジネスロジックをパブリケーションに適用するコードのライブラリです。処理または配信後に、パブリケーションの自動カスタマイズが必要な場合に拡張を使用します。

パブリケーション拡張を使用して、処理後に次のようなタスクを実行できます。

- ・ 同じタイプのドキュメントをマージする。たとえば、複数の Excel スプレッドシートを 1 つの Excel ワークブックにマージできます。
- ・ ドキュメントにパスワード保護を追加する、またはドキュメントを暗号化する。
- ・ ドキュメントを別の形式に変換する。
- ・ パブリケーションジョブ用のカスタムログファイルを作成する。

注

パブリケーション拡張は、CMC でのみ指定できます。BI 起動パッドでパブリケーションを作成している場合は、この機能を使用できません。

パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

関連項目

- ・ 139 ページの [パブリケーション拡張を指定する](#)

10.3.10 購読

購読では、パブリケーションの受信者ではないユーザが、最新インスタンスを表示するためにサインアップすることができます。購読者は、いつでもパブリケーションから購読解除を行うことができます。適切な権限を持っているユーザは、他のユーザの購読および購読解除できます。

パブリケーションの購読または購読解除を実行するには、BI プラットフォームのアカウントおよび以下の権限が必要です。

- ・ BI 起動パッドまたは CMC へのアクセス権
- ・ パブリケーションの表示権限
- ・ ユーザアカウントの購読権限 (Enterprise 受信者用)

注

動的な受信者は、自動的に購読または購読解除を行うことができません。

関連項目

- ・ 144 ページの [パブリケーションを購読または購読解除する](#)

10.3.11 Crystal レポート向け PFD のマージ

Crystal レポートの PDF インスタンスと静的 PDF ドキュメントは、利便性を高めるために 1 つの PDF にマージすることができます。すべての静的 PDF ソースドキュメントは、マージされた PDF に格納されます。PDF ファイル以外の静的ソースドキュメントは、マージされた PDF から除外されます。

マージされた PDF を使用して、次のことを実行することもできます。

- ・ 目次を追加および書式設定する。
- ・ 実行中のページ番号を挿入する。
- ・ PDF の表示および編集に必要なユーザパスワードと所有者パスワードを追加する。
- ・ 受信者が PDF で実行できる処理に対して制限を設定する。

10.4 公開に必要な権限

ロール	タスク	必要な権限
ドキュメントデザイナー	パブリケーションに基づくドキュメントを作成する。	なし
ドキュメントデザイナー	ドキュメントを BI プラットフォームに追加する。	・ ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示および追加権限
ドキュメントデザイナー	動的受信者ソースとして使用するドキュメントを作成する。	・ ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示および追加権限
Publisher	パブリケーションを作成する。	・ パブリケーションが保存されるフォルダに対する追加権限 ・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限 ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限 ・ パブリケーション用のドキュメントに対する表示権限 ・ ドキュメントに対するスケジュール権限 ・ Enterprise 受信者に対する購読権限

ロール	タスク	必要な権限
Publisher	パブリケーションをスケジュールする。	<p>注 これらの権限は、公開者だけが持つことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パブリケーションに対する表示、スケジュール、追加、およびセキュリティの変更権限 ・ パブリケーションに対するインスタンスの削除権限 ・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限 ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限 ・ ドキュメントに対する表示およびスケジュール権限 ・ 動的受信者ソースに対する表示および最新表示権限 ・ 配信ルールが設定されるドキュメントに対する表示および最新表示権限 ・ パブリケーションのオブジェクトで使用するすべてのユニバースに対するデータアクセス権限 ・ 使用されるすべてのユニバース接続に対するデータアクセス権限 ・ 受信者の BI 受信ボックスに対する表示および追加権限 (受信ボックスをスケジュールした場合) ・ パブリケーションが保存されるフォルダのオブジェクトに対するユーザの権限変更 ・ 受信者に対する購読権限 ・ 公開者がパブリケーションインスタンスを印刷する場合は、Crystal レポートソースドキュメントに対する印刷権限 ・ Enterprise 受信者に対する他のユーザの代理としてスケジュール権限 ([受信者ごとのデータベースフェッチ]を使用している場合)
公開者	失敗したパブリケーションインスタンスを再試行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ パブリケーションをスケジュールするための権限と同じ権限が必要 ・ パブリケーションインスタンスに対する編集権限

ロール	タスク	必要な権限
公開者	パブリケーションインスタンスを再配布する。	<ul style="list-style-type: none"> パブリケーションに対する表示、追加、スケジュール、およびセキュリティの変更権限 受信者の BI 受信ボックスに対する表示および追加権限 パブリケーション インスタンスに対するインスタンスの表示および編集権限
受信者	パブリケーションを表示する。	<ul style="list-style-type: none"> パブリケーションに対する表示権限 パブリケーションに対するインスタンスの表示権限 <p>注 これらの権限は、BI プラットフォームでパブリケーションオブジェクトを表示するために必要です。これらの権限は、BI 受信ボックスに送信された内容を表示する場合は必要ありません。</p>
受信者	パブリケーションを購読および購読解除する。	<ul style="list-style-type: none"> パブリケーションに対する表示権限 Enterprise 受信者に対する購読権限

10.4.1 公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権

公開者（パブリケーションを所有し、スケジュールするユーザ）は、すべての受信者のすべてのパブリケーションインスタンスを表示できます。受信者は、自分用にパーソナライズされたパブリケーションインスタンスを表示できます。このアクセス権の設定では、パブリケーションをスケジュールするためのアクセス権と、公開者のみにすべてのパブリケーションインスタンスを表示するアクセス権が保留されるため、パブリケーションデータのセキュリティを最大にすることができます。

ヒント

公開者が自身をパブリケーションに受信者として追加する場合は、自分用に、公開者アカウントと受信者アカウントの2つのユーザアカウントを使用します。公開者アカウントでは、パブリケーションを作成およびスケジュールするときに必要なアクセス権が付与され、受信者アカウントでは通常の受信者のアクセス権が付与されます。

パブリケーションの使用

11.1 パブリケーションのデザイン

新しいパブリケーションをデザインするには、まず BI プラットフォーム内の公開機能にアクセスします。公開機能には、BI プラットフォームで所有している権限と Web ベースアプリケーションへのアクセス権に応じて、セントラル管理コンソール (CMC) または BI 起動パッドでアクセスできます。

パブリケーションデザインプロセスでは、任意の時点でパブリケーションの変更の保存、終了、リオープン、および追加変更ができます。

11.1.1 SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションのデザイン

SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションをデザインする場合は、次の点に注意してください。

- ・ 動的なコンテンツのドキュメントは、元の形式の Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントで構成できます。
- ・ 動的受信者はサポートされません。
- ・ 使用できる出力先オプションは、デフォルトの Enterprise の場所だけです。
- ・ 受信者がパーソナライゼーションの後に複数のパブリケーションインスタンスを受信した場合、最初のパブリケーションインスタンスだけが、SAP BusinessObjects Live Office クライアントで表示できます。この問題は、受信者がグループのメンバーシップから複数のプロファイルを継承している場合に発生する可能性があります。この問題を解決するには、必要なプロファイル値のみを受信者に割り当てます。

関連項目

- ・ 111 ページの [「パーソナライゼーション」](#)

11.1.2 SAP 受信者用パブリケーションの設計

SAP 受信者用パブリケーションは、公開ワークフローにある 2 つの重要な相違点を除いて、Enterprise および動的受信者用のパブリケーションと同じ方法で動作します。

- ・ SAP 受信者用にソースドキュメントをパーソナライズする場合、[パーソナライゼーション] エリアの設定は使用しません。SAP 受信者には、BI プラットフォームの外側でユーザアカウントにマップされているプロファイル値が設定されています。この値が、SAP 受信者の組み込みのパーソナライゼーション方法として機能します。BI プラットフォームで SAP 受信者のプロファイルおよびプロファイル値を作成したり、ソースドキュメントフィールドにプロファイルをマップしたりする必要はありません。
- ・ SAP 受信者用のパブリケーションに関して機能するレポートバースト方法は、[受信者ごとのデータベースフェッチ]のみです。この方法はセキュリティを最大化し、各パブリケーション受信者のデータベースログオン認証情報を個別に処理します。

シングルサインオン設定および認証の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

11.1.3 CMC で新しいパブリケーションを作成する

- 1 CMC のフォルダエリアを表示します。
- 2 [グループツリー] で、パブリケーションを作成するフォルダを探します。
- 3 フォルダを選択して、その内容が [詳細] パネルに表示されるようにします。
- 4 [管理] > [新規] > [パブリケーション] の順にクリックします。
[新規パブリケーション] ダイアログ ボックスが表示されます。

[新規パブリケーション] ダイアログボックスで、ソースドキュメント、受信者、配信形式と配信先、およびドキュメントのパーソナライズ方法など、パブリケーションに必要なすべての情報を指定できます。

11.1.4 BI 起動パッドで新しいパブリケーションを作成する

- 1 BI 起動パッドの [ドキュメント] タブで、[フォルダ] ドロワを展開し、パブリケーションを作成するフォルダを探して選択します。
フォルダのコンテンツがリストパネルに表示されます。
- 2 [新規] > [パブリケーション] を選択します。
[新規パブリケーション] ダイアログ ボックスが表示されます。

[新規パブリケーション] ダイアログボックスで、ソースドキュメント、受信者、配信形式と配信先、およびドキュメントのパーソナライズ方法など、パブリケーション用の情報を指定できます。

11.1.5 既存のパブリケーションを開く

この手順では、既存のパブリケーションを開いてそのメタデータを編集します。

- 1 パブリケーションを選択します。
 - ・ BI 起動パッドを使用している場合は、[ドキュメント] タブで、[フォルダ] ドロワを展開し、パブリケーションを参照します。
 - ・ CMC を使用している場合は、[フォルダ] 領域に移動し、パブリケーションを参照します。
- 2 パブリケーションのプロパティを開きます。
 - ・ BI 起動パッドを使用している場合は、パブリケーションを選択し、[ビュー] > [プロパティ] をクリックします。
 - ・ CMC を使用している場合は、パブリケーションを選択し、[管理] > [プロパティ] をクリックします。

これでパブリケーションのメタデータが編集可能になりました。

11.1.6 新規パブリケーションに一般プロパティを入力する

- 1 [一般プロパティ] をクリックします。
- 2 [タイトル] フィールドに、パブリケーションのタイトルを入力します。

注
パブリケーションを作成する場合、タイトルは必須です。
- 3 [説明] フィールドに、パブリケーションの説明を入力します。
- 4 [キーワード] フィールドに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。

11.1.7 ソースドキュメントを選択する

パブリケーションの一般プロパティを入力したら、パブリケーションに含めるソースドキュメントを選択します。それ以降のオプションは、動的コンテンツドキュメントの種類によって異なります。

- 1 [ソースドキュメント] をクリックします。
- 2 [追加] をクリックします。

[ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスが開きます。
- 3 パブリケーションに含めるソースドキュメントを探し、選択します。

注
動的コンテンツドキュメントは、同じドキュメントタイプである必要があります。

ヒント

Ctrl + クリックまたは Shift + クリックを使用して複数のソースドキュメントを選択するか、1 つのソースドキュメントをダブルクリックして選択します。

- 4 [OK] をクリックします。

[ソースドキュメントの選択]ダイアログボックスが閉じます。選択したソースドキュメントが[選択]一覧に表示されます。

- 5 ソースドキュメントの横にある[実行時に最新表示]チェックボックスを選択または選択解除します。
この選択によって、パブリケーションの実行時に、個々のソースドキュメントがデータソースを反映して最新表示されるかどうかが決定されます。ソースドキュメントを最新表示する必要がない場合は、パブリケーションのパフォーマンスを向上させるために、そのドキュメントの[実行時に最新表示]チェックボックスをオフにすることをお勧めします。

ソースドキュメントを添付ファイルまたはマージされた PDF として送信する場合は、ドキュメントの表示順序を変更できます。順序を変更するには、[選択]一覧からドキュメントを選択し、[上へ移動]または[下へ移動]をクリックします。

11.1.7.1 静的ソースドキュメントを置換する

静的ソースドキュメントを置換できるようにするには、ドキュメントに対して[編集]アクセス権限を持っている必要があります。

静的 (サードパーティ) ソースドキュメントは、BI 起動パッドで作成されていないサードパーティ製のドキュメントです。たとえば、Microsoft Word、Adobe PDF、または Microsoft Excel ファイルです。

静的ドキュメントのコンテンツは更新できませんが、静的ソースドキュメントを最新バージョンのドキュメントに置換することはできます。これにより、BI 起動パッド以外で作成されたドキュメントで、最新のソース情報を見ることができます。

注

[ファイルの置換] メニューオプションが静的ソースドキュメントで使用できない場合、そのドキュメントに対して[編集] 権限を持っていないことになります。

- 1 静的ソースドキュメントを右クリックして、[整理] > [ファイルの置換] を選択します。
- 2 [ファイルの置換] ダイアログボックスで、[参照] をクリックし、コンピュータ上にある最新バージョンのソースドキュメントファイルを選択します。

注

「ファイルがソースドキュメントのファイル形式と一致しない」というメッセージが表示された場合、元のソースドキュメントとは異なる形式のファイルを選択しています。[OK] をクリックしてメッセージを閉じ、[参照] をクリックして正しいソースドキュメントを選択します。

- 3 [置換] をクリックします。
- 4 確認メッセージで、[OK] をクリックしてソースドキュメントを更新します。

11.1.8 Enterprise 受信者を選択する

Enterprise 受信者がパブリケーションを受信できるようにするには、このタスクを実行します。

- 1 [Enterprise 受信者] をクリックします。
- 2 [利用可能]領域で、受信者に含める、または受信者から除外するユーザまたはグループを探します。
 - a [ユーザー一覧] をクリックすると、BI プラットフォームの全ユーザの一覧が表示されます。[グループリスト] をクリックすると、全グループの一覧が表示されます。
 - b ユーザとグループを選択します。

ヒント

複数のユーザまたはグループを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを使用します。

- 3 選択したユーザを受信者に含める場合は、それらのユーザを[選択]一覧に移動します。
- 4 選択したユーザを受信者から除外するには、それらのユーザを[除外する]一覧に移動します。

11.1.9 動的受信者を指定する

動的受信者を指定するには、動的受信者ソースがすでに作成されており、使用可能な状態であることが必要です。動的受信者ソースには受信者のデータを格納し、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、またはカスタムコーディングされたデータプロバイダを使用できます。

カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

ヒント

パブリケーションの処理効率を高めるには、受信者データを受信者 ID フィールドに基づいて並べ替えることをお勧めします。

BI プラットフォームユーザ以外の受信者がパブリケーションを受信できるようにする場合は、このタスクを実行します。

- 1 [動的受信者] をクリックします。
- 2 [動的受信者のソースの選択]一覧から動的受信者ソースの形式を選択します。

注

Crystal レポート動的受信者のソースを、RPTR 形式にすることはできません。

- 3 右側の枠で、動的受信者ソースとして使用するオブジェクトを探して選択し、[OK]をクリックします。
- 4 動的受信者ソースとして Web Intelligence ドキュメントを使用する場合は、[ドキュメントのデータソース名の選択]一覧からドキュメントに表示されるクエリを選択します。

注

動的受信者データはクエリから取得され、ドキュメントを表示すると表示されるデータと一致していない場合があります。クエリの作成方法によっては、Web Intelligence コンポーネントで作成された動的受信者ソースには、パブリケーションのソースドキュメント内のデータに対応しない値が含まれる場合があります。たとえば、レポート内のフィルタで関連の値を除外したり、クエリが重複行を取得するように設定されているために重複するレコードが表示される場合があります。パブリケーションの作成中に、動的受信者の完全な一覧を確認することをお勧めします。

- 5 [受信者の識別子]一覧から、受信者の ID 値が含まれるフィールドを選択します。

- 6 必要に応じて、[フルネーム]一覧から受信者のフルネームが含まれるフィールドを選択します。
- 7 パブリケーションを電子メールアドレスに配信する場合は、[電子メール]一覧から受信者の電子メールアドレスが含まれるフィールドを選択します。
- 8 動的受信者ソース別に一覧表示された動的受信者全員にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。
 - ・ パブリケーションを動的受信者全員に配布するには、[完全リストの使用]を選択します。
 - ・ 一部の動的受信者を含める、または除外するには、次の手順を実行します。
 - a [完全リストの使用]をオフにします。
 - b [利用可能]一覧で、含める、または除外する受信者の横にあるチェックボックスを選択します。
 - c 選択したユーザを受信者に含める場合は、それらのユーザを[選択]一覧に移動します。
 - d 選択したユーザを受信者から除外するには、それらのユーザを[除外する]一覧に移動します。

パブリケーションの動的受信者を指定したら、ソースドキュメントのフィールドを動的受信者ソースの列にマップして、パブリケーションを動的受信者向けにパーソナライズできます。

関連項目

- ・ 121 ページの[動的受信者を指定する](#)
- ・ 127 ページの[フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ 134 ページの[フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)

11.1.10 パブリケーションの出力先を指定する

- 1 [出力先] をクリックします。
- 2 [出力先の選択] で、出力先のチェックボックスをオンにします。

注

各出力先には、パブリケーションの配信方法に関するさまざまなオプションがあります。

- 3 パブリケーションインスタンスがシステムに保持されないようにするには、[デフォルトの Enterprise の場所] の選択を解除します。

ヒント

パブリケーションオブジェクトのインスタンスの制限を低く設定します。

- 4 [選択した出力先のオプションを表示] 一覧で出力先を選択します。
出力先のその他の設定オプションが表示されます。
- 5 任意で [指定の名前を使用する] を選択してパブリケーションの名前を指定します(このオプションを選択しないと、デフォルトでシステムによって生成された名前がパブリケーションに割り当てられます)。名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧のプレースホルダを選択します。
プレースホルダは、変数データのコンテナです。実行時に、値がプレースホルダに入力されます。
- 6 パブリケーションに複数のドキュメントが含まれている場合、[ドキュメントごとの指定の名前] を選択して各ドキュメントの名前を指定できます

このオプションを選択しないと、デフォルトでシステムによって生成された同一の名前が各ドキュメントに割り当てられます。名前を入力するか、[プレースホルダの追加] 一覧のプレースホルダを選択します。

- 7 パブリケーションをデフォルトの Enterprise の場所と受信者の電子メールアドレスに送信している場合は、電子メールの本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込むことができます。
Enterprise 受信者がパブリケーションインスタンスを表示するには、そのパブリケーションの表示権限を所持している必要があります。そのためには、カーソルを[メッセージ]ボックスに置き、[メッセージ]ボックスの下にある[プレースホルダの追加]リストで[ビューアのハイパーリンク]をクリックします。プレースホルダ %SL_VIEWER_URL% が電子メールに挿入されます。このプレースホルダは、パブリケーションが実行されるとリンクに置換されます。
動的受信者は、BI アカウントを所持していないため、パブリケーションインスタンスにアクセスできません。

11.1.11 パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ

[パーソナライゼーション] を使用してソースドキュメントのデータをフィルタした場合、パーソナライズされたプレースホルダを使用してパブリケーションインスタンスに名前を付けることができます。

パーソナライズされたプレースホルダをファイル名に組み込むと、受信者はフィルタされたデータを簡単に識別できます。パーソナライゼーション値が異なる複数のユーザグループに属している受信者は、同じソースドキュメントの複数のバージョンの違いをそのコンテンツを表示することなく区別できます。

パーソナライゼーションがパブリケーションに設定されると、パーソナライズされたプレースホルダが[出力先]ページの[プレースホルダの追加]一覧に表示されます。

注

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタされていなければ[指定の名前を使用する]の[プレースホルダの追加]一覧にパーソナライズされたプレースホルダが表示されません。

レポートのすべてのフィルタで、次のパーソナライズされたプレースホルダが表示されます。

- ・ フィールド名に対応するプレースホルダ。%<field name>-NAME% として表されるプレースホルダは、実行時にフィールド名に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者に表示されます。
- ・ フィールドのパーソナライズ値に対応するプレースホルダ。%<field name>-VALUE% として表されるプレースホルダは、レポートをフィルタするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

パーソナライズされたプレースホルダを使用するには、[選択した出力先のオプションを表示] エリアで以下の選択を行います。

- 1 該当するパブリケーション名の[指定の名前を使用する]オプションを選択し、[プレースホルダの追加]一覧から必要なプレースホルダを選択します。複数のプレースホルダを追加するには、この手順を繰り返します。テキストとプレースホルダを結びつけるには、まずテキストを入力してからプレースホルダを選択します。
- 2 個々のドキュメントの[ドキュメントごとの指定の名前]オプションを選択します。各ドキュメントのタイトルのそばにある[プレースホルダの追加]一覧から必要なプレースホルダを選択します。複数のプレースホルダを追加するには、この手順を繰り返します。テキストとプレースホルダを結びつけるには、まずテキストを入力してからプレースホルダを追加します。

- 3 保存して終了するには、[保存して閉じる]を選択します。選択内容は保存するが、別の出力先またはオプションを選択する場合は、[保存]を選択します。

例

カナダの営業マネージャとアメリカの営業マネージャという 2 つのユーザグループに四半期売上レポートを公開するとします。Crystal レポートの名前は国別四半期売上です。パーソナライゼーションが国フィールドに適用されていて、各グループでそれぞれの国のデータを受信します。アメリカの営業マネージャでは国フィールドのプロファイル値が“米国”で、カナダの営業マネージャでは国フィールドのプロファイル値が“カナダ”です。

次の 3 つのパーソナライズされたプレースホルダが [プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- ・ %Document Name%. %SI_DOCUMENT_NAME% コードがフィールドに挿入されます。
- ・ %Country - Query 1-NAME%. %SI_field name-NAME% コードがフィールドに挿入されます。
- ・ %Country - Query 1-VALUE%. %SI_field name-VALUE% コードがフィールドに挿入されます。

アメリカの営業マネージャに送信されるレポート (米国のデータのみが表示されるようにフィルタされている) には、国別四半期売上_米国.pdf という名前が付きます。カナダの営業マネージャに送信されるレポート (カナダのデータのみが表示されるようにフィルタされている) には、国別四半期売上_カナダ.pdf という名前が付きます。

11.1.12 電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ

パブリケーションのすべてのソースドキュメントが同じフィールドを使用してパーソナライズされている場合、パブリケーションを電子メールで送信するときに [件名] および [メッセージ] フィールドにパーソナライズされたプレースホルダを使用できます。

パーソナライゼーション時にレポートで使用されたフィルタごとに、以下の 2 つのプレースホルダが [プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- ・ %Field - Query 1-VALUE%. これはフィールドのパーソナライズ値です。実行時に、レポートをフィルタするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。
- ・ %Field - Query 1-NAME%. これはフィールドの名前です。実行時に、フィールドの実際の名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

注

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタされていなければ [件名] および [メッセージ] フィールドの [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライゼーションパラメータが表示されません。

11.1.13 動的コンテンツソースドキュメントを電子メールに埋め込む

動的コンテンツドキュメントから、電子メールの本文にコンテンツを埋め込むことができます。Crystal レポートの場合は、レポートのコンテンツを埋め込むことができます。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体または 1 つのレポートタブを埋め込むことができます。

- 1 [形式] をクリックします。

[形式]セクションが表示されます。

- 2 電子メールに埋め込む動的コンテンツドキュメントを選択します。

ドキュメントの種類	選択方法
Crystal レポート	[タイトル] 一覧からレポートを選択します。
Web Intelligence ドキュメント	[ドキュメント] 一覧でドキュメントを選択します。

- 3 選択した動的コンテンツドキュメントのパブリケーション形式として、mHTML を選択します。

ドキュメントの種類	選択方法
Crystal レポート	[形式オプション] 一覧で、[mHTML] チェックボックスをオンにします。
Web Intelligence ドキュメント	[出力形式] 一覧で、[mHTML] チェックボックスをオンにします。

- 4 Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体を公開するか、ドキュメント内のレポートタブの 1 つを公開するかを選択します。
 - a [出力形式] 一覧の [mHTML] が選択されていることを確認します。
 - b ドキュメント全体を公開する場合は、[すべてのレポート]が選択された状態にしておきます。単一のレポートタブを公開する場合は、[1 つのレポートを選択]をクリックし、一覧からレポートタブを選択します。
- 5 ナビゲーション一覧で[出力先]をクリックします。
[出力先]セクションが表示されます。
- 6 [送信先の選択]領域で、[電子メール]を選択します。
- 7 [オプションの表示]一覧で、[電子メール]をクリックします。
電子メール送信先オプションの追加の設定オプションが表示されます。
- 8 [差出人]ボックスで、名前または電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加]リストから電子メールを選択します。
たとえば、「Robert」、「公開者」、「publisher@sap.com」などを入力できます。名前を入力すると、Publisher@emailserver のように、その名前が電子メールサーバに追加されます。
- 9 [件名]ボックスに件名を入力します。プレースホルダを挿入するには、[プレースホルダの追加] 一覧から [タイトル] などのオプションを選択します。レポートをパーソナライズした場合、パーソナライズされたプレースホルダは [プレースホルダの追加] 一覧でできるようになります。
- 10 メール本文に含めるメッセージテキストを [メッセージ] ボックスに入力します。
- 11 動的コンテンツを [メッセージ] ボックスに埋め込むには、ドキュメントコンテンツを埋め込む [メッセージ] ボックスにカーソルを置き、[メッセージ] ボックスの下にある [プレースホルダの追加] リストに移動して、[レポート HTML コンテンツ] を選択します。

[メッセージ] ボックスに、%SI_DOCUMENT_HTML_CONTENT% と表示されます。パブリケーションが実行されると、このプレースホルダはユーザが指定した動的コンテンツドキュメントのパーソナライズ済みコンテンツに置換されます。

- 12 パブリケーションに他のソースドキュメントが含まれている場合は、[添付ファイルの追加] が選択され、添付ファイルのオプションが正しく設定されていることを確認してください。

パブリケーションの実行時、パブリケーション内のその他のソースドキュメントは、添付ファイルとして電子メールに追加されます。

11.1.14 スケジュール情報を指定する

このタスクは、パブリケーションのスケジュール情報を指定する場合に実行します。

- 1 [追加オプション] を展開し、[定期] をクリックします。
- 2 [オブジェクトの実行] リストで、定期パターンを選択します。
- 3 必要に応じて、定期スケジュールパターンの実行オプションとパラメータを指定します。

11.1.15 Crystal レポートパブリケーションの設計タスク

11.1.15.1 パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする

注

このタスクを実行するには、Crystal レポートにパラメータが含まれている必要があります。Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

[パーソナライゼーション] セクションでは、各受信者に対して事前に定義されたパラメータ値に基づいて、受信者の Crystal レポートをパーソナライズできます。

パラメータ値に基づくパーソナライゼーションは、他のパーソナライゼーション方法で上書きされる場合があります。たとえば、プロファイルがパラメータにマップされ、Enterprise 受信者のプロファイル値がパラメータ値と競合する場合は、パブリケーションが実行されると、プロファイル値によってパラメータ値が上書きされます。同様に、動的受信者ソースの値が動的受信者のパラメータ値と競合する場合、パブリケーションが実行されるとパラメータ値は上書きされます。

注

可能な場合は、Crystal レポートをローカルプロファイルターゲットでパーソナライズすることをお勧めします。パラメータがレコード選択式、コマンド、テーブル、またはストアードプロシージャで使用される場合、パラメータベ

スのパーソナライゼーションでは受信者ごとにデータベースフェッチを 1 回行う必要があります。このため、パブリケーションの処理時間が増加する場合があります。

- 1 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 2 [パラメータ]領域で、リストされているパラメータのデフォルト値が正しいことを確認します。
デフォルト値を変更する場合は、パラメータ値の横にある [値の編集] ボタンをクリックします。パラメータ値を選択または入力し、[OK]をクリックします。
- 3 デフォルトのパラメータのパーソナライゼーションを、Enterprise 受信者のプロファイル値で上書きする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。

注

このオプションは、お使いのパブリケーションが Enterprise 受信者向けの場合にのみ表示されます。

このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

注

デフォルトのパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング] を [すべての受信者のデフォルト値] に設定することをお勧めします。

- 4 デフォルトのパラメータのパーソナライゼーションを動的受信者のパーソナライゼーション値で上書きする場合は、[動的受信者のマッピング]列の一覧から動的受信者ソースの列を選択します。

注

- ・ このオプションは、お使いのパブリケーションが動的受信者向けの場合にのみ表示されます。
- ・ デフォルトのパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[動的受信者のマッピング]を[指定なし]に指定することをお勧めします。

11.1.15.2 フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

Crystal レポートのフィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする場合は、このタスクを実行します。フィルタを使用すると、ViewTime 選択式がレポートに追加され、データがフィルタリングされます。この式は、パブリケーションが実行され、レポートに保存されていない場合に適用されます。Crystal レポートでは、複数のフィールドをフィルタリングできます。

注

- ・ 静的な値のプロファイル値は、Crystal レポートの文字列フィールドだけをフィルタ処理できます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。
 - ・ この機能は、RPTR 形式の Crystal レポートでは使用できません。
- 1 [パーソナライゼーション] をクリックします。
 - 2 [フィルタ]領域で、[レポートフィールド]列の一覧から Crystal レポートフィールドを選択します。

使用可能なフィールドの一覧には、メインレポートまたは非オンデマンド型サブレポートのすべてのデータベースフィールドおよび繰り返し式が含まれています。

- 3 [Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。

この設定により、レポートフィールドが Enterprise 受信者に定義されたプロファイル値にマップされます。

注

このオプションは、お使いのパブリケーションが Enterprise 受信者向けの場合にのみ表示されます。

このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- 4 [動的受信者のマッピング]列の一覧から動的受信者ソースの列を選択します。

この設定により、レポートフィールドが対応する値を持つ動的受信者ソースの列にマップされます。

注

このオプションは、お使いのパブリケーションが動的受信者向けの場合にのみ表示されます。

- 5 フィルタリング対象の各レポートフィールドに対し、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

11.1.15.3 Crystal レポートの形式を指定する

- 1 [形式] をクリックします。

- 2 [ドキュメント] 一覧から Crystal レポートを選択します。

[形式オプション]が表示され、選択した Crystal レポートのパブリケーション形式を選択できます。

- 3 [形式オプション] 一覧で、目的の受信者の横にあるチェックボックスを選択します。

形式が選択されます。

- 4 [形式オプション] 一覧で、指定した形式名をクリックします。

注

形式オプションによっては、次の手順が適用されない場合があります。

追加オプションが表示され、形式をカスタマイズできます。

- 5 ソースドキュメントに定義されているデフォルトのエクスポートオプションを使用するには、[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]が選択された状態にしておきます。それ以外の場合は、[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにします。

- 6 追加情報を入力し、選択した形式の表示をカスタマイズします。

- 7 Crystal レポートを公開する各形式に対し、手順 4 ～ 6 を繰り返します。

終了後、パブリケーションの各 Crystal レポートに対し、手順 2 ～ 7 を繰り返す必要があります。

11.1.15.3.1 Crystal レポート形式向けの追加カスタマイズオプション

ここでは、追加カスタマイズオプションを使用できる形式を示します。

Microsoft Excel(97-2003)

次のオプションは、Excel ファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、レポート全体を Excel ファイル形式で公開できます。特定のレポートページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開元] および [公開先] フィールドにページ範囲の数字を入力します。

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションも使用できます。

- ・ 列幅の設定

[列幅を次のオブジェクトに合わせる]をクリックし、一覧からオプションを選択すると、レポートのオブジェクトの列幅を定義できます。[列幅を一定にする(ポイント単位)]をクリックし、フィールドに数値を入力すると、すべての列に一定の列幅を定義できます。

- ・ ページヘッダとページフッタをエクスポートする

一覧からオプションを選択して、Excel ファイルでのヘッダとフッタの表示頻度を設定できます。

- ・ ページごとにページ区切りを作成

このオプションを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

- ・ 日付の値を文字列に変換する

このオプションを選択すると、データ値をテキスト文字列に変換できます。

- ・ グリッドラインの表示

このオプションを選択すると、Excel ファイルにグリッドラインを表示できます。

Microsoft Excel(97-2003)(データのみ)

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションを使用できます。

- ・ 列幅の設定

[列幅を次のオブジェクトに合わせる]をクリックして、レポートのオブジェクトに相対的な列幅を定義し、隣接する一覧からオプションを選択します。または、[列幅を一定にする(ポイント単位)]をクリックして、すべての列に一定の列幅を定義し、隣接するフィールドに数値を入力します。

- ・ オブジェクトの書式設定をエクスポートする

オブジェクトの書式設定を維持するには、このオプションを設定します。

- ・ 画像をエクスポートする

Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このオプションを選択します。

- ・ 集計にワークシートの関数を使用する

レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このオプションを選択します。

- ・ オブジェクトの相対位置を維持する

レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このオプションを選択します。

- ・ 列の配置を維持する

レポートの列の配置を維持するには、このオプションを選択します。

- ・ ページヘッダとページフッタをエクスポートする

Excel ファイルにヘッダとフッタを含めるには、このオプションを選択します。

- ・ ページヘッダを簡略化する

ページヘッダを簡略化する場合は、このオプションを選択します。

- ・ グループのアウトラインを表示する

レポートのグループアウトラインを表示するには、このオプションを選択します。

Microsoft Excel ワークブックデータのみ

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] をオフにすると、Excel 2007 ファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ 列幅の設定

[列幅を次のオブジェクトに合わせる]をクリックして、レポートのオブジェクトに相対的な列幅を定義し、隣接する一覧からオプションを選択します。または、[列幅を一定にする(ポイント単位)]をクリックして、すべての列に一定の列幅を定義し、隣接するフィールドに数値を入力します。

- ・ オブジェクトの書式設定をエクスポートする

オブジェクトの書式設定を維持するには、このオプションを設定します。

- ・ 画像をエクスポートする

Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このオプションを選択します。

- ・ 集計にワークシートの関数を使用する

レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このオプションを選択します。

- ・ オブジェクトの相対位置を維持する

レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このオプションを選択します。

- ・ 列の配置を維持する

レポートの列の配置を維持するには、このオプションを選択します。

- ・ ページヘッダとページフッタをエクスポートする

Excel ファイルにヘッダとフッタを含めるには、このオプションを選択します。

- ・ ページヘッダを簡略化する

ページヘッダを簡略化する場合は、このオプションを選択します。

- ・ グループのアウトラインを表示する

レポートのグループアウトラインを表示するには、このオプションを選択します。

Microsoft Word(97-2003)

次のオプションは、Word ファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、レポート全体を Word ファイル形式で公開できます。特定のレポートページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開元] および [公開先] フィールドにページ範囲の数字を入力します。

PDF

次のオプションは、PDF ファイル形式で公開されるソースドキュメントに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、ソースドキュメント全体を PDF ファイル形式で公開できます。特定のページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開先]および[公開元]フィールドにページ範囲の数字を入力します。

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションも使用できます。

- ・ グループツリーからブックマークを作成

注

目次が含まれた、マージ済みの PDF 形式で Crystal レポートを公開する場合は、このオプションを選択する必要があります。

リッチテキスト形式(RTF)

次のオプションは、リッチテキストファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、ソースドキュメント全体を PDF ファイル形式で公開できます。特定のページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開先]および[公開元]フィールドにページ範囲の数字を入力します。

Microsoft Word – 編集可能(RTF)

次のオプションは、編集可能な Word ファイル形式で公開される Crystal レポートに使用できます。

- ・ ページ範囲

[すべて]をクリックすると、レポート全体を Word ファイル形式で公開できます。特定のレポートページを公開するには、[ページ]をクリックし、[公開元] および [公開先] フィールドにページ範囲の数字を入力します。

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにすると、次のオプションも使用できます。

- ・ レポートのページごとに改ページする

このオプションを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

テキスト

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、テキストファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ インチあたりの文字数

値を入力し、テキストファイルに表示する 1 インチあたりの文字数を定義します。

ページ区切り付きテキスト

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、ページ区切り付きテキストファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ 1 ページあたりの行数

値を入力し、ページ区切り付きテキストファイルの各ページにおける行数を定義します。

- ・ インチあたりの文字数

値を入力し、ページ区切り付きテキストファイルに表示する 1 インチあたりの文字数を定義します。

カンマ区切り値(CSV)

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] をオフにすると、カンマ区切り値ファイル形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ 囲み文字

囲み文字として使用する文字を入力します。

- ・ 区切り文字

値を区切るために使用する文字を入力するか、[タブ]を選択します。

- ・ モード

標準モードかレガシーモードを選択します。標準モードでは、CSV 出力におけるレポートページとグループヘッダ およびフッタの表示方法を制御できます。標準モードはデフォルトのオプションです。

- ・ レポートセクションとページセクション

この領域のオプションを使用して、レポートおよびページセクションをエクスポートするかどうか、また、これらのセクションを切り離すかどうかを設定します。

- ・ グループセクション

この領域のオプションを使用して、グループセクションをエクスポートするかどうか、また、切り離すかどうかを設定します。

XML

[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] をオフにすると、XML 形式で公開する Crystal レポートに次のオプションを使用できます。

- ・ XML エクスポート形式

一覧からオプションを選択して、XML 形式を指定します。

11.1.16 Web Intelligence ドキュメントパブリケーションの設計タスク

11.1.16.1 Web Intelligence ドキュメントの形式を指定する

- 1 [形式] をクリックします。
 - 2 [ドキュメント]一覧でドキュメントを選択します。
 - 3 [出力形式]一覧で、ドキュメントを公開する形式を 1 つまたは複数選択します。
 - 4 [出力形式]一覧の形式オプションが強調表示された状態にし、[出力形式の詳細]領域で、ドキュメント全体またはドキュメント内の 1 つのレポートタブのいずれを公開するかを選択します。
 - ・ ドキュメント全体を公開する場合は、[すべてのレポート]が選択された状態のままにしておきます。
 - ・ 1 つのレポートタブを公開する場合は、[1 つのレポートを選択]をクリックし、一覧からレポートタブを選択します。
 - 5 ドキュメントを公開する形式ごとに、手順 4 を繰り返します。
- 1 つのドキュメントに対してこのタスクを完了したら、パブリケーションのその他の動的コンテンツソースドキュメントに対して手順 2 ～ 5 を繰り返す必要があります。

11.1.16.2 グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。また、このタスクで選択されたプロファイルには、グローバルプロファイルターゲットが含まれている必要もあります。

[パーソナライゼーション] ダイアログボックスの [グローバルプロファイル] 領域を使用して、グローバルプロファイルターゲットをフィルタリングすることで、Web Intelligence ドキュメントを Enterprise 受信者用にパーソナライズできます。

ヒント

[グローバルプロファイル]領域でパーソナライゼーションオプションを使用する場合、[フィルタ]領域でパーソナライゼーションオプションを使用する必要はありません。

- 1 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 2 [パーソナライゼーション] ダイアログボックスの [グローバルプロファイル] 領域で、[Enterprise 受信者のマッピング] 列の一覧からプロファイルを選択します。

このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。

注

選択したプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

11.1.16.3 フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

ドキュメントのフィールドをフィルタリングして Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズするには、このタスクを実行します。

注

静的な値のプロファイル値は、ソースドキュメントの文字列フィールドだけをフィルタ処理できます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。

- 1 ナビゲーション一覧で[パーソナライゼーション]をクリックします。
- 2 [ローカルプロファイル]領域で、[レポートフィールド]列の一覧からフィールドを選択します。
- 3 [Enterprise 受信者のマッピング]列の一覧からプロファイルを選択します。
この設定により、レポートフィールドが Enterprise 受信者に定義されたプロファイル値にマップされます。
このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- 4 [動的受信者のマッピング]列の一覧から動的受信者ソースの列を選択します。
この設定により、ソースドキュメントのフィールドは、対応する値を持つ動的受信者ソースの列にマップされます。
- 5 フィルタリング対象の各フィールドに対し、手順 2 ～ 4 を繰り返します。

11.1.17 追加のパブリケーション機能の使用

この節のタスクはオプション (パブリケーションのデザインおよびスケジュールには不要) ですが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

11.1.17.1 Crystal レポートパブリケーションの追加パブリケーション機能

11.1.17.1.1 パブリケーションの Crystal レポートに印刷オプションを設定する

デフォルトのプリンタを使用する場合は、そのプリンタがインストールされ、正しく設定されていることを確認してください。

注

Crystal Reports Job Server は、指定したプリンタにアクセスする権限を持つアカウントによって実行される必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

Crystal Reports Job Server のデフォルトプリンタまたはその他のプリンタを使用してパブリケーションを実行するたびに、Crystal レポート形式のインスタンスの印刷を選択できます。BI プラットフォームは、パブリケーションがパーソナライズされた後、それが配信される前にインスタンスを印刷します。

- 1 [追加オプション] を展開し、[出力設定] をクリックします。
- 2 [ドキュメント] 一覧で、パブリケーションの実行時に印刷する Crystal レポートを選択します。
- 3 [スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] を選択します。
- 4 Job Server のデフォルトプリンタで印刷する場合は、[デフォルトプリンタ] を選択したままにしておきます。それ以外は、[プリンタを指定する] を選択します。
- 5 プリンタのパスと名前を入力します。

- ・ Job Server が Windows で実行されている場合には、[プリンタを指定する] ボックスに「¥¥printserver¥¥printername」と入力します。

printserver には使用しているプリンタサーバの名前を入力し、printername には使用しているプリンタの名前を入力してください。

- ・ Job Server が Unix で実行されている場合は、Unix が表示されている（非表示でない）ことを確認し、通常使用する印刷コマンドを [プリンタを指定] ボックスに入力します。

たとえば、「lp -d printername」と入力します。

- 6 印刷部数と印刷ページ範囲を選択します。
- 7 部単位の印刷およびページの縮小/拡大オプションを設定します。
- 8 レポートのコンテンツをページ中央に配置するには、[ページの中央揃え]を選択します。
- 9 Crystal レポートの幅が広く、印刷時にレポートをページの大きさに合わせるには、[横方向のページを 1 ページに合わせる]を選択します。

11.1.17.1.2 Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する

受信者配信ルールでは、処理およびパーソナライゼーションの後、各受信者にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。

- 1 [追加オプション] を展開し、[配信ルール] をクリックします。

- 2 [受信者配信ルール]領域で、[条件に一致するときに個々のドキュメントを配信する]または[すべての条件が一致する場合のみすべてのドキュメントを配信する]をクリックします。
- 3 各レポートの横にある一覧で、パブリケーションを配信する場合に一致すべき条件を指定します。

配信ルールのデフォルト設定を次の表に示します。レポートにアラートが含まれる場合は、アラート値に基づくオプションも使用できます。

配信ルールオプション	説明
常に配信する	レポートは常に受信者に配信されます。
配信しない	レポートは受信者に配信されません。このオプションは、パブリケーション全体を再作成せずに、特定のパブリケーション実行から Crysyal レポートを除外する場合に便利です。
レポートにデータが含まれる場合のみ配信する	パーソナライゼーションの後、レポートに受信者向けのデータが含まれる場合にのみ、レポートが受信者に配信されます。このオプションは、高ボリュームのパブリケーションの処理負荷を低減する必要がある場合に便利です。

11.1.17.1.3 Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する

注

グローバル配信ルールを設定する Crystal レポートには、アラートが含まれている必要があります。

グローバル配信ルールでは、パブリケーションを処理してすべての受信者に配信するかどうかを決定します。グローバル配信ルールは、BI プラットフォームの任意の Crystal レポートで設定できます。

- 1 [追加オプション]を展開し、[配信ルール]をクリックします。
- 2 [グローバル配信ルール]領域で[参照]をクリックします。
ダイアログボックスが開き、グローバル配信ルールを設定する Crystal レポートを選択できます。
- 3 目的の Crystal レポートを探して選択し、[OK]をクリックします。
ダイアログボックスが閉じます。
- 4 [条件]一覧で、グローバル配信ルールに従ってレポートに含める必要があるアラート値を選択します。

11.1.17.1.4 マージされた PDF を書式設定する

- ・ マージされた PDF に含める Crystal レポートにはタイトルが必要です。レポートのタイトルを設定するには、SAP Crystal Reports でレポートを開き、[ファイル] > [プロパティ]を選択します。[概要] タブの [タイトル] ボックスに、レポートのタイトルを入力します。レポートを保存し、リポジトリに再エクスポートします。
- ・ [ソースドキュメント] 領域で、マージする Crystal レポートおよび PDF ファイルが正しい順序で表示されている必要があります。
- ・ [書式設定] 領域で、マージされた PDF ファイルに含める各 Crystal レポートの形式として PDF が選択されている必要があります。
- ・ [出力先] 領域で、マージされた PDF ファイルを送信する各出力先に対し、[エクスポートされた PDF をマージ] が選択されている必要があります。

[結合 PDF オプション] 領域のオプションを設定すると、Crystal レポートのパブリケーションで生成されたマージ済み PDF をカスタマイズできます。

- 1 [追加オプション]を展開し、[結合 PDF オプション]をクリックします。
- 2 マージされた PDF ファイルの目次を作成し、書式設定します。

注

この書式設定オプションを有効にするには、[形式]領域の[ドキュメント]一覧で Crystal レポートを選択します。[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用]をオフにし、[グループツリーからブックマークを作成]を選択します。これを、一覧の各 Crystal レポートで実行します。この操作をしなかった場合、マージされた PDF ファイルの目次に Crystal レポートは表示されません。

- a [目次の作成]を選択します。
目次の書式設定オプションが使用可能になります。
 - b [タイトル]ボックスに、目次のタイトルを入力します。
 - c 目次のタイトルおよび項目に使用するフォント、ポイント単位のフォントサイズ、フォントの色を設定します。
- 3 マージされた PDF ファイルのページ番号の書式設定オプションを指定します。
 - a [実行中のページ番号を適用]を選択します。
ページ番号の書式設定オプションが使用可能になります。
 - b [数値の形式]ボックスに、ページ番号の表示形式を入力します。
デフォルトでは、Page &p of &P が設定されています。この形式は変更できます。ただし、現在のページ番号のプレースホルダには &p、ページ総数のプレースホルダには &P を使用する必要があります。
 - c [数値の場所]一覧で、マージされた PDF ファイルのページ番号の向きを選択します。
 - d ページ番号に使用するフォント、ポイント単位のフォントサイズ、フォントの色を設定します。
 - e 目次にページ番号を含める場合は、[目次ページにページ番号を適用]を選択します。
 - 4 受信者のログオン認証情報と受信者アクションに関する許可を設定します。
 - a [ユーザパスワード]ボックスに、マージされた PDF ファイルを受信者が表示する場合に必要なパスワードを入力します。
 - b [所有者パスワード]ボックスに、マージされた PDF ファイルを受信者が編集する場合に必要なパスワードを入力します。
 - c 以下のチェックボックスをオンまたはオフにして、ユーザアクションに関する許可を設定します。

オプション	説明
印刷を許可	受信者に PDF ファイルの印刷を許可するには、このオプションを選択します。
コンテンツの変更を許可	受信者に PDF ファイルの変更を許可するには、このオプションを選択します。
コピーと貼り付けを許可	受信者に PDF ファイル内のコンテンツのコピーと貼り付けを許可するには、このオプションを選択します。
注釈の変更を許可	受信者に PDF ファイルの注釈の変更を許可するには、このオプションを選択します。

11.1.17.1.5 Crystal レポートのデータベースログオン情報を設定する

このタスクを開始する前に、Crystal レポートのデータベース設定が適切かどうか確認することをお勧めします。CMC の[フォルダ]領域で Crystal レポートを選択し、[マージ] > [デフォルト設定] > [データベース設定]に移動し、データベース情報を確認するか、新しい情報を入力します。

場合によっては、Crystal レポートが内部的に参照するデータソース情報を修正する必要があります。その場合は、[SAP Crystal Reports] で Crystal レポートを開き、[データベース] > [データソースの保存場所の設定]に移動します。[データソースの保存場所の設定]ダイアログボックスで、接続を選択するか、新しい接続を作成します。

このタスクでは、受信者がデータベースにログオンしたり、Crystal レポートのデータを最新表示したりする場合に必要なデータベースログオン情報を変更できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[データベースログオン] をクリックします。
- 2 [タイトル]一覧から Crystal レポートを選択します。
Crystal レポートのデータベース情報が[タイトル]一覧の下に表示されます。
- 3 [データベースサーバ] および [データベース] ボックスに表示されている情報が正しいことを確認してください。
- 4 [ユーザ] ボックスに、受信者がログオンに使用するユーザ名を入力します。
- 5 [パスワード] ボックスにパスワードを入力します。

11.1.17.2 Web Intelligence ドキュメントパブリケーションの追加パブリケーション機能

11.1.17.2.1 Web Intelligence ドキュメントのプロンプト値を変更する

注

ドキュメントには、すでにプロンプトが含まれている必要があります。

このタスクはオプションです。ユーザは、ドキュメントに含まれる定義済みプロンプト値をそのまま使用したり、プロンプト値の一覧を編集したりすることができます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[プロンプト] をクリックします。

注

プロンプトが含まれた Web Intelligence ドキュメントだけが表示されます。

- 2 [変更]をクリックします。
[プロンプト]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [値の最新表示]をクリックします。
左側に、指定可能なプロンプト値の一覧が表示されます。
- 4 プロンプト値を左側の一覧から右側の一覧に移動します。
- 5 [適用]をクリックします。
[プロンプト]ダイアログボックスが閉じ、プロンプト値の一覧が更新されます。

11.1.17.3 パブリケーション拡張を指定する

パブリケーション拡張を使用する前に、拡張機能が、Adaptive Processing Server が動作するマシンにデプロイされている必要があります。場所は、オペレーティングシステムによって変わります。

オペレーティングシステム	場所
Windows	INSTALL DIR¥SAP BusinessObjects¥SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0¥java¥lib¥
UNIX	INSTALLDIR/sap_bobj/enterprise_xi40/java/lib/

拡張機能が配布されたら、Adaptive Processing Server と、公開サービスをホストするその他のサーバを再起動する必要があります。

パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

- 1 [追加オプション] を展開し、[パブリケーション拡張] をクリックします。
- 2 [パブリケーション拡張名]フィールドに、拡張の名前を入力します。
- 3 [クラス名]フィールドに、拡張の完全修飾クラス名を入力します。
- 4 必要に応じて、[パラメータ]フィールドにパラメータを入力します。
- 5 処理の後、パブリケーションを配信する前に拡張を使用する場合は、[パブリケーション配信前]の上にある[追加]ボタンをクリックします。
拡張が[パブリケーション配信前]一覧に追加されます。
- 6 パブリケーションの配信後に拡張を使用する場合は、[パブリケーション配信後]の上にある[追加]ボタンをクリックします。

拡張が[パブリケーション配信後]一覧に追加されます。

- 7 追加するすべての拡張に対し、それぞれ手順 2 ～ 6 を繰り返します。

ヒント

拡張の実行順序を設定するには、各一覧の下にある[上へ移動]または[下へ移動]をクリックします。

11.1.17.4 成功または失敗したパブリケーションジョブに関する電子メール通知を設定する

電子メール通知に Adaptive Job Server のデフォルトを使用する場合は、Adaptive Job Server を正しく設定する必要があります。

パブリケーションジョブの実行後に電子メール通知を受信するには、次のタスクを実行します。

注

この機能は CMC のみで使用できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[通知] をクリックします。
- 2 [電子メール通知: 無効] を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブに関する電子メール通知を受信するには、[ジョブの実行の成功]を選択し、下に表示されるオプションを設定します。
 - ・ Adaptive Job Server のデフォルトを使用するには、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
 - ・ ユーザ独自の設定を使用するには、[ここで使用する値を設定する]をクリックし、適切なフィールドに独自の設定を入力します。
 - ・ [差出人]フィールドに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
 - ・ [宛先]フィールドに、電子メールの送信先アドレスを入力します。
 - ・ [CC]フィールドに、電子メール通知を受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。
 - ・ [件名]フィールドに、電子メールの件名を入力します。
 - ・ [メッセージ]フィールドに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブに関する電子メール通知を受信するには、[ジョブの実行の失敗]を選択し、下に表示されるオプションを設定します。
 - ・ Adaptive Job Server のデフォルトを使用するには、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
 - ・ ユーザ独自の設定を使用するには、[ここで使用する値を設定する]をクリックし、適切なフィールドに独自の設定を入力します。
 - ・ [差出人]フィールドに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
 - ・ [宛先]フィールドに、電子メールの送信先アドレスを入力します。
 - ・ [CC]フィールドに、電子メール通知を受信するユーザの電子メールアドレスを入力します。
 - ・ [件名]フィールドに、電子メールの件名を入力します。
 - ・ [メッセージ]フィールドに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。

11.1.17.5 パブリケーションジョブ用の監査通知を有効化する

パブリケーションジョブ用の監査通知を有効にする場合は、このタスクを実行します。監査の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

注

この機能は CMC のみで使用できます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[通知] をクリックします。
- 2 [監査通知: 無効] を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の成功]を選択します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の失敗]を選択します。

11.1.17.6 イベントを指定する

イベントベースのスケジュールを使用すると、パブリケーションのスケジュールをより詳細に制御できます。たとえば、指定したイベントが発生した後にのみパブリケーションが処理されるように、イベントを設定できます。

イベントの発生後にパブリケーションジョブを実行する場合、または、パブリケーションジョブの完了時に他のイベントを呼び出す場合には、このタスクを実行します。

イベントの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

- 1 [追加オプション] を展開し、[イベント] をクリックします。
- 2 パブリケーションにファイルベースのカスタムイベントを指定する場合は、それらのイベントを[利用可能なイベント]一覧から[待機するイベント]一覧に移動します。
これらのイベントにより、パブリケーションジョブが起動されます。
- 3 パブリケーションにスケジュールイベントを指定する場合は、それらのイベントを[利用可能なスケジュールイベント]一覧から[完了時に発生させるイベント]一覧に移動します。
パブリケーションジョブの実行後、これらのイベントが発生します。

11.1.17.7 サーバグループオプションを設定する

このタスクは、特定のサーバを使用してパブリケーションを処理する場合に実行します。サーバグループの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

注

フェデレーションのサイトをまたいでパブリケーションをスケジュールすることはできません。

- 1 [追加オプション] を展開し、[スケジューリングサーバグループ] をクリックします。
- 2 サーバグループオプションを選択します。

オプション	説明
最初に見つかった利用可能なサーバを使用する	パブリケーションジョブは、十分な処理能力を持ち、最初に見つかった利用可能なサーバによって処理されます。このオプションは、デフォルトで選択されています。 注 CMC にサーバグループが存在しない場合は、このオプションのみを使用できます。
選択したグループに所属するサーバを優先して使用する	パブリケーションジョブは、まず指定されたサーバグループのサーバを使用して試行されます。これらのサーバの処理能力が不足している場合、他のサーバグループを使用してジョブが試行されます。このオプションを選択する場合は、利用可能なサーバグループの一覧からもサーバグループを選択する必要があります。
選択したグループに所属するサーバだけを使用する	パブリケーションジョブには、指定されたサーバグループのサーバだけが使用されます。このオプションを選択する場合は、利用可能なサーバグループの一覧からもサーバグループを選択する必要があります。

11.1.17.8 プロファイルの解決方法を指定する

プロファイルの競合が発生した場合、インスタンスを個別のドキュメントとしてマージまたは配信するかどうかは、ユーザが指定したプロファイルの解決方法によって決定されます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [プロファイルの解決方法]の下で、[マージする]または[マージしない]をクリックします。

11.1.17.9 レポートバースト方式を指定する

ユーザが指定したレポートバースト方式により、ソースドキュメントのパーソナライゼーション、処理、および配信方法が決定されます。

- 1 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 2 [レポートバースト方法] の下にあるオプションのいずれか 1 つを選択します。

注

パブリケーションが動的受信者のみを対象にしている場合、[受信者ごとのデータベースフェッチ] は使用できません。

警告

パブリケーションが以下の基準を満たしている場合は、レポートバーストの方法を慎重に選択します。

- ・ パブリケーションには Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントが含まれます。
- ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルには、フィルタ式があります。

レポートバースト方法が異なる場合は、ドキュメントのパーソナライゼーションと処理の際に異なるフィルタタイプが使用されます。[すべての受信者のデータベースフェッチ]はレポートフィルタを使用し、[受信者ごとのデータベースフェッチ]はクエリフィルタを使用します。各フィルタタイプは同様に、異なる演算子のセットをサポートします。レポートバーストの方法でサポートされない演算子をフィルタ式が使用する場合は、パブリケーションに失敗することがあります。

11.2 パブリケーションのデザイン後のタスク

この節で説明するタスクはオプションであり、パブリケーションデザインプロセスの後に実行することができます。

11.2.1 パブリケーションの最終処理

デザインプロセスの途中または後の任意の時点で、[概要] ページを使用してパブリケーションのプロパティの概要を確認できます。プロパティは、パブリケーションのタイトル、場所、説明、ソースドキュメント、受信者の種類 (Enterprise または動的) によってそのパブリケーションを受信する受信者数、パブリケーションのパーソナライズ方法、配布形式および出力先などです。

[要約] ページにアクセスするには、[要約] をクリックします。ナビゲーション一覧の他のオプションを使用して、プロパティの変更や、パブリケーションの保存およびスケジュールを実行できます。

11.2.2 パブリケーションをテストする

テストモードを使用すると、受信者への送信前にパブリケーションを自分自身に送信し、テストすることができます。テストでは、受信者と同じ情報を受信できます。パブリケーションの受信者ではなく、ユーザの BI 受信ボックスまたは電子メールアドレスが使用されるよう、出力先は自動的に更新されます。テストモードでは、元の受信者グループから一部の受信者を除外することもできます。

- 1 [テストモード] をクリックします。
- 2 必要に応じて Enterprise 受信者の一覧を変更します。
 - a [Enterprise 受信者] をクリックします。
 - b [電子メール受信者]の下に[宛先]フィールドに、所有している電子メールアドレスを入力します。

- このフィールドは、パブリケーションが電子メール出力先向けである場合にのみ表示されます。BI プラットフォームでは、テストモード中に生成されたすべての電子メールパブリケーションインスタンスを、ここで指定した電子メールアドレスに送信します。
- c ユーザまたはグループを[利用可能]一覧から[選択]または[除外する]一覧に移動します。
- 3 必要に応じて動的受信者の一覧を変更します。
- a [動的受信者] をクリックします。
 - b [電子メール受信者]の下[宛先]フィールドに、所有している電子メールアドレスを入力します。
このフィールドは、パブリケーションが電子メール出力先向けである場合にのみ表示されます。BI プラットフォームでは、テストモード中に生成されたすべての電子メールパブリケーションインスタンスを、ここで指定した電子メールアドレスに送信します。
 - c 受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされる列が正しいことを確認します。
 - d [完全リストの使用]を選択または選択解除します。
 - e [完全リストの使用]をオフにした場合は、[利用可能]一覧に含める、あるいは一覧から除外するユーザまたはグループを、[選択]または[除外する]一覧に移動します。
- 4 [テスト]をクリックします。
パブリケーションがテストモードで実行されます。

11.2.3 パブリケーションを購読または購読解除する

適切な権利を所持する Enterprise 受信者は、パブリケーションを購読または購読解除することができます。パブリケーションインスタンスの購読または購読解除も可能です。たとえば、パブリケーションが週 2 回実行されるようスケジュールされている場合、受信者は最初のパブリケーションインスタンスを購読し、2 回目のインスタンスは購読しないよう指定できます。

注

動的な受信者は、自動的に購読または購読解除を行うことができません。

- 1 パブリケーションを参照し、選択します。
- 2 パブリケーションを購読する、または購読を解除するには、以下の 1 つを実行します。
 - ・ CMC を使用している場合は、[アクション] > [購読] または [アクション] > [購読解除] をクリックします。
 - ・ BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [購読] または [その他のアクション] > [購読解除] をクリックします。

ヒント

パブリケーションインスタンスの購読または購読解除を行うには、パブリケーションを選択して、CMC を使用している場合は [アクション] > [履歴] をクリックし、BI 起動パッドを使用している場合は [その他のアクション] > [履歴] をクリックします。[履歴] ウィンドウでインスタンスを選択し、購読または購読解除します。

11.2.4 パブリケーションの実行をスケジュールする

パブリケーションをデザインおよび保存した後、それを実行するスケジュールを設定できます。

パブリケーションをスケジュールする場合は、[定期]セクションで行った設定を使用するか、あるいは新しい設定を入力することができます。パブリケーションをスケジュールするたびに、受信者を変更することもできます。

- 1 パブリケーションデザインページを閉じます。
- 2 パブリケーションを選択します。
- 3 CMC で [アクション] > [スケジュール] を選択するか、BI 起動パッドで [その他のアクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 定期的なスケジュールの情報が正しいことを確認します。
- 5 [スケジュール]をクリックします。
パブリケーションが実行されます。

ヒント

パブリケーションの実行中に進捗を表示するには、CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI 起動パッドで [その他のアクション] > [履歴] を選択します。[ステータス] 列で、ステータス ([成功]、[失敗]、[実行中]) をクリックし、[パブリケーションの履歴] ダイアログボックスの下にある [ログファイルの表示] リンクをクリックします。

11.2.5 パブリケーション結果の表示

公開者によるパブリケーション結果の表示

パブリケーションの結果はさまざまな方法で表示できます。パブリケーションを実行すると、パブリケーション履歴が表示されます。パブリケーション履歴には、パブリケーションのインスタンス、実行時間、およびその成否が一覧表示されます。[インスタンスの日時]列でパブリケーションインスタンスのリンクをクリックすると、その日時にパブリケーションが実行されたときに受信者全員に対して生成されたインスタンスを表示できます。

ヒント

任意の時間にパブリケーション履歴にアクセスするには、CMC でパブリケーションを選択し、[アクション] > [履歴] または BI 起動パッドで [その他のアクション] > [履歴] に移動します。

パブリケーションジョブ用のログファイルの表示

ログファイルは、パブリケーションをトラブルシューティングしたり、パブリケーションインスタンスを受信しなかった受信者を特定する場合に便利です。BI プラットフォームでは、パーソナライズされたパブリケーションインスタンスの各バッチが処理されると、パブリケーションジョブの詳細をログに記録し、これらの詳細を1つまたは複数のログファイルにまとめます。ログファイルの最大サイズは10 MBで、この値は変更できません。多数の詳細を含む大容量のパブリケーションを実行している場合、パブリケーションインスタンスのログファイルが複数になる場合があります。

パブリケーションインスタンスのログファイルを表示するには、次の2つの方法があります。

- 一連のログファイルの最後のログファイルを表示するには、[アクション] > [履歴]をクリックします。[ステータス]列で、ステータス([成功]、[失敗]、[実行中])をクリックし、[パブリケーションの履歴]ダイアログボックスの下にある[ログファイルの表示]リンクをクリックします。

ヒント

この操作は、パブリケーションの実行中にも実行できます。

- すべてのログファイルを表示するには、[アクション]>[履歴]をクリックします。[インスタンスの日時]列で、パブリケーションインスタンスのリンクをクリックします。パーソナライズされたインスタンスの後にログファイルがリストされます。

ログファイルは、2分おきに新しい詳細で更新されます。パブリケーションジョブが2分未満しか実行されなかった場合、ログファイルのステータスは“待機”になります。

受信者によるパブリケーション結果の表示

パブリケーションの表示方法を次の表に示します。

出力先	パブリケーション結果の表示方法
デフォルトの Enterprise の場所	<p>受信者は、自身のパーソナライズ済みパブリケーションインスタンスのみを BI プラットフォームで表示できます。他の受信者向けにパーソナライズされたパブリケーションインスタンスは表示できません。</p> <p>注 動的受信者が BI プラットフォームにログインしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> CMC を起動します。 <ul style="list-style-type: none"> Windows では、[プログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォームセントラル管理コンソール] に移動します。 あるいは、お使いの Web ブラウザを開いて次のように入力します。 <code>http://servername:connectionport/CMC</code> <p>ここで、servername はお使いの CMS 名、connectionport はインストール時に指定された接続ポート番号を表します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。</p> ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [システム]フィールドで、CMS 名と CMS ポートが正しいことを確認します。 ユーザ名とパスワードを入力します。 [認証]一覧から認証タイプを選択します。 [ログオン]をクリックします。 [フォルダ]領域に移動し、目的のパブリケーションを探して選択します。 [アクション] > [履歴]をクリックします。 [インスタンスの日時]列のリンクをクリックします。 表示するインスタンスをダブルクリックします。
BI 受信ボックス	

出力先	パブリケーション結果の表示方法
	<p>注 動的受信者が BI 起動パッドにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> BI 起動パッド を起動します。 <ul style="list-style-type: none"> Windows では、[プログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI 起動パッド] に移動します。 あるいは、お使いの Web ブラウザを開いて次のように入力します。 http://servername:connectionport/BOE/BI ここで、servername はお使いの CMS 名、connectionport はインストール時に指定された接続ポート番号を表します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。 ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> [システム]フィールドで、CMS 名が正しいことを確認します。 ユーザ名とパスワードを入力します。 [認証]一覧から認証タイプを選択します。 [ログオン]をクリックします。 [マイ受信ボックス]をクリックします。 表示するインスタンスをダブルクリックします。
電子メール	電子メールにログオンし、埋め込まれたパブリケーションコンテンツを表示するか、添付ファイルをダウンロードします。
FTP サーバ	FTP ホストにログオンします。
ローカルディスク	パブリケーションのデザイン時に指定された場所に移動します。

11.2.6 パブリケーションインスタンスを再配布する

成功したパブリケーションインスタンスは、最初のパブリケーション実行時に指定された Enterprise 受信者および動的受信者に再配布できます。この機能は、パブリケーション全体を再実行せずに受信者にインスタンスを送信する場合に便利です。

- パブリケーションを参照し、選択します。
- CMC を使用している場合は、[アクション] > [履歴] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [履歴] をクリックします。
パブリケーションの履歴が表示されます。
- 成功したパブリケーションインスタンスを選択します。

- 4 CMC を使用している場合は、[アクション] > [再配布] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [再配布] をクリックします。
- 5 再配布されたインスタンスを受信する受信者を選択します。

注

再配布されたインスタンスを受信できるのは、パブリケーションが最初に行われたときに指定された受信者だけです。

- ・ Enterprise 受信者にインスタンスを再配布する手順は、次のとおりです。
 - a [Enterprise 受信者]を展開します。
 - b Enterprise 受信者を[利用可能]一覧から[選択]一覧に移動します。
 - ・ 動的受信者にインスタンスを再配布する手順は、次のとおりです。
 - a [動的受信者]を展開します。
 - b 受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされる列が正しいことを確認します。
 - c 動的受信者全員にパブリケーションを再配布する場合は、[完全リストの使用]を選択します。それ以外の場合は、[完全リストの使用]をオフにします。
 - d 動的受信者を[利用可能]一覧から[選択]一覧に移動します。
- 6 [再配布]をクリックします。

パブリケーションの履歴が表示され、再配布の対象として選択したインスタンスのステータスが“実行中”になります。[インスタンスの日時]列に表示される日付は、再配布の日時に合わせて更新されます。

11.2.7 失敗したパブリケーションを再試行する

このタスクを開始する前に、失敗したパブリケーションインスタンスのログファイルを確認し、エラーを修正し、パブリケーションを再スケジュールすることをお勧めします。

- 1 失敗したパブリケーションインスタンスが含まれるパブリケーションを選択します。
- 2 CMC を使用している場合は、[アクション] > [履歴] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [履歴] をクリックします。

パブリケーションの履歴が表示されます。
- 3 失敗したパブリケーションインスタンスを選択します。
- 4 CMC を使用している場合は、[アクション] > [再試行] をクリックします。または、BI 起動パッドを使用している場合は、[その他のアクション] > [再試行] をクリックします。

インスタンスのステータスが“実行中”になります。

パブリケーションが再び失敗した場合は、新しいログファイルを参照し、発生したエラーを修正してください。

11.3 パブリケーションパフォーマンスの向上

Adaptive Processing Server

パブリケーション中に Adaptive Processing Server の CPU 使用率およびメモリ使用率が高くなる場合は、次を実行します。

- ・ 使用可能な CPU が多く、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.0 Feature Pack 3 以降がインストールされているより高速なマシンに Adaptive Processing Server を移行します。Adaptive Processing Server は使用できる CPU 数に合わせて自動調整されます。
- ・ 専用の Adaptive Processing Server インスタンス上で公開サービスおよびパブリッシングポスト処理サービスを分離し、サーバにホストされている使用されていないサービスを削除します。各サービスは Adaptive Processing Server 上で多くの共有リソース (リクエストスレッドプール、メモリ、および CPU) を消費するため、公開パフォーマンスが改善される場合があります。

公開サービス

- ・ 多くのパブリケーションインスタンスを同時に実行するデプロイメントでは、基礎をなす CMS、FRS、Adaptive Job Server、レポート処理サーバが適切に調整されている場合、公開サービスを複数の Adaptive Processing Server インスタンス (1 つまたは複数のマシン) に水平的に「拡張」することで、より多くのパブリケーションインスタンスを同時に処理できます。

一方で、単一のパブリケーションジョブ (たとえば、受信者が 100 万名の 1 つのジョブ) は、複数の Adaptive Server でホストされている公開サービス間で共有されません。公開サービスの水平的な拡張では、受信者数にかかわらず、単一のパブリケーションの処理時間は短縮されません。

- ・ 多くの受信者がいるパブリケーションでは、CPU 数が多く、RAM 容量の大きいマシンで Adaptive Processing Server を垂直的に拡張します。これにより、公開サービスでより多くの受信者を処理し、Adaptive Processing Server でより多くのジョブを生成できます。Adaptive Job Server およびレポート処理サーバも、スループット拡大のために適宜調整が必要になる場合があります。

注

CPU コアが 9 個以上あるマシンで Adaptive Processing Server を実行する場合は、Adaptive Processing Server のヒープサイズを拡大 (-Xmx を 2 GB 以上に設定) することが適切です。CPU コア数が増えると、Adaptive Processing Server でより多くのスレッドを生成でき、スループットが増大します。ただし、スレッド数の増加に応じて RAM 容量も増大させる必要があります。

- ・ 公開はディスクに負荷をかけるプロセスであるため、入出力性能の高い、または FRS 用に SAN ディスクを使用するマシンを使用します。
- ・ 公開クリーンアップオプションを使用します。再配信の必要のない大規模なパブリケーションのため、またはレポートでアーティファクトを表示する場合は、デフォルトの出力先を選択しないでください。
- ・ (Crystal レポートパブリケーション) 受信者ごとに一意の最新表示セキュリティを適用する必要のない場合は、[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]を選択します。データベースアクセスが複数の小規模な同時クエリにバッチ化されます。
- ・ (Web Intelligence パブリケーション) [すべての受信者のデータベースフェッチ]または[受信者ごとのデータベースフェッチ]を選択します。大規模なパブリケーションで[すべての受信者のデータベースフェッチ]を選択した場合は、データベースクエリを複数の小規模なアトミッククエリに分割するために、公開サービスをホストする Adaptive Processing Server のコマンドラインで「-Dcom.businessobjects.publisher.scope batch.max.recipients=<integer>」と入力します。
- ・ 大規模なパブリケーションでは、Windows の単一フォルダへのディスクデリバリーが長時間低速になる場合があります。解決策は、短いファイル名の生成を無効にすることです。詳細については、<http://support.microsoft.com/kb/210638> および <http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc778996%28WS.10%29.aspx> を参照してください。単一のフォルダにあるファイルが 300 KB を超える場合に短いファイル名の生成を無

効にする方法については、[http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc781134\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc781134(WS.10).aspx) を参照してください。

パブリッシングポスト処理サービス

[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] チェックボックス ([スケジュール] ページ) および/または [エクスポートされた PDF をマージ] チェックボックス ([出力先] ページ) を選択するか、パブリケーションでカスタムポスト処理プラグインを有効化すると、パブリッシングポスト処理サービスが呼び出されます。両方のチェックボックスを選択したパブリケーションでは、追加のパブリッシングポスト処理サービスを作成してパブリケーション処理時間を短縮する必要があります。ただし、パブリッシングポスト処理サービスが受信する量は、公開サービスの調整方法により制限されます。

パブリッシングポスト処理サービスを水平的に拡張した場合は、ZIP および PDF をマージするワークロードは、複数の Adaptive Processing Server にホストされた複数のパブリッシングポスト処理サービス全体に分散されます。

11.3.1 ソースドキュメントの追加に関する推奨事項

この節では、パブリケーションに動的コンテンツドキュメントを追加する際の推奨事項について説明します。

パブリケーションログファイルを使用して、失敗したパブリケーションをトラブルシューティングする。

パブリケーションの実行をスケジュールすると、ログファイルが生成され、パブリケーションの実行時に発生したエラーが記録されます。パブリケーションインスタンスのログファイルをすべて表示するには、[アクション] > [履歴] をクリックします。[履歴] ページで、[インスタンスの日時] 列にあるインスタンスリンクをクリックします。

Crystal レポートでパラメータを使用したパーソナライゼーションを使用する場合は、パラメータをデフォルトに設定する。

パラメータベースのパーソナライゼーションを実行すると、パブリケーションのパフォーマンスが低下する場合があります。Enterprise 受信者のプロファイルまたは動的受信者のパーソナライゼーション値にフィールドをマップして、Crystal レポートのパブリケーションをパーソナライズすることを強くお勧めします。ただし、パラメータを使用して Crystal レポートをパーソナライズする必要がある場合は、[パーソナライゼーション] セクションのパラメータを[デフォルト]に設定します。

注

Enterprise 受信者のプロファイルを使用するには、システム管理者が BI プラットフォームでそのプロファイルを設定する必要があります。

動的コンテンツドキュメントをパブリケーションに追加する前に、それらを表示してスケジュールする。

動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできた場合は、データソース接続が正しく機能し、パブリケーションをスケジュールするときにソースドキュメントデータを最新表示できます。動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできない場合は、データソース接続の設定が間違っています。設定の確認方法を次の表に示します。

ドキュメントの種類	データソース接続の設定の確認方法
Crystal レポート	CMC で Crystal レポートを選択し、[管理] > [デフォルト設定]に移動します。[デフォルト設定] ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの [データベース設定] をクリックします。
Web Intelligence ドキュメント	CMC で Web Intelligence ドキュメントを選択し、[管理] > [デフォルト設定] に移動します。[デフォルト設定] ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの [レポートユニバース] をクリックします。

場合によっては、適切なデザインで動的コンテンツドキュメントを開いてデータベースソース接続を設定し、CMS リポジトリにファイルを再エクスポートして、前のコピーを上書きする必要がある場合があります。動的コンテンツドキュメントのデータソース接続の設定については、デザイナのマニュアルを参照してください。

不必要なデータの最新表示をしない。

動的コンテンツドキュメントのデータを最新表示する必要がない場合は、[ソースドキュメント]セクションで、そのドキュメントの[実行時に最新表示]チェックボックスをオフにします。これにより、パブリケーションの全体的なパフォーマンスが向上します。

11.3.2 動的受信者ソースの使用に関する推奨事項

この節では、動的受信者ソースを使用する際の推奨事項について説明します。

動的受信者ソースは受信者 ID 列 に従って並べ替える。

一般的に、動的受信者ソースは受信者 ID 列 に従って並べ替えることをお勧めします。特に、高ボリュームのパブリケーションを実行している場合、または[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ]を有効にしている場合は、複数のパーソナライゼーション値を持つ受信者への配信数を低減できるため、この並べ替えは重要です。

Crystal レポートの動的受信者ソースの場合は、データベースの設定情報が正しいことを確認する。

CMC で動的受信者ソースを選択し、[管理] > [デフォルト設定]に移動し、次のことを確認します。

- ・ [データベース設定]セクションで、データベースログオン情報が正しく設定されており、[レポート実行時と同じデータベースログオン情報を使用する]が選択されている。
- ・ [パラメータ]セクションで、すべてのパラメータに値が指定されており、パラメータのすべての[表示時にプロンプトを表示]チェックボックスがオフになっている。

Crystal レポートの動的受信者ソースを使用する場合は、Report Application Server(RAS)が正しく設定されていることを管理者に確認する。

RAS は、少なくとも動的受信者ソースの受信者と同数のデータベースレコードを読み込むよう設定する必要があります。たとえば、100,000 人の受信者のデータを持つ動的受信者ソースを処理するには、100,000 件以上のデータベースレコードを読み込むよう RAS を設定する必要があります。

11.3.3 電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項

この節では、電子メールパブリケーションインスタンスに関する推奨事項について説明します。

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。

電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2007 や、Hotmail、Gmail などの Web 電子メールアカウントで表示すると、形式上の問題が発生する場合があります。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されているか管理者に確認する。

電子メールで送信するパブリケーションは、Adaptive Job Server の出力先が正しく設定されていないことが原因で失敗する場合があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

アラートの使用

12.1 アラート

アラートは、BI プラットフォーム内のさまざまなアプリケーションを対象とし、イベントのトリガ時にユーザおよび管理者に通知する機能です。アラートを使用し、例外に基づいてオブジェクトとイベントを管理することができます。アラートによって変更に関する情報が通知されます。

たとえば、Julie は自動車保険会社で働いており、Crystal レポートを使用して提出された保険金請求を監視しています。彼女は保険金請求数アラートを購読しており、アラート通知を電子メールで受け取ることを選択しました。レポートは毎日実行されます。1 週間後、自動車保険の保険金請求数が 10,000 件に達し、アラートの条件が満たされて、イベントがトリガされました。Julie は電子メール通知を受け取り、自動車保険の保険金請求数が大幅に増加していることに気がきます。Julie はマネージャに通知し、安全運転を呼びかけるキャンペーンの開始を推奨します。

アラートの購読

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は、セントラル管理コンソール (CMC) または BI 起動パッドを使用してアラートを購読できます。

アラートの有効化

レポート作成者は、新しいレポートを作成したときにアラートを有効化します。イベントがトリガされると、通知が購読者の電子メールアドレスまたは BI システム送信先 (BI 起動パッドアカウントなど) に送信されます。

アラート通知の表示

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は BI 起動パッドまたは電子メールで通知を表示します。

アラートを右クリックして [その他を表示] を選択すると、[アラート情報] ウィンドウが開いてタイトル、メッセージ、およびトリガ時間が表示されます。

アラートの管理

コンテンツ管理者とパワーユーザは、CMC または BI 起動パッドでアラートを管理します。システム管理者は、CMC でアラートを管理し、権限を割り当ててユーザアクセスを制御します。

12.1.1 アラートオブジェクトソース

オブジェクト	説明
Crystal レポート	<p>Crystal レポートには、複数のアラートを含めることができます。アラートを含むレポートをリポジトリに追加すると、BI プラットフォームはレポートの各アラートに対応するイベントオブジェクトを自動的に作成します。セントラル管理コンソールでは、これらのイベントが [イベント] エリアの [Crystal Reports のイベント] フォルダで一覧にされます。また、[コンテンツ検索] オプションを使用してイベントを検索することもできます。</p> <p>注 BI プラットフォームで作成されたレポートのみがアラートをサポートし、レポートが追加された場合にユーザがアラート通知を購読することができます。購読するには、レポートに移動して、レポートオブジェクトで購読タスクを実行します。</p>
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	任意のイベントに対して、アラートを有効化することができます。

注

- ・ モニタリングでは、アラートを使用して、システムの全体的な状態の変化をシステム管理者に通知します。モニタリングプローブに基づくアラートは、[イベント] エリアの [監視イベント] フォルダで見つけることができます。モニタリングの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』(<http://help.sap.com>) を参照してください。
- ・ Information Steward および Event Insight などのアプリケーションで作成されたオブジェクトにも、アラートが使用されます。詳細については、アプリケーションのマニュアルを参照してください。

12.1.2 アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点

旧バージョンの BI プラットフォームでは、Crystal レポートのスケジュール時に Crystal レポートのアラート通知を設定することができました。BI プラットフォームは、SAP Crystal Reports で作成されたレポートについては、この機能を引き続きサポートします。下の表は、旧アラート通知機能とアラートの主な相違点をまとめたものです。

主な相違点	Crystal レポートアラート通知	アラート
サポートされるオブジェクト	SAP Crystal Reports で作成されたレポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ SAP Crystal Reports で作成されたレポートのみ ・ イベント ・ モニタリングプローブ ・ Information Steward アラート ・ Event Insight アラート

主な相違点	Crystal レポートアラート通知	アラート
サポートされる送信先	電子メールのみ	<ul style="list-style-type: none"> BI 起動パッドの [マイアラート] 電子メール
用法	この機能は、Crystal レポートのスケジュールの設定時に設定します。すべての受信者の電子メールアドレスを、手動で入力する必要があります。受信者には、Enterprise ユーザと BI プラットフォームアカウントを持たないユーザを含めることができます。	アラートソースからのアラート通知を購読し、必要に応じて購読を修正します。受信者には、Enterprise ユーザと BI プラットフォームアカウントを持たないユーザを含めることができます。ユーザの電子メールアドレスを、アカウントなしで手動で入力する必要があります。

12.1.3 アラートワークフロー

アラートワークフローには、さまざまなステップ、アプリケーション、およびユーザタイプが関与します。

Crystal レポートのアラートワークフロー

- 1 レポート作成者が、SAP Crystal Reports for Enterprise においてアラートを含むレポートを作成します。
- 2 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、セントラル管理コンソール (CMC) の [フォルダ] または [個人用フォルダ] エリアのフォルダに Crystal レポートを追加します。レポートが追加されると、レポートのアラートに基づいてレポートイベントオブジェクトが自動的に作成されます。
- 3 ユーザが CMC または BI 起動パッドにログオンし、Crystal レポートに移動して、アラートを購読します。
- 4 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、Crystal レポートの実行をスケジュールします。アラート条件が満たされた場合、アラートがトリガされ、購読設定に基づいてユーザに通知が送信されます。

イベントのアラートワークフロー

- 1 コンテンツ管理者が CMC でイベントを作成し、新規イベントに対してアラートを有効化します。
- 2 ユーザが CMC の [イベント] エリアでアラートを確認するか、BI 起動パッドで名前によってアラートを検索して、アラートを購読します。
- 3 イベントが発生し、アラートがトリガされます。
- 4 イベントが発生したことを示す通知が、購読設定に基づいてユーザに送信されます。

12.1.4 アラートに必要な権限

アラートワークフローにおけるロールと責任によって、必要な権限は変化する可能性があります。下の表は、一般的なアラートタスクで必要とされる権限をまとめたものです。

表 12-2: ドキュメントアラートの処理

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	ドキュメントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示権限 関連イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 <p>注 アラート通知に含まれるドキュメントリンクを使用してインスタンスを表示する場合は、ドキュメントに対するインスタンス表示権限も必要です。</p>
ユーザ	ドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限
ユーザ	ドキュメントアラートの通知受信	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントに対する表示権限 ドキュメントに対する表示権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートの送信先およびパラメータ設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントの権限の編集 イベントの編集権限
コンテンツ管理者	ドキュメントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示および編集権限 関連イベントに対する表示および編集権限 購読者に追加されるすべてのユーザまたはグループに対する表示およびスケジュール権限 <p>注 購読者のリストにユーザグループを追加する場合、ユーザグループオブジェクトに対する表示および購読権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する表示および購読権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	ユーザのドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示権限 関連イベントに対する表示権限 ユーザに対する表示および購読権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> ドキュメントに対する表示およびスケジュール権限 関連イベントに対する表示およびトリガ権限

表 12-3: イベントアラートの処理

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	イベントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 注 デフォルトでは、購読権限は個人のアカウントを持つユーザに対して付与されます。
ユーザ	イベントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示権限 ユーザ自身のアカウントに対する購読権限 注 デフォルトでは、購読権限は個人のアカウントを持つユーザに対して付与されます。
コンテンツ管理者	イベントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示および編集権限 購読者に追加されるすべてのユーザまたはグループに対する表示およびスケジュール権限 注 購読者のリストにユーザグループを追加する場合、ユーザグループオブジェクトに対する表示および購読権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する表示および購読権限では不十分です。
コンテンツ管理者	イベントのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> イベントに対する表示およびトリガ権限

表 12-4: アラート通知の処理

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	アラート通知の受信	<ul style="list-style-type: none"> 関連イベントに対する表示権限
ユーザ	アラート通知の既読または未読への設定	<ul style="list-style-type: none"> アラート通知に対する表示権限 ユーザアカウントに対する購読権限
ユーザ	アラート通知の再読	<ul style="list-style-type: none"> アラート通知に対する表示権限
ユーザ	BI 起動パッドにおけるアラート通知の削除	<ul style="list-style-type: none"> アラート通知に対する表示権限 ユーザアカウントに対する購読権限

12.2 アラートタスク

12.2.1 BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索

アラートソースは、オブジェクトタイプによって表示方法が異なります。次の表は、アラートソースの格納場所をまとめたものです。

オブジェクトタイプ (アラートソース)	オブジェクトの格納場所
Crystal レポート	Crystal レポートは、個人用フォルダまたはパブリックフォルダに格納されます。レポートの格納場所に応じて、次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none">個人用フォルダにある Crystal レポートを表示するには、[ドキュメント] タブの [マイドキュメント] ドロワを展開し、[お気に入り] ノードをクリックします。リストパネルに Crystal レポートが表示されます。パブリックフォルダにある Crystal レポートを表示するには、[ドキュメント] タブの [フォルダの参照] ドロワをクリックし、レポートを含むフォルダを見つけます。
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	アラートが有効化されたイベントは、名前で検索することができます。

ヒント

すでにアラートを購読している場合、[ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワを展開して、[購読済みアラート] を選択するだけで、アラートをすばやく表示することができます。

12.2.2 アラートを購読する

- アラートソースを見つけて選択し、[その他のアクション] > [購読] をクリックします。
[パブリケーションの購読] ページが表示されます。
- 選択する出力先：

オプション	説明
マイアラート	アラート通知をビジネスインテリジェンスシステム (BI 起動パッドなど) の送信先に送信します。
Email	アラート通知を BI プラットフォームのユーザアカウントに対して指定された電子メールアドレスに送信します。 注 <ul style="list-style-type: none"> 送信先は、ユーザアカウントに対して電子メールアドレスが指定されている場合にのみ使用することができます。 電子メールアドレスが有効であり、正しく入力されていることを確認します。電子メールアドレスが正しくない場合、アラート通知を受け取ることができません。

- 3 パーソナライゼーションパラメータとアラートタイプを指定します。
- 4 複数のアラートを含む Crystal レポートの場合、購読するアラートを選択します。
アラートソースによっては、追加の設定を行う必要がある場合があります。
- 5 [OK] をクリックします。

次回アラートがトリガされると、通知が選択した送信先に送信されます。アラート通知の送信先を変更するには、[ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[購読済みアラート] をクリックします。リストパネルでアラートソースを選択し、[その他のアクション] > [購読の変更] をクリックします。また、[その他のアクション] > [購読の変更] をクリックして、同じレポートの複数の Crystal レポートアラートに対する購読の変更、または EDBI アラートのパラメータの編集を行うこともできます。

アラートソースのカスタム設定を指定しない場合、通知は、CMC のアラートに対して設定された送信先デフォルトを使用して送信されます。

12.2.3 アラートを購読解除する

- 1 ドキュメントタブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[購読済みアラート] ノードをクリックします。
- 2 購読を解除するアラートを選択します。
- 3 [その他のアクション] > [購読解除] をクリックします。
- 4 確認を求めるメッセージが表示されたら、[購読解除] をクリックします。

12.2.4 ほかのユーザをアラートの購読者として指定する

このタスクは、ほかのユーザをアラートの購読者として指定する場合に実行します。

- 1 アラートソースを見つけて選択します。
- 2 [その他のアクション] > [購読者の管理] をクリックします。

[購読者の管理] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 ナビゲーションペインで、[受信者一覧] が選択されていることを確認します。
 - 4 新しい購読者を追加するには、以下を実行します。
 - a [追加] をクリックします。
 - b [追加] ダイアログボックスで、ユーザおよびグループを [利用可能] リストから [購読済み] リストに移動させ、[デフォルト購読の追加] をクリックします。
 - c 必要に応じてその他のアラート設定を行います。

たとえば、購読するアラート（アラートソースに複数のアラートが含まれる場合）および送信先を変更することができます。アラートソースによっては、その他の設定も行うことができます。
 - 5 購読者の設定を編集する場合、以下の操作を行います。
 - a [受信者一覧] で購読者を選択し、[編集] をクリックします。

[購読の編集] ダイアログボックスが表示されます。
 - b 購読者が受け取るアラートを編集する場合、ナビゲーションリストで [アラート] をクリックし、関連するアラートを選択します。

アラートソースに複数のアラートが含まれている場合、すべてのアラートがここに一覧にされます。複数のアラートが含まれていない場合は、1 つのアラートのみが表示されます。
 - c アラートの送信先を編集する場合、ナビゲーションリストで [送信先] をクリックし、関連する送信先を選択します。

電子メール送信先は、Adaptive Job Server で有効化および設定されている場合に使用することができます。それ以外の場合、[マイアラート] のみを使用することができます。
- 注**
アラートソースによっては、追加の設定を行う必要がある場合があります。
- d [保存して閉じる] をクリックして、[受信者一覧] に戻ります。
- 6 すべての変更を実行した後、[購読者の管理] ダイアログボックスで [保存して閉じる] をクリックします。

12.2.5 ユーザをアラートから除外する

このタスクは、アラートからユーザを除外する場合に実行します。ユーザの除外は、グループの大部分のユーザを購読者として指定するものの、一部は購読者に含めない場合に有用です。購読ユーザを個別に指定するのではなく、グループ全体を購読者として指定し、アラート通知を受け取る必要がないユーザのみを除外することができます。

注

[除外する] リストに含まれると、ユーザのその他すべての購読設定が無効化されます。

- 1 アラートソースに移動します。
- 2 [その他のアクション] > [購読者の管理] をクリックします。

[購読者の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ナビゲーションペインで [除外リスト] が選択されていることを確認します。

- 4 ユーザを [利用可能] リストから [除外する] リストに移動させます。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

関連項目

- ・ 160 ページの [BI 起動パッドにおけるアラートソースオブジェクトの検索](#)

12.2.6 アラートソースのアラート設定を管理する

通常、通知はアラートに設定されたデフォルトの送信先設定を使用して送信されます。次のタスクを実行して、アラートソースに対してカスタム設定を指定します。

- 1 アラートソースに移動します。
- 2 [その他のアクション] > [アラート設定の管理] をクリックします。
[アラート設定の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 BI 起動パッドを送信先として有効化し、[マイアラートの有効化] を選択します。
このオプションを選択して、アラート通知が購読者の BI 起動パッドアカウントに送信され、購読者がアラート通知を [マイアラート] で表示できるようにすることができます。
- 4 送信先として電子メールを有効化するには、[電子メールを有効にする] を選択し、デフォルト電子メール設定とカスタム電子メール設定のどちらを使用するかを選択します。
[アプリケーション] エリアの [アラート] に対する設定がデフォルト設定です。カスタム電子メール設定については、必要に応じて以下のオプションを設定します。
 - ・ 差出人
 - ・ 宛先
 - ・ CC
 - ・ BCC
 - ・ 件名
 - ・ メッセージ
 - ・ 添付ファイルの追加
 - ・ [ファイル名]: [自動生成される名前] または [指定の名前]
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

12.2.7 アラート通知の表示

アラート通知は、BI 起動パッドの送信先または購読者の電子メールアドレスに送信することができます。BI 起動パッドでは、アラート通知を以下のように表示できます。

- ・ 管理者が [ホーム] タブをデフォルトビューに設定している場合。[未読アラート] を選択し、最近 10 件の未読アラート通知リストを表示します。

- ・ [ドキュメント] タブ。ナビゲーションペインの [マイドキュメント] ドロワを展開し、[マイアラート] をクリックします。アラート通知が [一覧] パネルに表示されます。

[アラート情報] ウィンドウには、アラートメッセージや、アラートがいつトリガされたのかが表示されます。[アラート情報] ウィンドウに移動するには、3 つの方法があります。

- ・ [ホーム] タブの [未読アラート] で、通知をクリックします。
- ・ [マイアラート] の [一覧] パネルで、アラートのタイトルをダブルクリックします。
- ・ [マイアラート] の [一覧] パネルでアラートのタイトルを右クリックし、[その他を表示] を選択します。

アプリケーションの使用

13.1 BI 起動パッドでのアプリケーションの使用

BI 起動パッドは、リポジトリとさまざまな SAP BusinessObjects アプリケーションの統合ポイントを提供します。BI 起動パッドからアプリケーションを起動し、関連するオブジェクトを作成、表示または編集して、変更または新しいオブジェクトを直接リポジトリに保存することができます。BI 起動パッドと統合されるアプリケーションには、以下が含まれます。

- ・ BI ワークスペース
- ・ SAP Crystal Reports for Enterprise
- ・ SAP BusinessObjects Analysis edition for OLAP
- ・ Web Intelligence

利用できるアプリケーションと、そこで実行できるタスクは、システム管理者から付与されたライセンスの種類と権限に依存します。

13.2 BI 起動パッドでアプリケーションを起動する

- ・ ホームタブで [マイアプリケーション] モジュールのアプリケーションをクリックします。
- ・ ヘッダパネルで、[アプリケーション] をクリックし、アプリケーションをクリックします。

選択したアプリケーションが新しいダイアログボックスで開きます。

13.3 BI 起動パッドでの BEx Web アプリケーション

BEx Web アプリケーションは、データ分析、レポートティンク、および Web 上の分析アプリケーションのための SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) の Business Explorer (BEx) に含まれている Web ベースのアプリケーションです。

Business Explorer は、SAP NetWeaver Business Intelligence Suite の一部で、ビジネスにおける戦略的分析および意思決定をサポートする柔軟性の高いレポートティンクおよび分析ツールを提供します。これらのツールには、クエリ、レポートティンク、および分析の機能が含まれます。アクセス権を持つ従業員は、Web 上および Microsoft Excel にある履歴データまたは現在のデータを、さまざまな詳細レベルそしてさまざまな角度から評

価することができます。ユーザは、SAP NetWeaver Portal、または BI プラットフォームの BI 起動パッドからデータにアクセスします。

BI 起動パッドから BEx Web アプリケーションを開くには、最初にシステム管理者が BI プラットフォームサーバ設定、および BW システムへの接続設定を行う必要があります。BEx Web アプリケーションの作成者は、Web 項目 (分析、フィルタ枠、チャート、マップ、ドキュメントなど) を使用して、BEx Web Application Designer で SAP NetWeaver BW から取得したデータを書式設定します。

その後、ユーザは BI 起動パッドで BEx Web アプリケーションを開いてデータをナビゲートし、BEx Web アプリケーションのナビゲート状態をブックマークとして Web ブラウザのお気に入り保存できます。

ヒント

作成者は、ツールバーの [実行] を選択することにより、BEx Web Application Designer から直接 BI 起動パッドで BEx Web アプリケーションにアクセスできます。

BEx Web アプリケーションの機能の詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にアクセスし、SAP ヘルプポータルの [SAP NetWeaver 7.3] > [SAP NetWeaver Library: Function-Oriented View] > [Business Warehouse] > [SAP Business Explorer] > [BEx Web] > [Analysis & Reporting: BEx Web Applications] を参照してください。

13.3.1 BI 起動パッドで Business Explorer Web アプリケーションにアクセスする

- 1 BI 起動パッドにログインします。
- 2 以下のいずれかの方法を使用して BEx Web アプリケーションにアクセスします。
 - ・ ホームタブで [マイアプリケーション] モジュールの [BEx Web アプリケーション] をクリックします。
 - ・ ドキュメントタブで、[新規作成] > [BEx Web アプリケーション] をクリックします。
 - ・ ヘッダパネルで、[アプリケーション] > [BEx Web アプリケーション] をクリックします。[BEx Web アプリケーション] タブが作成され、[開く] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 BW システムにログインします。
- 4 [開く] ダイアログボックスで、必要な BEx Web テンプレートを選択します。

注

データソースが BW マスタシステムに格納されている BEx Web テンプレートだけを選択できます。システム管理者は、BI プラットフォームで BW マスタシステムとして設定する BW システムを定義します。

BEx Web アプリケーションが開き、データをナビゲートできるようになります。

注

BI 起動パッドではインフォメーションブロードキャストリングを使用できません。インフォメーションブロードキャストリングには、Enterprise Portal やナレッジマネジメントなどの SAP NetWeaver コンポーネントが必要です。インフォメーションブロードキャストリングは、SAP NetWeaver ランドスケープで実行されている BEx Web アプリケーションでのみ使用でき、BI プラットフォームでは使用できません。

13.3.2 Business Explorer Web アプリケーションをブックマークとして保存する

BI 起動パッドで BEx Web アプリケーションを開いてデータをナビゲートしたら、後で使用するために特定のナビゲート状態を Web アプリケーションに保存できます。

BEx Web アプリケーションの作成者は、対応する Web テンプレートを以下のように設定済みです。

- ・ BEx Web Application Designer で、[コンテキストメニュー] Web 項目の [ブックマーク] パラメータ (MENU_BOOKMARK) が有効化されています。
 - ・ または、Web テンプレートに [ブックマークの保存] コマンド (SAVE_BOOKMARK) が実装されています。
- 1 BEx Web アプリケーションのコンテキストメニューで、[配布およびエクスポート] > [ブックマーク] をクリックします。

注

[ブックマーク] コマンドは BEx Web アプリケーションの設定に応じ、コンテキストメニュー内にあるか、またはボタンとして見つけることができます。

- 2 Web ブラウザのお気に入りの中の必要なフォルダに、BEx Web アプリケーションを保存します。

BEx Web アプリケーションが、ブックマークとして Web ブラウザのお気に入りに保存されました。ブックマークには後でアクセスしたり、他のユーザにリンクとして送信したりすることができます。

注

このブックマークに再度アクセスするには、BW システムにログオンする必要があります。

BEx Web Application Designer、Web 項目、および Web Design API コマンドの詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) にアクセスし、SAP ヘルプポータルの [SAP NetWeaver 7.0 (2004s)] > [SAP NetWeaver Library] > [SAP NetWeaver By Key Capability] > [Information Integration by Key Capability] > [Business Intelligence] > [BI Suite: Business Explorer] > [BEx Web] > [Web Application Design: BEx Web Application Designer] > [Web Design API] を参照してください。

より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

A

ActiveX ビューア 39
Adaptive Job Server 153

B

BCC 12
BEx Web アプリケーション 165
BI 起動パッド 11
 アクセス 21
 基本設定 23
 パブリケーション結果の表示 145
 パブリケーションの作成 118
BI 起動パッドにアップロード 52
BI 受信ボックス
 スケジュール先 77
 パブリケーションの送信先 104
 ファイルのスケジュール先 78
BI プラットフォーム 11
BI プラットフォームのオブジェクト
 ディスカッション 95
 フィードパネル 95
 メモ 95
BI ワークスペース、基本設定 27

C

CMC
 パブリケーション結果の表示 145
 パブリケーションの作成 118
Crystal Reports
 SAP Crystal Reports ビューア 2011
 42
 基本設定 26
 公開形式 109
 スケジュール形式 72
 データベースログオンの設定 138
 配信ルール 101, 135, 136
Crystal レポート
 PDF のマージ 113
 PDF ファイルのマージ
 書式設定 136
 アラート 43
 印刷 44, 135
 インスタンスの形式 71
 エクスポート 45
 形式
 指定 128
 追加のオプション 128
 スケジュール 67

Crystal レポート (続き)
 ツールバー 41
 動的受信者ソースのトラブルシュー
 ティング 152
 トラブルシューティング 151
 ドリル 43
 パーソナライゼーション
 パラメータを使用した 126
 ローカルプロファイルターゲット
 127
 ビューア 37
 表示 37
Crystal レポートのエクスポート 45
CSV、スケジュール形式 72

E

Enterprise 受信者の追加 120
Enterprise の場所とパブリケーション 104
Excel、スケジュール形式 72

F

FTP サーバ、スケジュール先 78
FTP(出力先)
 スケジュール先 77
 パブリケーション 104

J

Java ビューア 40

M

mHTML 125

O

OpenDocument リンク 57

P

PDF
 結合 113
 スケジュール形式 72
PVL 25

R

Report Application Server 152

S

SAP BusinessObjects Analysis, edition
 for OLAP 27
SAP BusinessObjects Business
 Intelligence プラットフォーム 11
SAP BusinessObjects Live Office 117
SAP StreamWork
 Crystal レポート 93
 Web Intelligence ドキュメント 93
 概要 91
 ドキュメントのスケジュール 93
 ドキュメントの送信 93
 ドキュメントのフィード 92
 フィード 91
SAP StreamWork 統合 12
SAP StreamWork フィード 91

T

TXT、スケジュール形式 72

W

Web Intelligence ドキュメント
 Excel 形式 32
 インスタンスの形式 71
 基本設定 27
 形式の指定 133
 公開形式 109
 スケジュール 67
 デフォルトユニバース 29
 トラブルシューティング 151
 ドリル 30, 49
 ナビゲーションマップ 48
 パーソナライゼーション 133, 134
 表示 46
 表示ロケール 29
 変更インタフェース 28
 ユーザプロンプト 48
Web Intelligence ビューア
 ツールバー 47
Web ビューア 37
Word、スケジュール形式 72

X

XML、スケジュール形式 72

あ

アカウント設定 23
 パスワード 24
 アクセス権
 アラート 157
 公開 114, 116
 アプリケーション 165
 アラート
 アラートソース 155, 156
 概要 155
 必要な権限 157
 表示 43
 ワークフロー 157
 アンマネージドディスク、スケジュール先 78

い

一覧パネル 20
 イベント 84
 パブリケーション 141
 印刷
 Crystal レポートパブリケーション 135
 スケジュール設定 83
 レポート 44
 インスタンス 88
 一時停止 86
 再開 86
 再配布 148
 送信 55
 タイトル 68
 表示 88
 インデックスの一時停止 86
 インデックスの再開 86

お

オブジェクト 51
 BI 起動パッドに追加 52
 検索 58, 63
 コピー 54
 削除 57
 作成 51
 スケジュール 67
 送信 55
 並べ替え 53
 オブジェクト 53
 ファイル 53
 表示 35

オブジェクト (続き)
 フィルタ処理 53
 オブジェクト 53
 ファイル 53
 割り当て
 カテゴリに 66
 フォルダに 66
 オブジェクトのコピー 54
 オブジェクトの並べ替え 53
 オブジェクトパッケージ 87

か

会社用カテゴリ 66
 外部受信者 103
 カテゴリ 64
 会社用と個人用 66
 削除 57
 プロパティ 65
 カレンダ 69
 監査通知 141

き

キーワード 54
 基本設定 23
 BI ワークスペース 27
 Crystal レポート 26
 SAP BusinessObjects Analysis, edition for OLAP 27
 概要 23
 タイムゾーン 25
 パスワード 24
 ロケール 25

く

区切り値、スケジュール形式 72
 繰り返し 69
 グループ選択式 82
 グローバル配信ルール 136
 グローバルプロファイルターゲット 133

け

形式 133
 Crystal レポート 128
 mHTML 125
 Web Intelligence ドキュメント 133
 インスタンス 71
 パブリケーション 109
 検索
 オブジェクト 58
 機能 58
 混合言語 58

検索 (続き)

 コンテンツ 63
 順位 58
 テクニック 61
 ファイルの種類 59

こ

公開 99
 SAP 統合 117
 アクセス権 114, 116
 インスタンスの形式 71
 購読 113, 144
 高ボリュームのパブリケーション 150
 大容量パブリケーション 100
 個人用カテゴリ 66
 個別ドキュメント名 12

さ

サードパーティソースドキュメント
 置換 120
 サーバ
 トラブルシューティング 150
 サーバグループ 85
 最新表示
 静的ソースドキュメントデータ 120
 ソースドキュメントデータ 100, 151

し

失敗したパブリケーションの再試行 149
 受信者
 インスタンスの再配布 148
 動的 103
 配信ルール 135
 パブリケーションのパーソナライゼーション 111
 出力先
 指定 122
 スケジュール 78
 スケジュールの場所 77
 送信 55
 電子メール 125
 パブリケーション 104
 パブリケーション名 107, 123
 出力先のパーソナライズされたプレースホルダ 12
 詳細パネル
 オブジェクトの概要情報 20
 ドキュメントのフィードパネル 20
 処理サーバ 151
 新規オブジェクト 51
 新機能 12

す

スケジュール 67
 イベント 84, 141
 キャッシング 85
 形式 70, 72
 サーバグループ 141
 出力先の場所 77
 設定
 印刷 83
 サーバグループ 85
 選択式 82
 データベースログオン 70
 パブリケーション 126, 145
 パラメータ 83
 実行時 69
 フィルタ 82
 スケジュール中のキャッシング 85
 スケジュール用サーバグループ 141

せ

静的ソースドキュメント
 置換 120
 選択
 Enterprise 受信者 120
 選択式 82

そ

ソースドキュメント、トラブルシューティング
 151

た

タイムゾーン 25
 タブ 21, 36

つ

ツールバー 18

て

ディスカッション 95, 96, 97
 データの最新表示 100, 151
 静的ソースドキュメント 120
 データベース
 ログオン、Crystal レポート 138
 データベースのフェッチ 100, 142
 テストモード 143
 電子メール
 スケジュール先 77, 78
 通知 140

電子メール (続き)

パブリケーションインスタンスのトラブル
 シューティング 153
 パブリケーションコンテンツの埋め込
 み 125
 パブリケーションの送信先 104

と

動的受信者 103
 ソース 103
 追加 121
 トラブルシューティング 152
 ドキュメント
 ローカルドライブからの追加 52
 ドキュメントタブ 18, 20
 一覧パネル 20
 ツールバー 18
 ドロウ 19
 ナビゲーションパネル 19
 パネル、ナビゲーション 19
 トラブルシューティング
 失敗したパブリケーション 149
 ソースドキュメント 151
 電子メールパブリケーションインス
 タンス 153
 動的受信者ソース 152
 パフォーマンス 150
 ドリル
 Crystal レポート 43
 Web Intelligence ドキュメント 49
 ドリルオプション 30
 ドロウ 19

な

ナビゲーションパネル 19

は

パーソナライズされたプレースホルダ
 109, 124
 パーソナライゼーション
 Crystal レポート 126, 127
 Web Intelligence ドキュメント 133, 134
 パブリケーション 111
 配信ルール 101
 グローバル 136
 受信者 135
 パスワードの変更 24
 パネル、ヘッダ 17
 パフォーマンスの向上 150
 パブリケーション 99, 117
 Enterprise 受信者の追加 120
 SAP BusinessObjects Live Office 117

パブリケーション (続き)

一般プロパティ 119
 インスタンスの再配布 148
 形式 109
 結果の表示 145
 購読と購読解除 113, 144
 最終処理 143
 作成
 BI 起動パッド 118
 CMC 118
 出力先 104
 スケジュール 126, 145
 ソースドキュメントの追加 119
 追加のオプション 134
 テスト 143
 電子メールへのコンテンツの埋め込
 み 125
 動的受信者 103, 121
 名前のパーソナライゼーション 107,
 123
 パーソナライゼーション 111
 配信ルール 101
 パブリケーション拡張 112
 開く 118
 プレースホルダ 111
 レポートバースト 100
 パブリケーションインスタンスの再配布
 148
 パブリケーション拡張 112, 139
 パブリケーションの電子メール送信
 パーソナライズされたプレースホルダ
 の使用 109, 124
 パブリケーションファイル
 パブリケーションのパーソナライゼー
 ション 107, 123
 パブリケーション名
 パーソナライゼーション 107, 123
 プレースホルダ 107, 123
 パラメータ
 Crystal レポート 126
 スケジュール 83

ひ

ピン留め 36

ふ

ファイル 51
 検索 58
 並べ替え 53
 表示 35
 フィルタ処理 53
 ファイル場所、スケジュール先 78
 フィルタ
 オブジェクト 53

フィルタ (続き)

パブリケーションデータ 111

フィルタによるスケジュール 82

フォルダ 64

オブジェクトの追加 66

削除 57

プロパティ 65

プラットフォーム検索 58, 61, 63

プレースホルダ 107, 111, 123

プレースホルダの追加

パーソナライズ値 109, 124

プレーンテキスト、スケジュール形式 72

プロパティ 54

プロファイル

プロファイルの解決 142

プロンプト 83, 138

へ

ヘッダパネル 17

ほ

ホームタブ 17

ま

マージされた PDF ファイル、書式設定
136

も

モジュール

[ホーム]タブ 17

ゆ

優先表示ロケール 25

ユニバース 29

よ

要約ページ、パブリケーション 143

り

リッチテキスト、スケジュール形式 72

れ

レコード選択式 82

レポートタブの公開 133

レポートバースト 100, 142

サードパーティソースドキュメント 120

静的ソースドキュメント 120

レポートビューア

ActiveX 39

Crystal レポート 26

Java 40

SAP Crystal Reports ビューア 2011

42

Web 37

ろ

ローカルディスク 104

スケジュール先 77

ローカルプロファイルターゲット

Crystal レポート 127

Web Intelligence ドキュメント 134

ログオン 21

ロケール 25

わ

ワークフロー

アラート 157